

周防畑遺跡群

# 道 常 遺 跡 Ⅲ

長野県佐久市長土呂 道常遺跡Ⅲ発掘調査報告書

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 257 集

周防畑遺跡群

# 道 常 遺 跡 III

長野県佐久市長土呂 道常遺跡Ⅲ発掘調査報告書

2 0 1 8

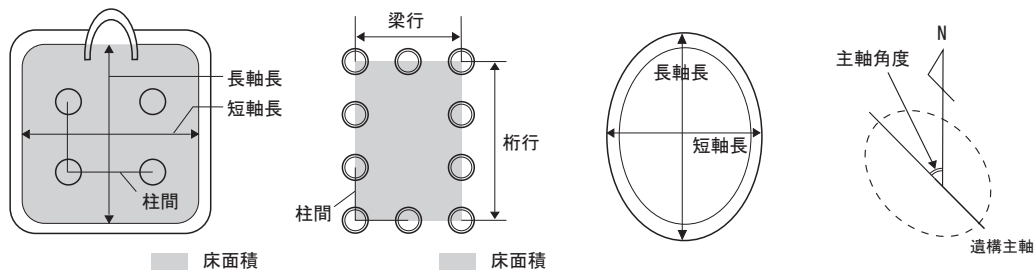
佐久市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は株式会社 SKY によるサービス付高齢者向け住宅建設に伴う周防畑遺跡群道常遺跡Ⅲの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 株式会社 SKY
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び所在地 周防畑遺跡群 道常遺跡Ⅲ (NSDJ Ⅲ)  
佐久市長土呂字道常 1248-1 外
- 5 調査期間及び面積 期間：平成 29 年 7 月 21 日～平成 29 年 10 月 20 日  
面積：1,352 m<sup>2</sup>
- 6 調査担当者 久保 浩一郎
- 7 本書の編集・執筆は久保が行った。陶磁器類については(財)長野県埋蔵文化財センターの市川隆之氏にご教示いただいた。
- 8 本調査において出土した遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

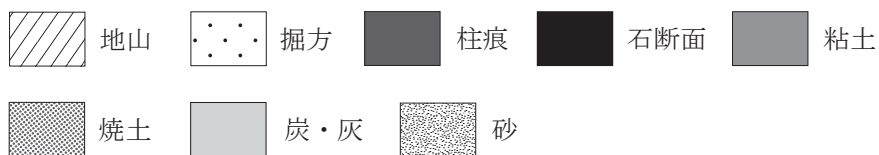
## 凡 例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。  
H－竪穴住居址 Ta－竪穴状遺構 F－掘立柱建物址 D－土坑 M－溝址 P－ピット
- 2 遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。
- 3 遺構の計測値は以下の値である。

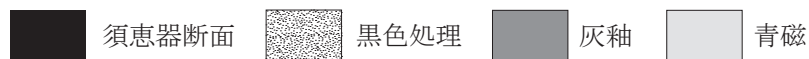


- 4 スクリーントーン表示は以下のとおりである。

### 遺構図



### 遺物図



- 5 遺物の実測図番号と写真番号は対応し、特に記載のないものは縮尺 1/4 で掲載した。
- 6 本書で示した方位は真北であり、座標値は世界測地系に準拠している。
- 7 ピット一覧表及び遺物観察表における( )は推定値を、〈 〉は残存値を示す。

## 目次

第Ⅰ章 発掘調査の経過	1
第1節 発掘調査の経緯	1
第2節 調査組織	1
第3節 遺跡周辺の地理的環境	2
第4節 遺跡周辺の歴史的環境	2
第5節 発掘調査の方法	4
第6節 基本層序	4
第7節 遺構・遺物の概要	4
第Ⅱ章 遺構と遺物	7
第1節 竪穴住居址	7
第2節 竪穴状遺構	17
第3節 掘立柱建物址	22
第4節 土坑	27
第5節 溝址	48
第6節 ピット	49
第Ⅲ章 総括	62

## 挿図目次

第1図 道常遺跡Ⅲ位置図	1	第34図 D20・D21・D22・D23・D24・D25・D26号土坑遺構図	32
第2図 道常遺跡Ⅲ周辺遺跡分布図	3	第35図 D27・D28・D29・D34・D35・D40号土坑遺構図	34
第3図 グリッド設定図	4	第36図 D30・D31・D32・D33・D38・D39・D50・D51号土坑遺構図	35
第4図 基本層序模式図	4	第37図 D36・D37・D61・D62・D63号土坑遺構図	36
第5図 調査区全体図	5	第38図 D41・D42・D43・D44・D46・D47・D48・D49・D52号土坑遺構図	37
第6図 H1号・H2号住居址遺構図	7	第39図 D45号土坑遺構図・遺物実測図	38
第7図 H3号・H4号住居址遺構図・遺物実測図	8	第40図 D53・D54・D67号土坑遺構図・遺物実測図	39
第8図 H8号住居址遺構図	9	第41図 D55・D56・D57・D58・D59号土坑遺構図・遺物実測図	40
第9図 H8号住居址遺物実測図	10	第42図 D60・D64・D65・D66・D68・D69号土坑遺構図	41
第10図 H9号・H11号・H18号住居址遺構図・遺物実測図	11	第43図 D71・D72・D73・D74・D75号土坑遺構図・遺物実測図	43
第11図 H10号住居址遺構図・遺物実測図	12	第44図 D76・D77・D78・D79・D80・D81・D82・D83・D84号土坑遺構図・遺物実測図	44
第12図 H12号住居址遺構図・遺物実測図	13	第45図 D85・D86・D87・D88・D89号土坑遺構図	46
第13図 H13号住居址遺構図・遺物実測図	14	第46図 D90・D91・D92・D93・D96・D97・D98号土坑遺構図	47
第14図 H14号住居址遺構図・遺物実測図	15	第47図 M1・M2・M3・M4号溝址遺構図	48
第15図 H15号住居址遺構図・遺物実測図	15	第48図 調査区分割図1	54
第16図 H16号住居址遺構図	16	第49図 調査区分割図2	54
第17図 H17号住居址遺構図	16	第50図 調査区分割図3	55
第18図 Ta1号竪穴状遺構遺構図・遺物実測図	17	第51図 調査区分割図4	55
第19図 Ta2号竪穴状遺構遺構図・遺物実測図	18	第52図 調査区分割図5	56
第20図 Ta3号竪穴状遺構遺構図	19	第53図 調査区分割図6	57
第21図 Ta3号竪穴状遺構遺構図2・遺物実測図	20	第54図 調査区分割図7	58
第22図 Ta4号竪穴状遺構遺構図	21	第55図 調査区分割図8	59
第23図 Ta5号竪穴状遺構遺構図	21		
第24図 F1号掘立柱建物址遺構図	23		
第25図 F2号掘立柱建物址遺構図	24		
第26図 F3号掘立柱建物址遺構図	25		
第27図 F4号掘立柱建物址遺構図	26		
第28図 F5号掘立柱建物址遺構図	26		
第29図 F6号掘立柱建物址遺構図	27		
第30図 D1・D2・D3・D4・D5・D6・D7号土坑遺構図	28		
第31図 D8・D9号土坑遺構図	29		
第32図 D10・D11・D12・D13・D14・D15号土坑遺構図	30		
第33図 D16・D17・D18・D19号土坑遺構図	31		

## 表目次

第1表 周辺の主な発掘調査一覧	3
第2表 ピット一覧表1	49
第3表 ピット一覧表2	50
第4表 ピット一覧表3	51
第5表 ピット一覧表4	52
第6表 ピット一覧表5	53
第7表 遺物観察表1	60
第8表 遺物観察表2	61



## 第Ⅰ章 発掘調査の経過

### 第1節 発掘調査の経緯

道常遺跡は、佐久市長土呂に所在する弥生時代から中世までの複合遺跡である（第1図）。本遺跡周辺は、佐久市有数の遺跡密集地域であると同時に、平成9年の北陸新幹線佐久平駅の開業を契機に、近年急速に開発が進んでいる地域である。

本調査区に隣接する東側では、平成21年度から平成24年度まで、区画整理事業に伴う発掘調査が実施されている。本事業対象地内の一部は、このとき発掘調査が行われており、弥生時代から中世までの集落跡が確認されていたため、本事業対象地内にも集落跡が続くと考えられていた。

平成26年12月5日、当時の地権者から佐久市教育委員会に埋蔵文化財発掘調査についての依頼があり、平成27年1月21日・22日に佐久市教育委員会による確認調査が実施され、対象地全域で奈良時代から中世の住居址や土坑が確認された。

今回、株式会社SKYが対象地に高齢者向け住宅の建設を計画したことにより、平成29年5月8日、長野県教育委員会に埋蔵文化財発掘の届出がなされた。平成26年度における確認調査結果に基づき、株式会社SKYと佐久市教育委員会による遺跡の保護協議が行われた結果、遺跡の保存が困難な建物部分、敷地周囲の擁壁設置部分及び道路拡幅部分の1,352㎡について、記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。



第1図 道常遺跡Ⅲ位置図

### 第2節 調査組織

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長 棚澤 晴樹
事務局	社会教育部長 文化振興課長 文化振興課企画幹 文化財調査係長 文化財調査係  臨時職員 調査担当者 調査員	荻原 幸一（平成29年度） 青木 源（平成30年度） 小林 義夫 小林 登志郎（平成29年度） 武者 新一（平成30年度） 大塚 広樹（～平成29年9月） 塩川 宏幸（平成29年10月～） 小林 眞寿 富沢 一明 上原 学 荻原 義治（平成30年7月～） 久保 浩一郎 岩下 琴（～平成30年6月） 森泉 かよ子 久保 浩一郎 赤羽根 篤 赤羽根 充江 浅沼 勝男 甘利 隆雄 岩崎 重子 大矢 志慕 小幡 弘子 木内 修一 小林 妙子 小林 敏雄 堺 益子 清水 律子 田中 ひさ子 中澤 登 橋詰 勝子 橋詰 信子 林 まゆみ 比田井 久美子 堀籠 保子 柳澤 孝子 横尾 敏雄 依田 好行

### 第3節 遺跡周辺の地理的環境

佐久市は長野県中央東端、群馬県に接し四方を山地・台地に囲まれた標高700m程度の盆地内に位置する。佐久平と呼ばれるこの盆地は、東に佐久山地、北に浅間山、南に蓼科山・八ヶ岳を望み、その中央には千曲川が北流する。千曲川左岸の佐久平南部は蓼科・八ヶ岳から緩やかに伸びる山裾と、そこを流れる小河川により形成された小規模な扇状地及び千曲川の沖積低地が広がっている。一方千曲川右岸の佐久平北部は、約23,000年前と推定される塚原泥流や、約13,000～10,000年前の軽石流など、浅間山の火山噴出物により形成された台地である。佐久市北部にはこの軽石流が河川の浸食を受けて形成された浸食谷、いわゆる「田切り地形」が特徴的に発達しており、田切りの谷に挟まれた台地ごとに、遺跡群が形成されている。

今回発掘調査を実施した道常遺跡周辺は、浅間山麓から帯状に続く田切り台地の末端部に位置する（第2図）。田切り地形における台地と谷の高低差が消失し、濁川の氾濫低地における水田地帯との境界部に位置する。近年急速に宅地化が進んでいるが、第2図の埋蔵文化財包蔵地の空白が示すように、北東から南西に延びる埋没低地が存在している。

### 第4節 遺跡周辺の歴史的環境

本遺跡周辺では、大規模開発に伴う発掘調査により、豊富な考古資料が得られている。

**縄文時代** 中部横断自動車道建設に伴う西近津遺跡群（7）の発掘調査で、草創期から後期の土器が出土し、中期後半の住居址が検出されている。また、西近津遺跡Ⅷ（8）では後期の住居址が検出され、土偶や石棒なども出土している。従来、縄文時代の集落は佐久平周辺の山裾に展開していたと考えられていたが、近年の調査成果から本遺跡周辺でも集落が営まれていたことがわかってきている。

**弥生時代** 前・中期集落は本遺跡より南側の湯川沿岸に偏って分布しているが、後期には本遺跡周辺に大規模な集落が形成される。濁川の氾濫低地を生産域にしていたと考えられ、南近津遺跡Ⅲ・宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ他（2）、周防畑B遺跡（5）、周防畑遺跡群（6）、西近津遺跡群（7）では、後期の集落と周溝墓などの墓域も確認されている。しかしこれらの集落は弥生時代の終焉とともに断絶する。

**古墳時代** 古墳時代になると、台地縁辺部に小規模集落が散見される程度となる。本遺跡周辺でも中期後半までの生活痕跡は希薄となる。中期後半になると再び集落が形成され、これらの集落は平安時代まで継続することが多い。南近津遺跡Ⅲ・宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ他（2）、大豆田遺跡Ⅳ（4）、西近津遺跡群（7）などで、当該期から平安時代まで継続する集落が確認されている。

**奈良・平安時代** 集落は古墳時代から継続して営まれており、本調査区において本格的な居住の痕跡が認められるのはこの時期からである。本遺跡を含め周辺の発掘調査では布目瓦が一定量出土しており、周辺にその存在が想定される「妙楽寺」に関わるものと考えられる。南近津遺跡Ⅲ・宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ他（2）では、「大井」や「令」などをはじめとする墨書土器、円面硯や帯金具なども出土しており、ある種公的な集落であったことが想定される。しかし、10世紀以降は住居址が減少し、集落が衰退していったと考えられる。

**中世** 平安末期には、岩村田を中心とした千曲川右岸に八条院領の大井荘があったと考えられ、鎌倉時代になると、小笠原長清の子、朝光が大井荘に土着し大井氏を名乗るようになる。大井氏は岩村田を中心とする佐久北部に勢力を振り、13世紀末には大井光泰が長土呂を知行したといわれる。

南近津遺跡Ⅲ・宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ他（2）及び大豆田遺跡Ⅳ（4）では、中世の竪穴状遺構や井戸址、溝址等が検出されている。これらの調査成果から、本遺跡周辺では中世に大規模な開発が行われたことがわかってきた。本調査区で検出された竪穴状遺構や土坑の多くも、中世の所産と考えられ、周辺における開発の中で、本遺跡も形成されたものと考えられる。



第2図 道常遺跡Ⅲ周辺遺跡分布図

	遺跡名	検出遺構	報告書
1	道常遺跡Ⅲ	竪穴住居址15(奈・平)、竪穴状遺構5、掘立柱建物址6、土坑98、溝址4、ピット451	第257集
2	南近津遺跡Ⅲ 宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ他	竪穴住居址512(弥生～平安)、竪穴建物址5、掘立柱建物址182、周溝墓33、土坑402、溝址114、ピット4,922	第198集 第240集
3	大豆田遺跡Ⅰ・Ⅱ	竪穴住居址26(弥生～平安)、掘立柱建物址9、土坑34、溝址22	第156集
4	大豆田遺跡Ⅳ	竪穴住居址26(弥生～平安)、竪穴建物址3、掘立柱建物址33、土坑139、溝址76、ピット	第229集
5	周防畑遺跡	竪穴住居址41(弥生～平安)、周溝墓2、土坑17	昭和56年
6	周防畑遺跡群	竪穴住居址92(弥～平)、掘立柱建物址9、周溝墓15、土坑422	長野県埋蔵文化財 センター 105集
7	西近津遺跡群	竪穴住居址548(縄～平)、竪穴建物址4、掘立柱建物址122、周溝墓22、土坑2,474、溝址43	長野県埋蔵文化財 センター 104集
8	西近津遺跡Ⅷ	竪穴住居址25(縄～平)、周溝墓3、土坑37、溝址3	第207集

第1表 周辺の主な発掘調査一覧



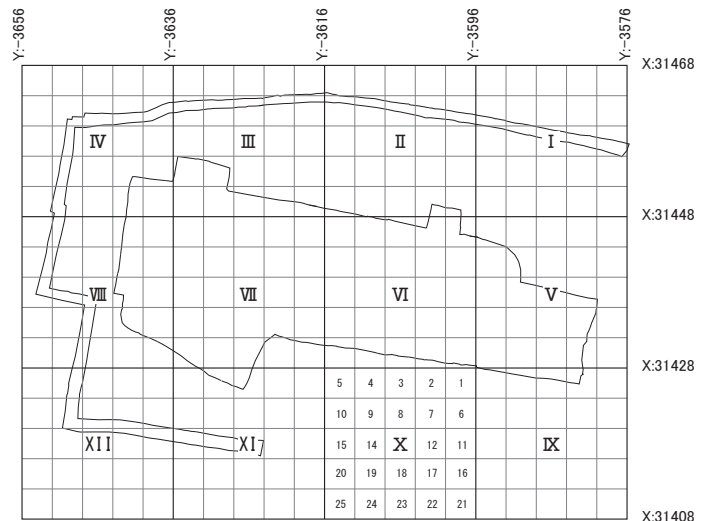
## 第5節 発掘調査の方法

発掘調査は、平成29年7月21日～平成29年10月20日に実施した。重機により遺構確認面である地山（第4図Ⅵ層）上面まで掘削した後、調査区内に国土地理院の平面直角座標系原点第Ⅷ系を基点とするグリッドを設定した（第3図）。調査区北東端のX=31468、Y=-3576を起点とし、ローマ数字名を付した20m四方の大グリッドと、大グリッド内を25分割した4m四方の小グリッドの組み合わせによりグリッド名を付した。

グリッド杭打設後、人力により遺構確認面の精査・遺構検出を行い、遺構外出土遺物はグリッド単位で取上げた。

検出した遺構については、遺構ごとに遺構埋土の土層観察・記録を行いながら掘下げ、完掘後にグリッド杭を用いた簡易遺方測量により平面図を作成した。

写真はデジタル一眼レフカメラによるRAW及びJPEGデータと、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルフィルムを用いて記録した。



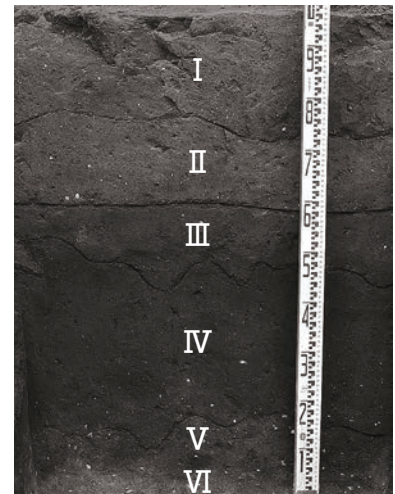
第3図 グリッド設定図

## 第6節 基本層序

本調査区における基本層序は以下の6層に大別できる。

- I層 ぶい黄褐色土 (10YR4/3) 現代の畑耕作土
- II層 灰黄褐色 (10YR4/2) ～ 褐灰色土 (10YR4/1) 近世以降の耕作土と考えられ、陶磁器片を含む。下位III層との層界は明瞭。
- III層 暗赤褐色土 (5YR3/2) 堆積層。対象地西端部で確認される。
- IV層 黒色シルト質土 (10YR2/1) 堆積層。対象地西端部で確認される。
- V層 褐色土 (7.5YR4/3) IV層からVI層の中間層
- VI層 明黄褐色土 (10YR6/6) 浅間第一軽石流の地山層。

調査区西端部を除いて、III～V層は削平されているため、遺構検出はVI層上面で行った。



第4図 基本層序模式図

## 第7節 遺構・遺物の概要

- 遺構 竪穴住居址15軒（奈良・平安時代）、竪穴状遺構5基（中世）、掘立柱建物址6軒、土坑98基、溝址4条、ピット451基
- 遺物 弥生土器、土師器（甕・坏・皿）、須恵器（壺・甕・坏・坏蓋・有台坏等）、陶磁器（灰釉陶器・古瀬戸・青磁）石器（打製石斧・擦石・敲石）、石製品（砥石・硯）、鉄製品（角釘・刀子・鎌等）、銅銭、瓦



第 5 図 調査区全体図

## 第Ⅱ章 遺構と遺物

### 第1節 竪穴住居址

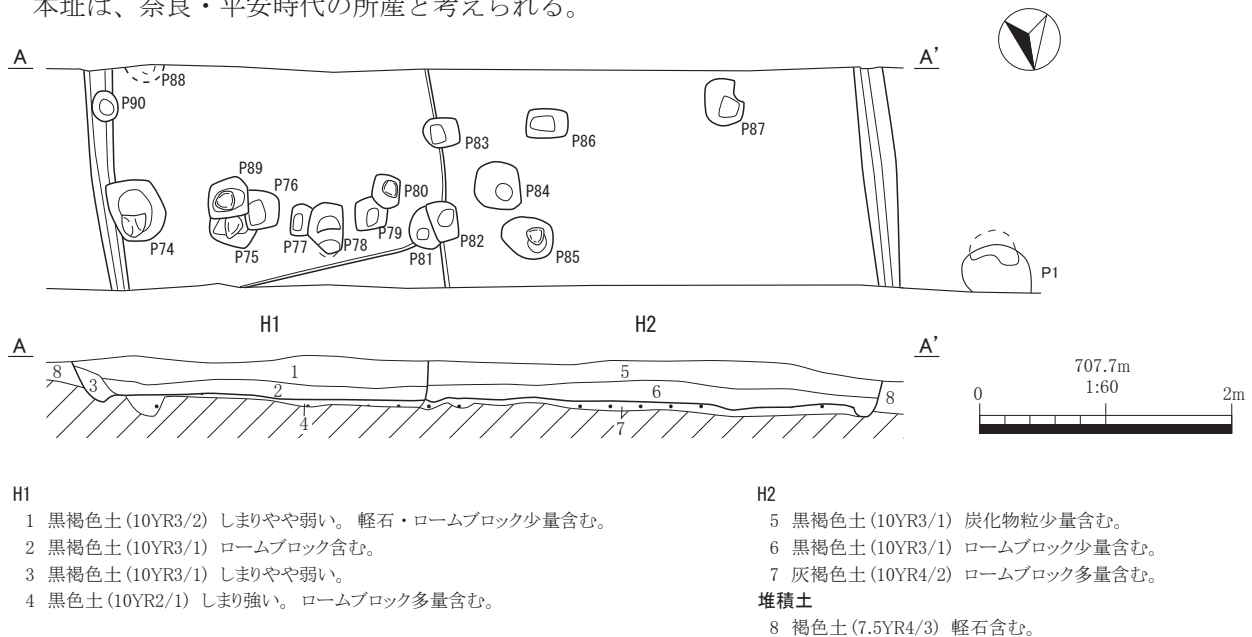
本調査区からは15軒の竪穴住居址が検出された。調査区内で全容を把握できないもの、または出土遺物が少なく時期を特定するのが困難なものもあるが、いずれも奈良・平安時代の所産と考えられる。

**H1号住居址**（第6図） XI-15グリッドに位置し、H2号住居址より新しく、P74～P83、P89・P90より古い。南北両側が調査区外のため全容は不明だが、東西2.8m、主軸はN-10°-Wである。検出面から床面までの深さは約35cmであり、堅固な床面を有する。堀方は床面より1～16cm深い。ピットは堀方でP88の1基が確認された。遺物はわずかな破片資料のみであるが、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

本址は、奈良・平安時代の所産と考えられる。

**H2号住居址**（第6図） XII-11グリッドに位置し、H1号住居址、P82～P87より古い。南北両側が調査区外のため全容は不明だが、東西3.7m、主軸はN-9°-Wである。検出面から床面までの深さは約35cmであり、床面はわずかにしめる程度である。堀方は床面から7cm程度深い。遺物はわずかな破片資料のみであるが、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

本址は、奈良・平安時代の所産と考えられる。

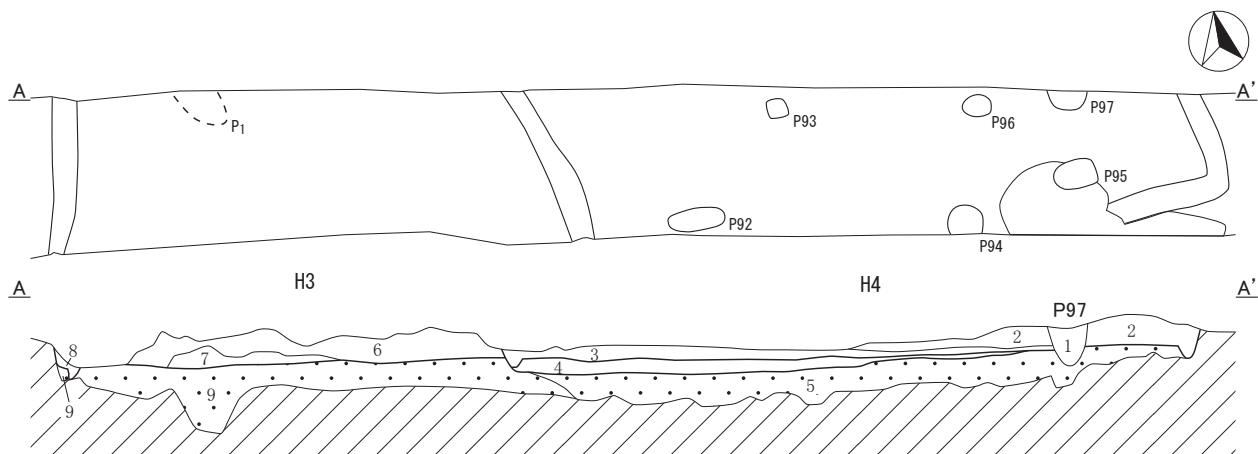


第6図 H1号・H2号住居址遺構図

**H3号住居址**（第7図） II-6・7グリッドに位置し、H4号住居址より古い。南北両側が調査区外のため全容は不明だが、東西4.2m以上、主軸はN-1°-Wである。検出面から床面までの深さは約30cmであり、床面はわずかに締まる程度である。堀方は床面より25cm程度深い。ピットは堀方で1基検出された。

遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品が出土している。1～4は土師器の坏である。いずれもロクロ整形で、内面には黒色処理が施される。5・6は須恵器の坏である。底部には回転糸切痕を留め、焼成はやや不良である。7は灰釉陶器の碗と考えられる。8～12は土師器の甕であり、口縁部はコの字を呈する。13は須恵器の壺の肩部である。14・15は須恵器の甕の底部と考えられる。16は刀子である。17は鎌である。

出土遺物から、本址は9世紀前半の所産と考えられる。



#### H4

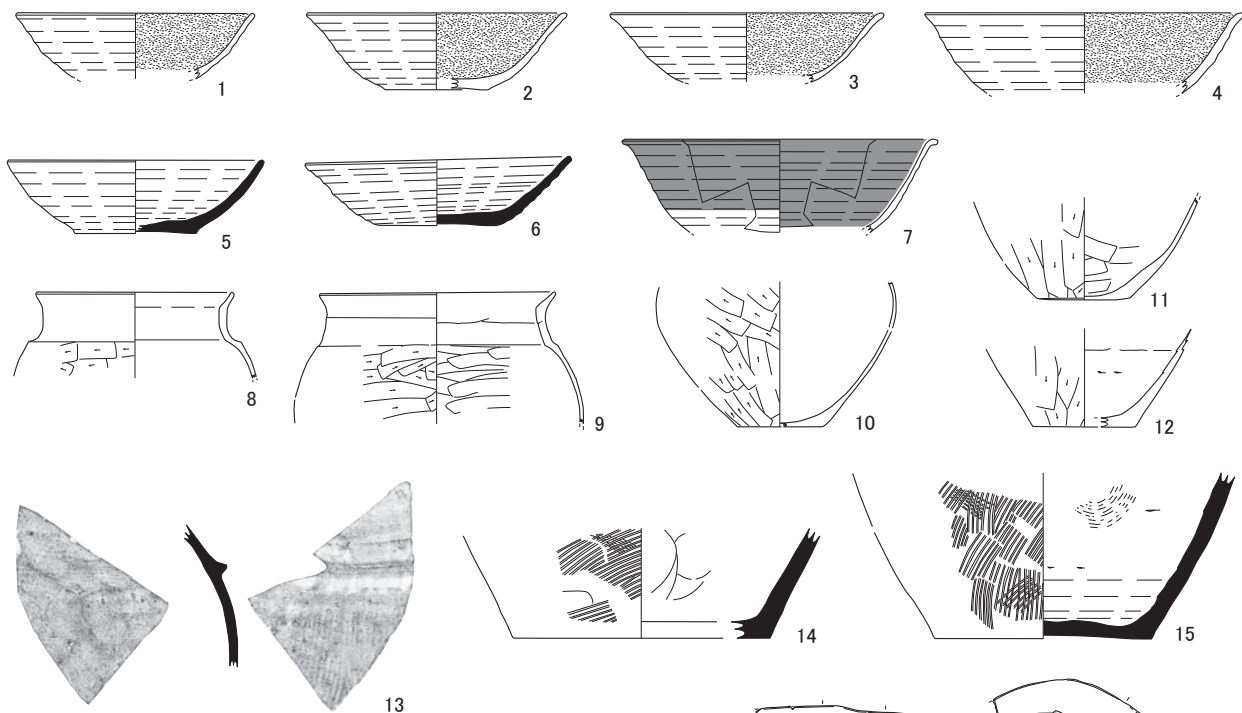
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石少量含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石・ロームブロック少量含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/1) 一部しまり強い。ロームを帯状に含む。
- 5 にぶい黄褐色土 (10YR6/4) しまり強い。黒褐色土ブロック多量含む。

#### H3

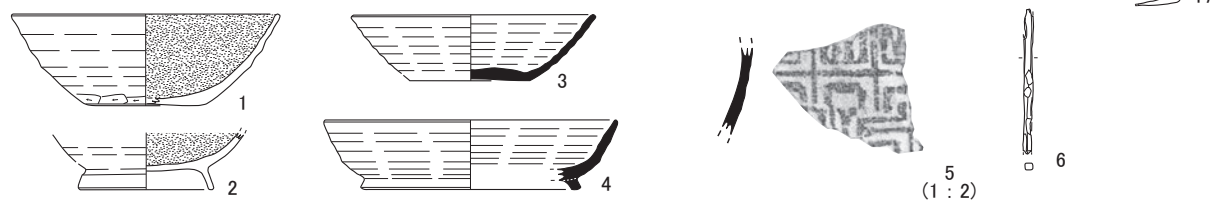
- 6 褐灰色土 (10YR4/1) 軽石・ロームブロック多量含む。
- 7 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石少量含む。
- 8 黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや弱い。
- 9 にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 黒褐色土ブロック多量含む。



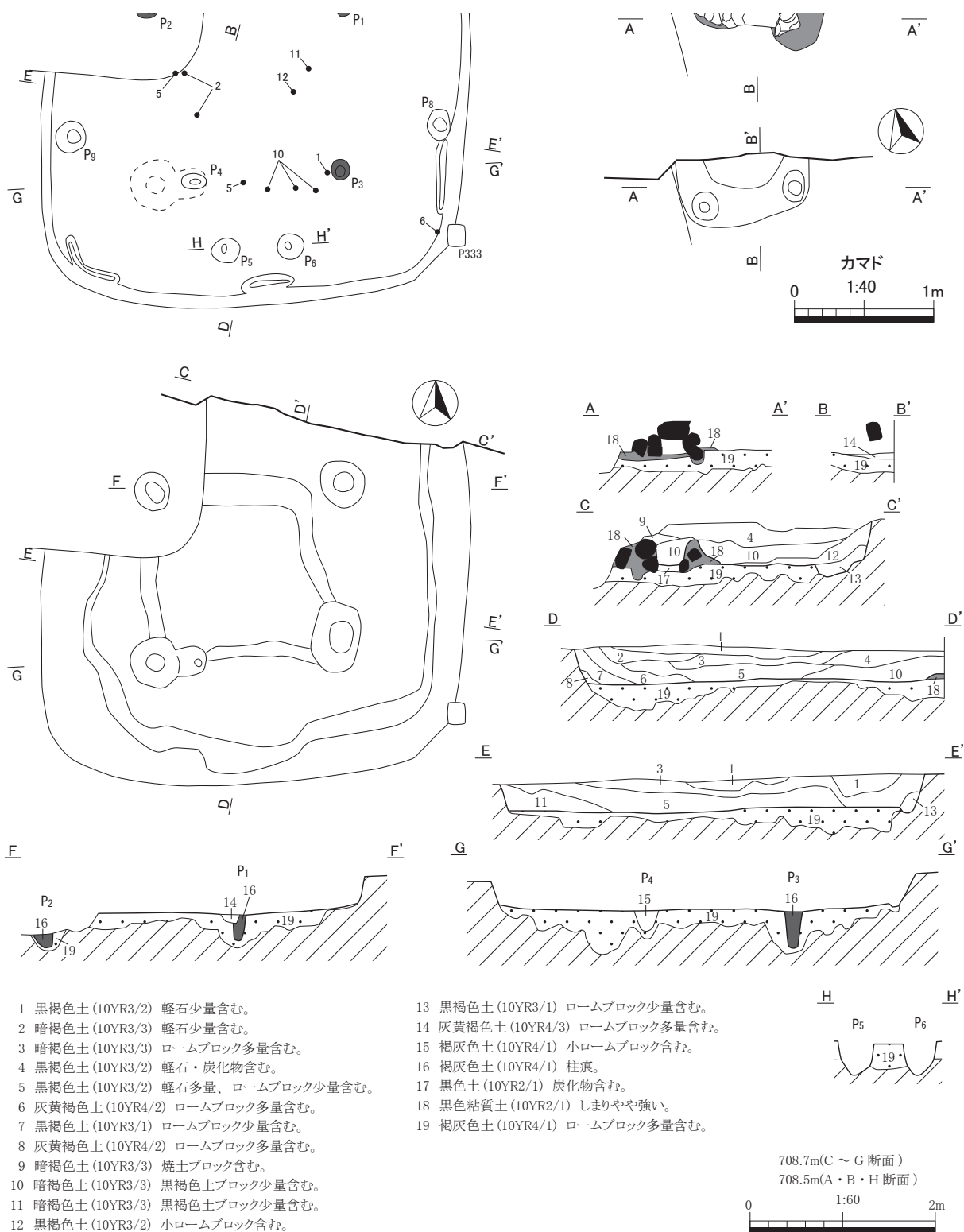
#### H3 号住居址



#### H4 号住居址

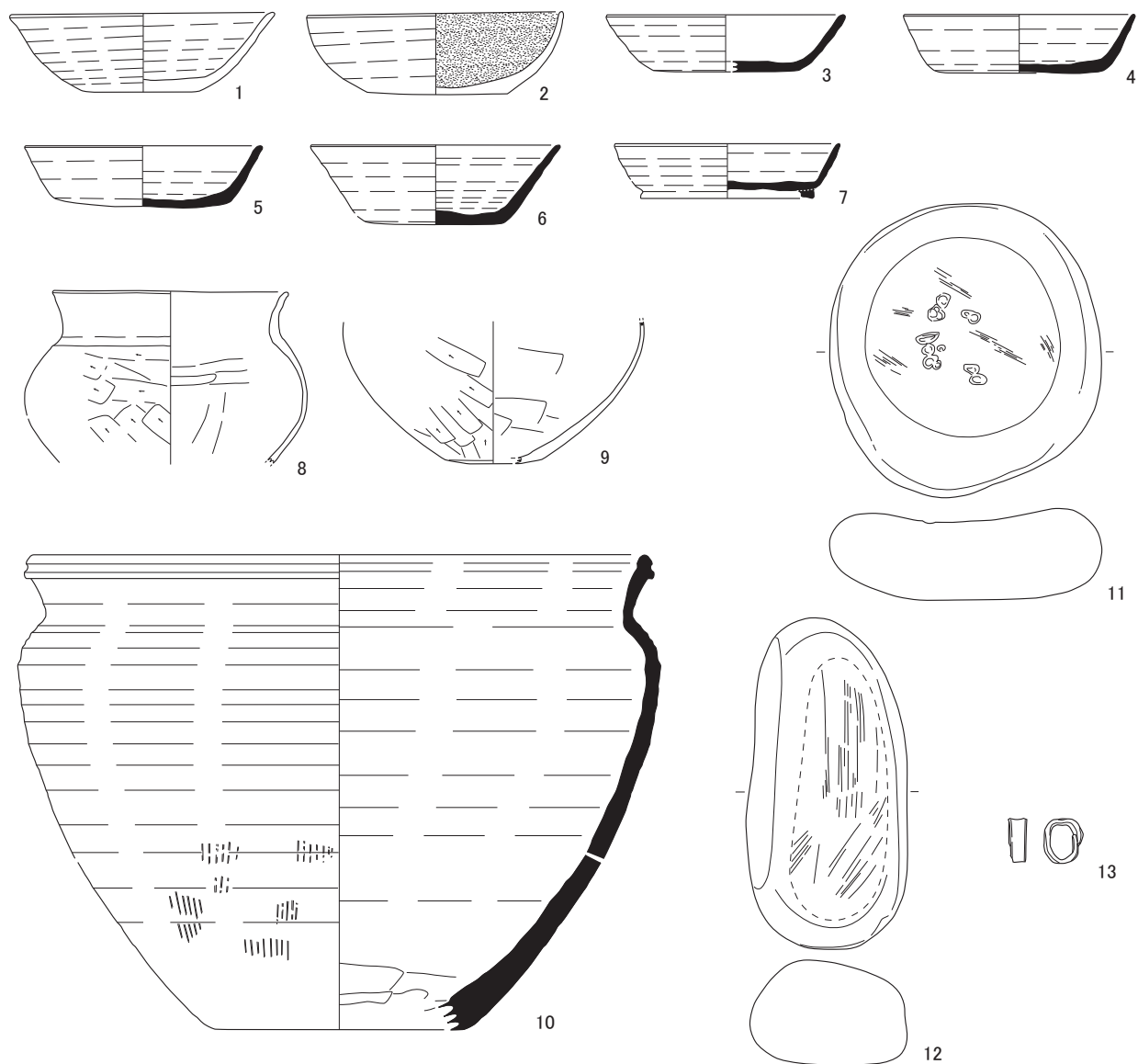


第7図 H3 号・H4 号住居址遺構図・遺物実測図



第 8 図 H8 号住居址遺構図





第9図 H8号住居址遺物実測図

**H4号住居址**（第7図） I - 10 グリッドに位置し、H3号住居址より新しく、P92～P97より古い。南北両側が調査区外のため全容は不明だが、東西 5.2m、主軸は N - 15° - W である。検出面から床面までの深さは約 25cm であり、堅固な床面を有する。一度床を張り直したと考えられ、4層上面も一部が強く締まる。堀方は床面より 20cm 程度深い。

遺物は、土師器・須恵器・鉄製品が出土している。1は土師器の坏、2は土師器の碗であり、いずれも内面には黒色処理が施される。3は須恵器の坏であるが、焼成不良である。4は須恵器の有台坏である。5は器種は不明だが須恵器と考えられる。外面に幾何学的な文様がみられる。6は棒状の鉄製品であり、釘と考えられる。本址は9世紀代の所産と考えられる。

**H8号住居址**（第8図、第9図） VI - 4 グリッドに位置し、Ta5号竪穴状遺構より古い。北側が調査区外に延びるが、カマドが検出されていることからほぼ全体が検出されていると考えられる。長軸 4.6m、短軸は推定で 4.2m、床面積は推定 16.3 m<sup>2</sup> の規模を有し、主軸は N - 2° - W である。検出面から床面までの深

さは約 35cm で、堅固な床面を有する。堀方は床面よりも 6cm ～ 30cm 程度深く、中央と壁際が高く掘り残される。カマドは煙道部分が調査区外であるが、北側中央に位置し、袖部分は黒褐色の粘質土と方形に整形された礫で構築されている。ピットは 9 基確認され、P1 ～ P3 では柱痕が認められる。P5・P6 は出入口施設に伴うものと考えられる。

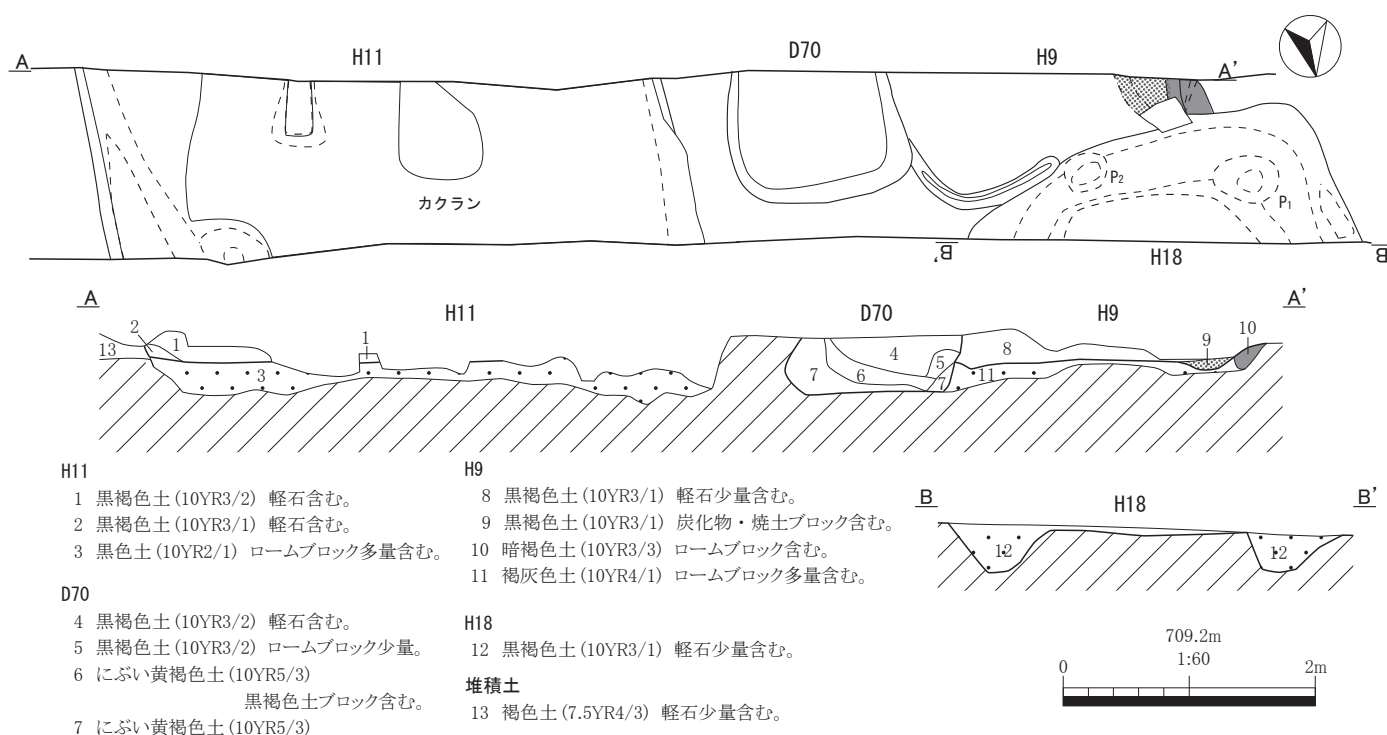
遺物は土師器・須恵器・石器・鉄製品が出土しており、3 と 9 を除いて床面上で出土したものである。1・2 は土師器の坏である。2 は内面黒色処理が施される。3 ～ 6 は須恵器の坏で、6 は焼成不良である。7 は須恵器の有台坏である。8・9 は土師器の甕である。10 は図面上で復元した固体だが、須恵器の甕と考えられる。11 は凹石、12 は擦石である。13 は環状の鉄製品だが、刀子などの留金具の可能性が考えられる。

出土遺物から、本址は 8 世紀後半の所産と考えられる。

**H9 号住居址**（第 10 図） I - 13 グリッドに位置し、H18 号住居址及び D70 号土坑より古い。住居址北東部分のみの検出であり、南西側は調査区外に延びる。主軸は N - 10° - W である。検出面から床面までの深さは 25cm 程度で、床面はわずかに締まる程度である。堀方は床面より 15cm 程度深い。カマドはカクランにより一部が破壊されているが、北側中央に位置すると考えられる。

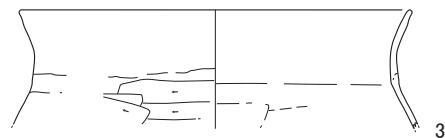
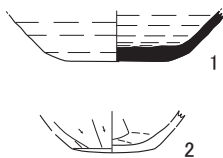
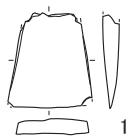
遺物は弥生土器・須恵器・鉄製品が出土したが、いずれも小破片である。1 は 基部側が欠損しており全容は不明だが、小型の刃器ではないかと考えられる。

本址は、奈良・平安時代の所産と考えられる。



#### H11 号住居址

#### H9 号住居址



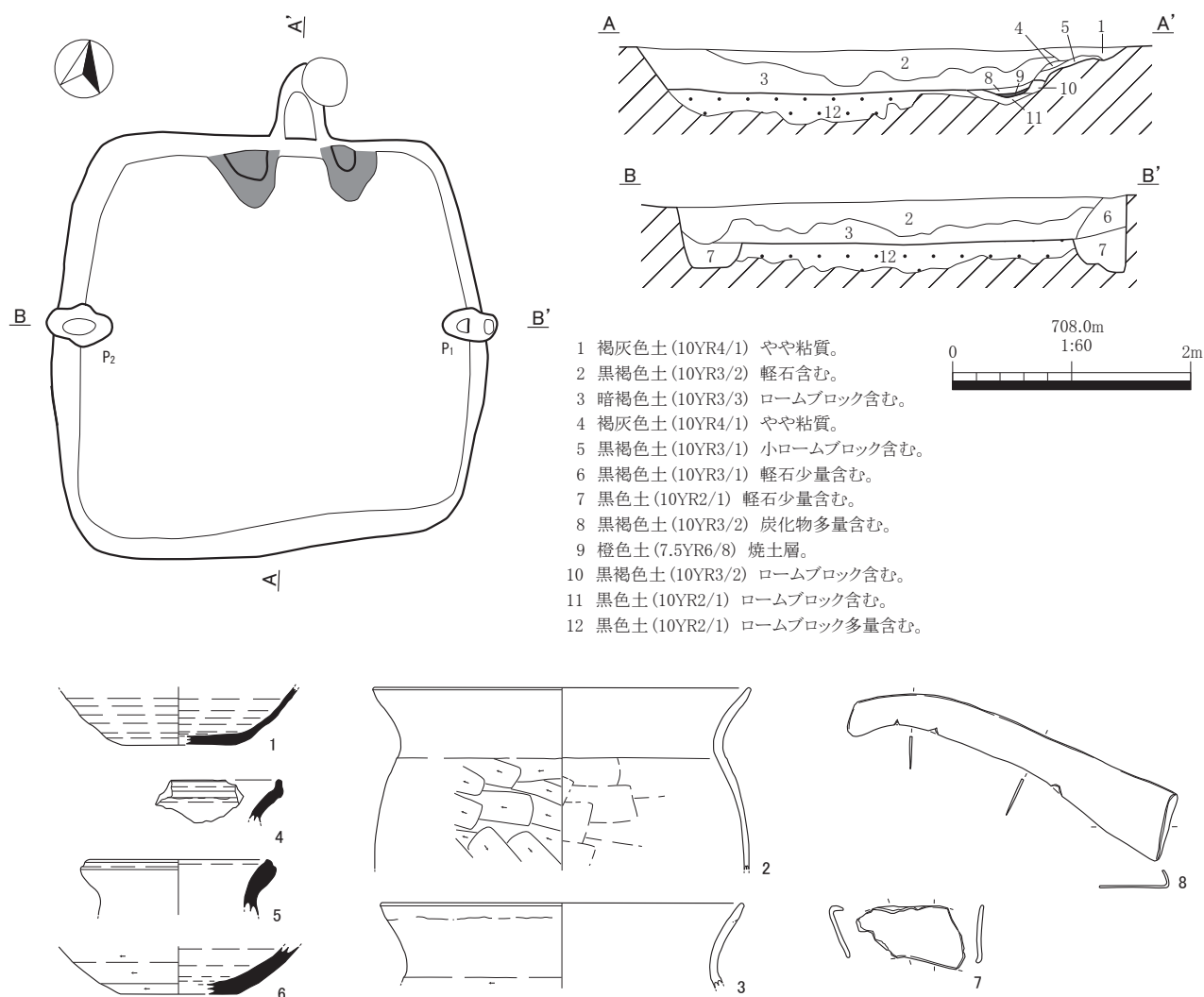
第 10 図 H9 号・H11 号・H18 号住居址遺構図・遺物実測図

**H10 号住居址**（第 11 図） VII - 12・13 グリッドに位置する。長軸 4.1m、短軸 3.8m、床面積 11.8 m<sup>2</sup>、主軸は N - 10° - W である。検出面から床面までの深さは約 35cm であり、床面はわずかに堅い。壁はほぼ垂直に立上るが、南側のみやや緩やかに立上る。壁溝は検出されなかった。堀方は床面より 20cm 程度深い。カマドは北側中央に位置し、袖部は褐灰色の粘質土で構築される。ピットは中央両端に位置する 2 基が確認された。柱痕は認められなかったが、柱穴と考えられる。

遺物は土師器・須恵器・鉄製品が出土した。1 は須恵器の坏で、底部はへら切り後にナデ調整が施される。2・3 は土師器の甕である。4～6 は須恵器の壺ないし甕と考えられる。7・8 は鎌であるが、欠損後に一部が折れ曲がっている。本址は 8 世紀後半の所産と考えられる。

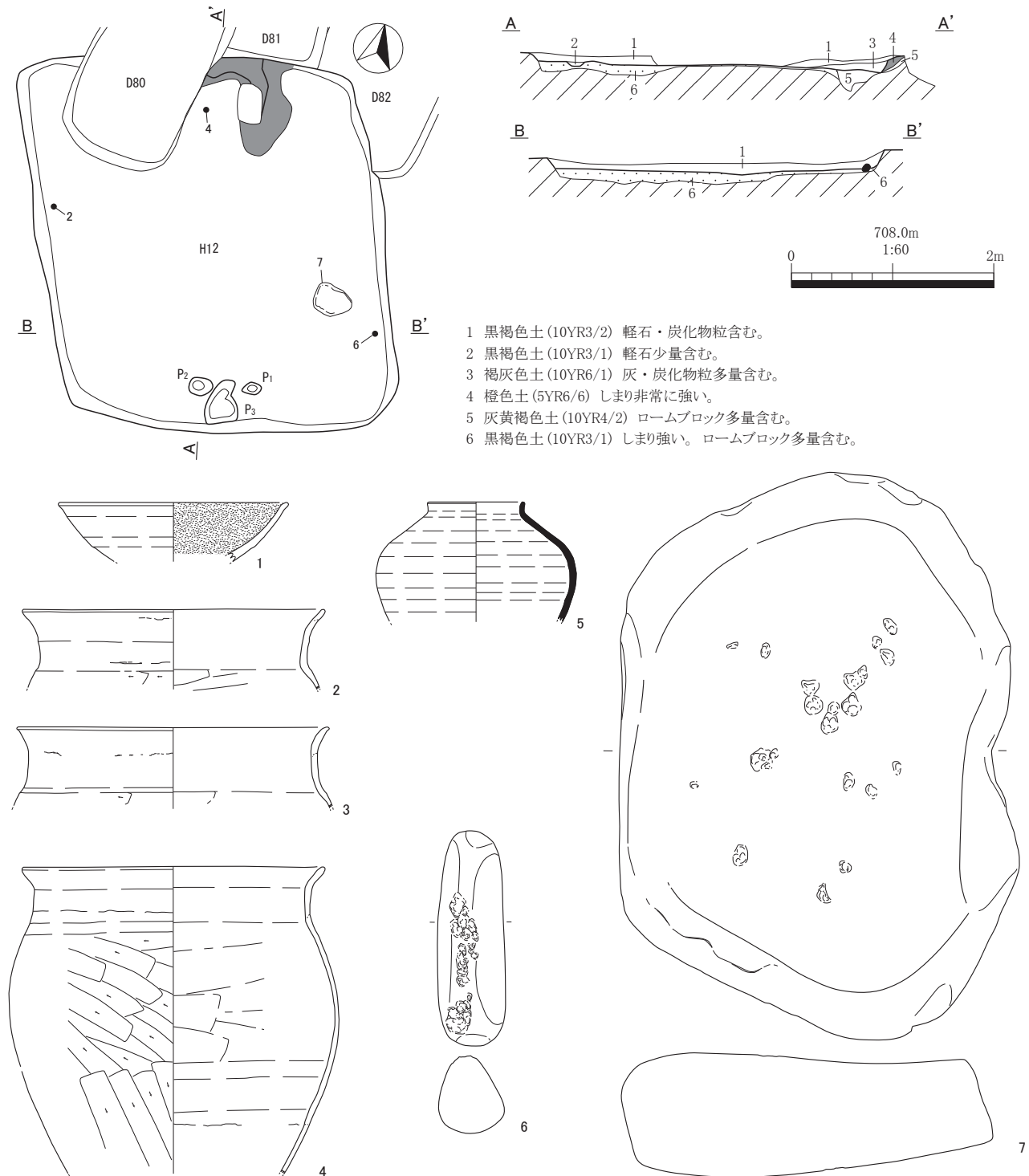
**H11 号住居址**（第 10 図） I - 12 グリッドに位置し、南北両側が調査区外に延びる。中央部分がカクランを受けており、床面がほとんど残っていないため、東側の上端と西側の上端の一部及び堀方のみの検出である。東西 4.6m、主軸は N - 2° - W である。残存する床面は硬くしまる。

遺物は堀方からの出土であるが、土師器・須恵器が出土している。1 は須恵器の坏であり、底部には回転糸切り痕が認められる。2・3 は土師器の甕である。本址は、奈良・平安時代の所産と考えられる。



第 11 図 H10 号住居址遺構図・遺物実測図

**H12 号住居址**（第12図） VII-4 グリッドに位置し、D71・D80～82号土坑より古い。長軸3.7m、短軸3.4m、床面積10.6㎡の規模を有し、主軸はN-12°-Wである。検出面から床面までの深さは18cmで、堅固な床面を有する。堀方は床面から3～10cm程度深い。ピットは入り口施設に伴うものと考えられる3基が確認された。カマドは北側中央に位置し、D71・D80・D81号土坑により一部が破壊される。裾部は褐灰色粘質土により構築される。

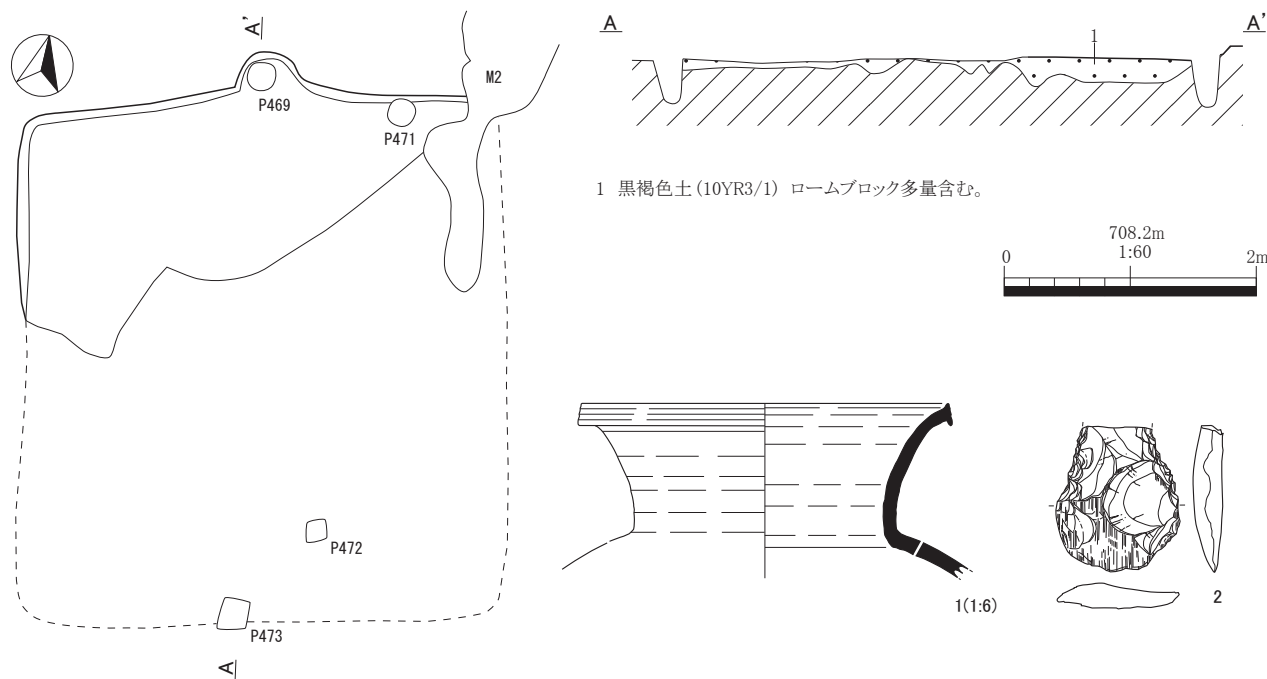


第12図 H12号住居址遺構図・遺物実測図

遺物は土師器・須恵器・石器が出土した。1は土師器の碗で、内面黒色処理が施される。2～4は土師器の甕である。5は須恵器の壺である。6・7は床面から出土した石器で、6は敲石、7は台石と考えられる。  
本址は9世紀前半の所産と考えられる。

**H13号住居址**（第13図）Ⅲ-25グリッドに位置する。上部がほとんど削平されており、北側の一部に床面を残すのみであるが、堀方の規模から長軸4.5m、短軸3.8m、床面積15.2㎡と推定され、主軸はN-11°-Wである。堀方は床面から5～20cm深い。ピットは検出されなかった。カマドもすでに削平されているが、堀方の形状から北側の中央に配置されていたと考えられる。

遺物は須恵器と石器が出土している。1は須恵器の甕の口縁部と考えられる。2は打製石斧の刃部である。  
本址は奈良・平安時代の所産と考えられる。



第13図 H13号住居址遺構図・遺物実測図

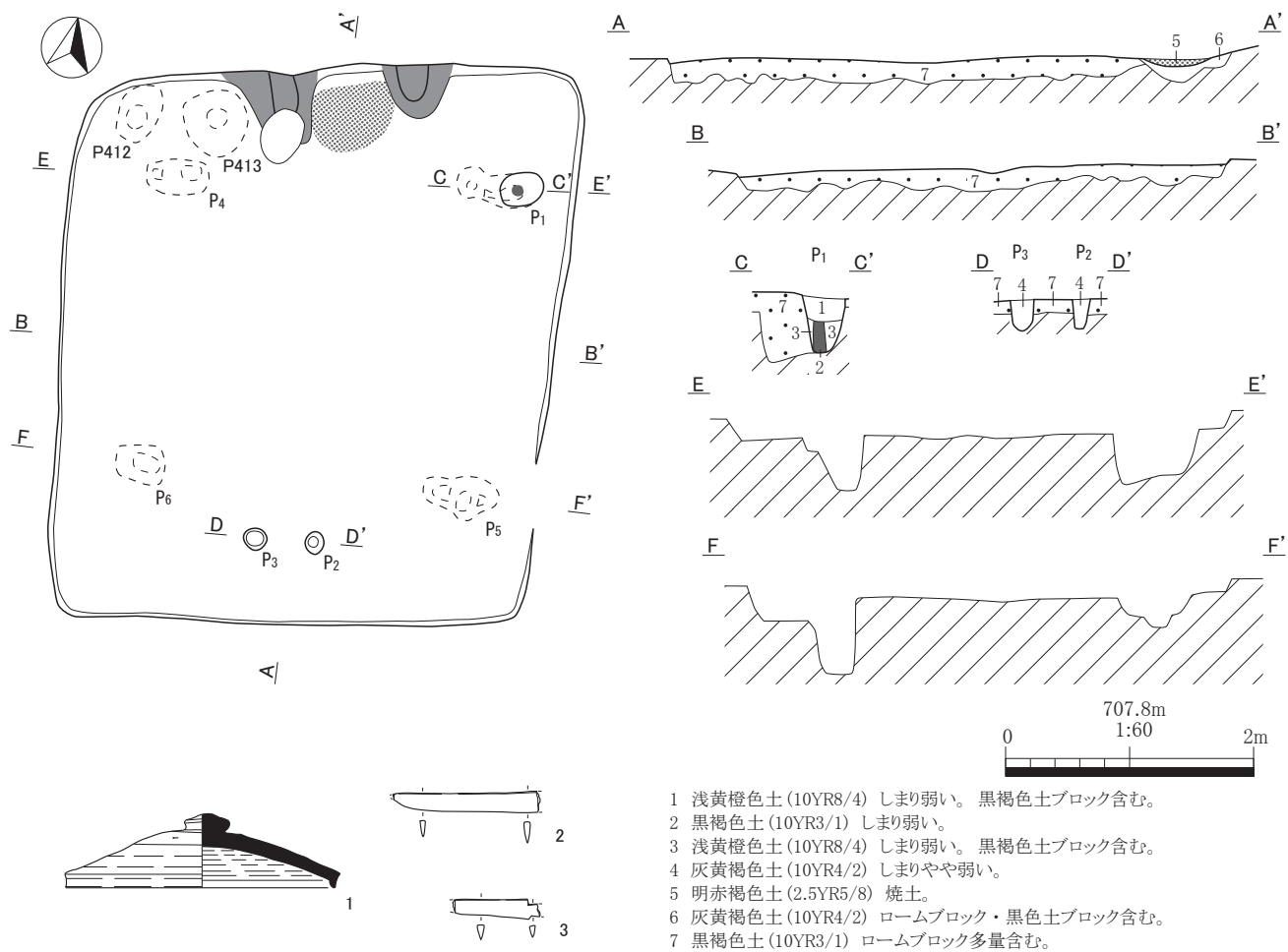
**H14号住居址**（第14図）Ⅶ-15グリッドに位置し、H15号住居址より新しい。上部が削平されており、検出面がほぼ床面であった。長軸4.5m、短軸4.0m、床面積17.2㎡と推定され、主軸はN-6°-Wである。床面はわずかに締まる程度であり、堀方は床面から15cm程度深い。ピットは床面で3基確認でき、P1では柱痕が確認できた。P2・P3は入口施設に伴うピットと考えられる。P4～P6は床面で確認できなかったが、柱穴の堀方と考えられる。カマドは北側中央に位置し、袖は灰黄褐色土で構築される。

遺物は須恵器と鉄製品が出土した。1は須恵器の坏蓋である。2・3は鉄製の刀子と考えられる。  
本址は奈良・平安時代の所産と考えられる。

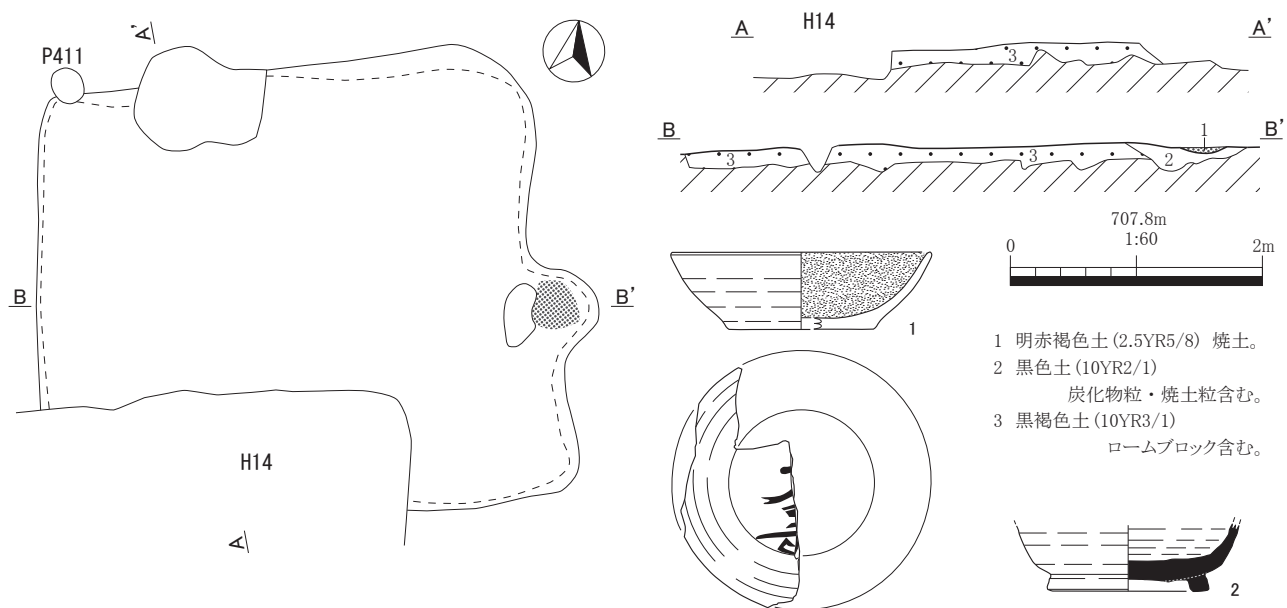
**H15号住居址**（第15図）Ⅶ-10グリッドに位置し、H14号住居址より古い。上部が削平されており、検出面がほぼ床面であった。長軸4.4m、短軸3.6m、床面積14.0㎡を有し、主軸はN-78°-Eである。締まった床面はほとんど認められず、堀方は床面より15cm程度深い。ピットは確認されなかった。カマドは東側中央に位置する。カマドもほとんどが削平されており、わずかに焼土が認められるのみである。

遺物は土師器と須恵器が出土した。1は土師器の坏で、判読できないが底部に墨書が認められる。2は須恵器の有台坏で、底部には回転糸切痕を留める。

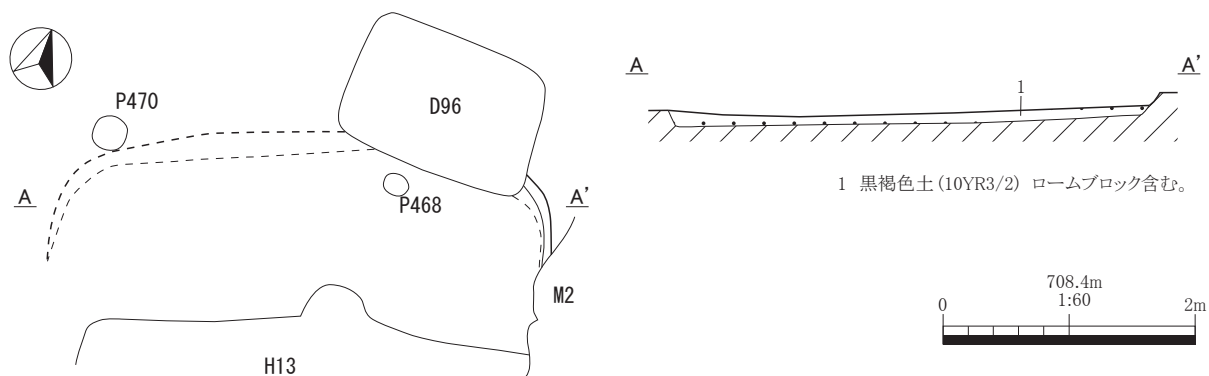
本址は奈良・平安時代の所産と考えられる。



第 14 図 H14 号住居址遺構図・遺物実測図

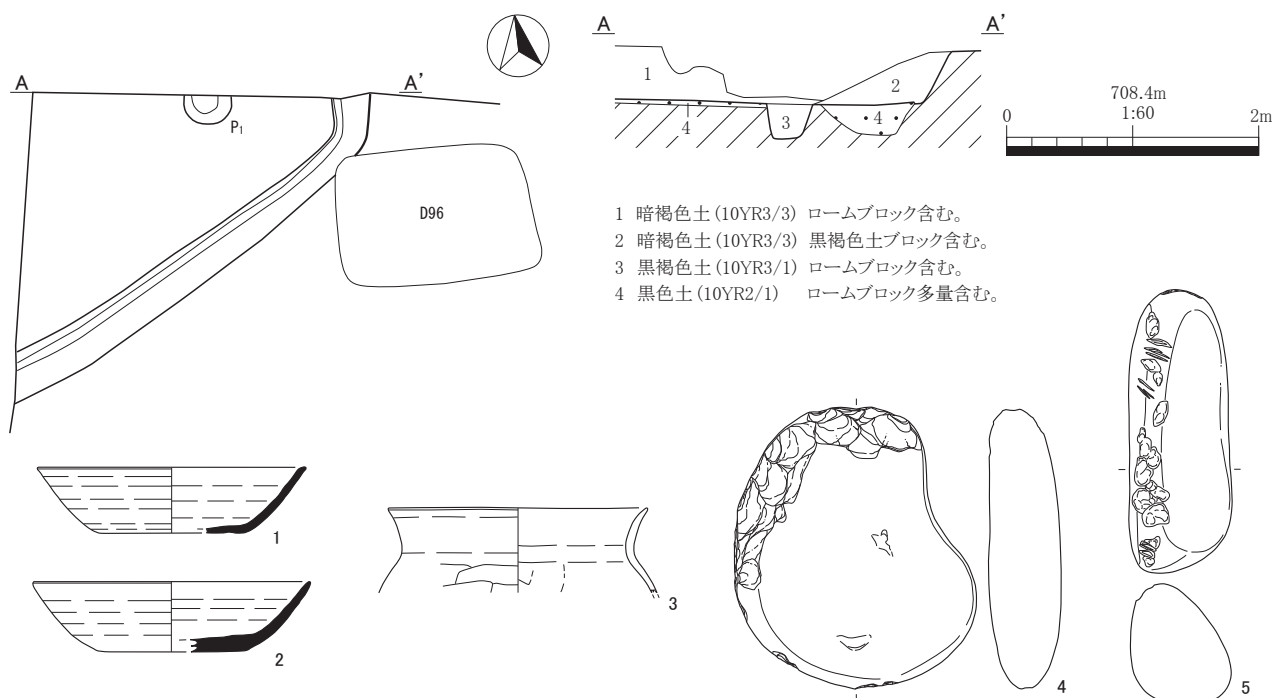


第 15 図 H15 号住居址遺構図・遺物実測図



第 16 図 H16 号住居址遺構図

**H16 号住居址**（第 16 図）Ⅲ - 20 グリッドに位置し、H13 号住居址、D96 号土坑、P468 より古い。床面を含めほとんどが削平されており、堀方の一部のみの検出であるが、堀方埋土の状況から住居址と判断した。東西 3.9m を測り、主軸は  $N-15^{\circ}-W$  である。カマドやピットは検出されなかった。遺物は出土していない。



第 17 図 H17 号住居址遺構図

**H17 号住居址**（第 17 図）Ⅲ - 20 グリッドに位置し、D96 号土坑より古い。大半が調査区外であり、南東部分のみの検出である。検出面から床面までの深さは 40cm 程度で、床面はわずかに締まる程度である。堀方は床面より 5 ～ 25cm 程度深く、壁際を深く掘り込んでいる。ピットは 1 基検出された。

遺物は土師器・須恵器・石器が出土している。1・2 は須恵器の坏である。1 は底部に回転ヘラ切り痕が残る。2 は焼成不良である。底部にはヘラナデによる調整が施される。3 は土師器の甕である。4・5 は敲石である。本址は奈良・平安時代の所産と考えられる。

**H18 号住居址**（第 10 図）Ⅰ - 14 グリッドに位置し、H9 号住居址より古い。北側過半が調査区外であり、



床面を含めほとんどが削平されているため、南側堀方のみを検出である。堀方は4～37cmの深さで、壁際を深く掘り込んでいる。ピットは堀方で2基確認された。遺物は出土しなかった。

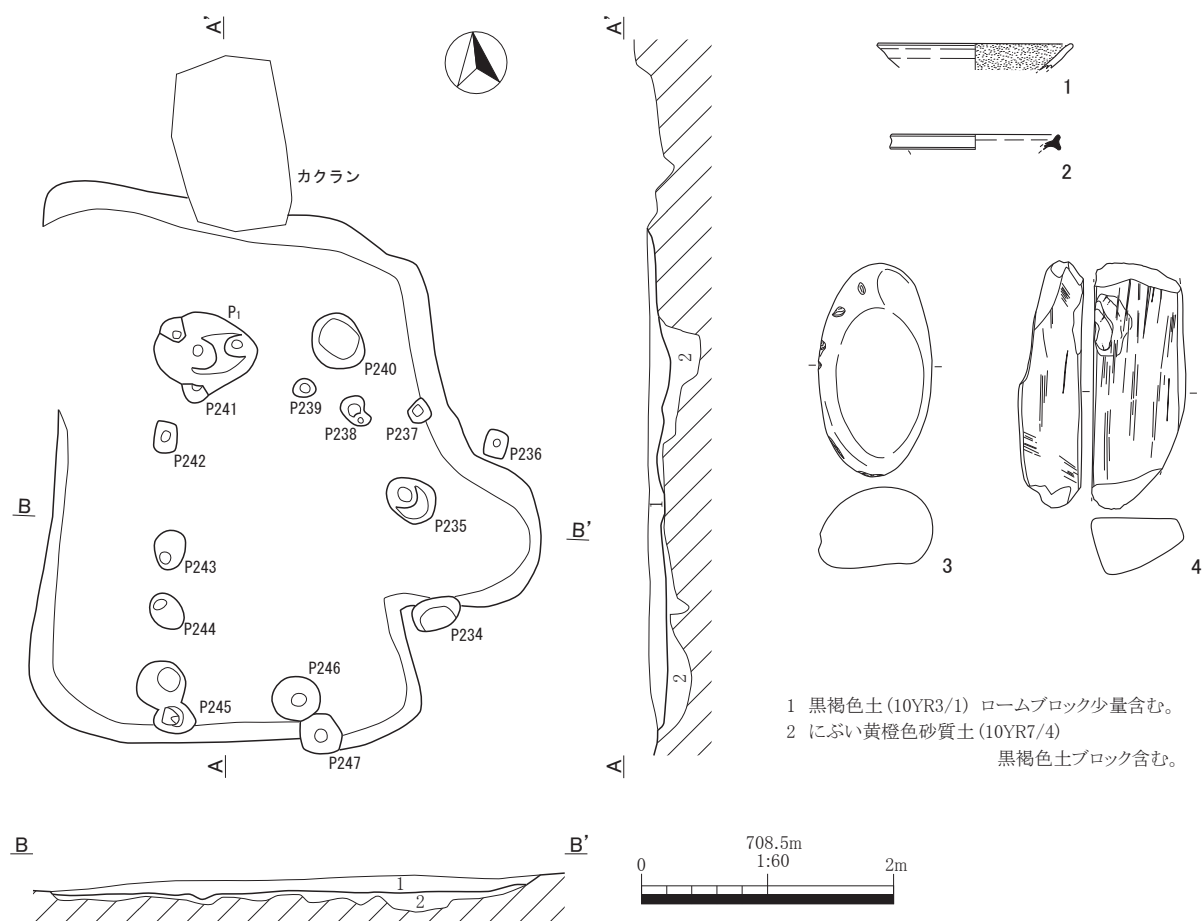
## 第2節 堅穴状遺構

本調査区においては、中世以降の所産と考えられる方形や長方形の掘り込みが多数検出されている。その中で長軸が3m以上のものを堅穴状遺構とした。ここで堅穴状遺構とした5基の中で、Ta3・4・5については、発掘調査時に堅穴住居址（H5・6・7号住居址）として記録を作成したものであるが、中世の所産と判断し、堅穴状遺構として報告する。なお、同様の遺構について「堅穴建物址」と呼称する場合もあるが、周辺の調査区と名称を統一するため堅穴状遺構とした。

**Ta1 号堅穴状遺構**（第18図） VI-13 グリッドに位置し、F4号掘立柱建物址及びP234～P247より古い。東側中央部分が張り出す不整形方形を呈し、長軸4.2m、短軸3.1mを測り、主軸はN-11°-Eである。堅く締まった床面は確認できないが、土層堆積から2層上面がなんらかの使用面であったと捉えられ、検出面からの深さは12cm程度である。ピットは中央北側に1基確認された。

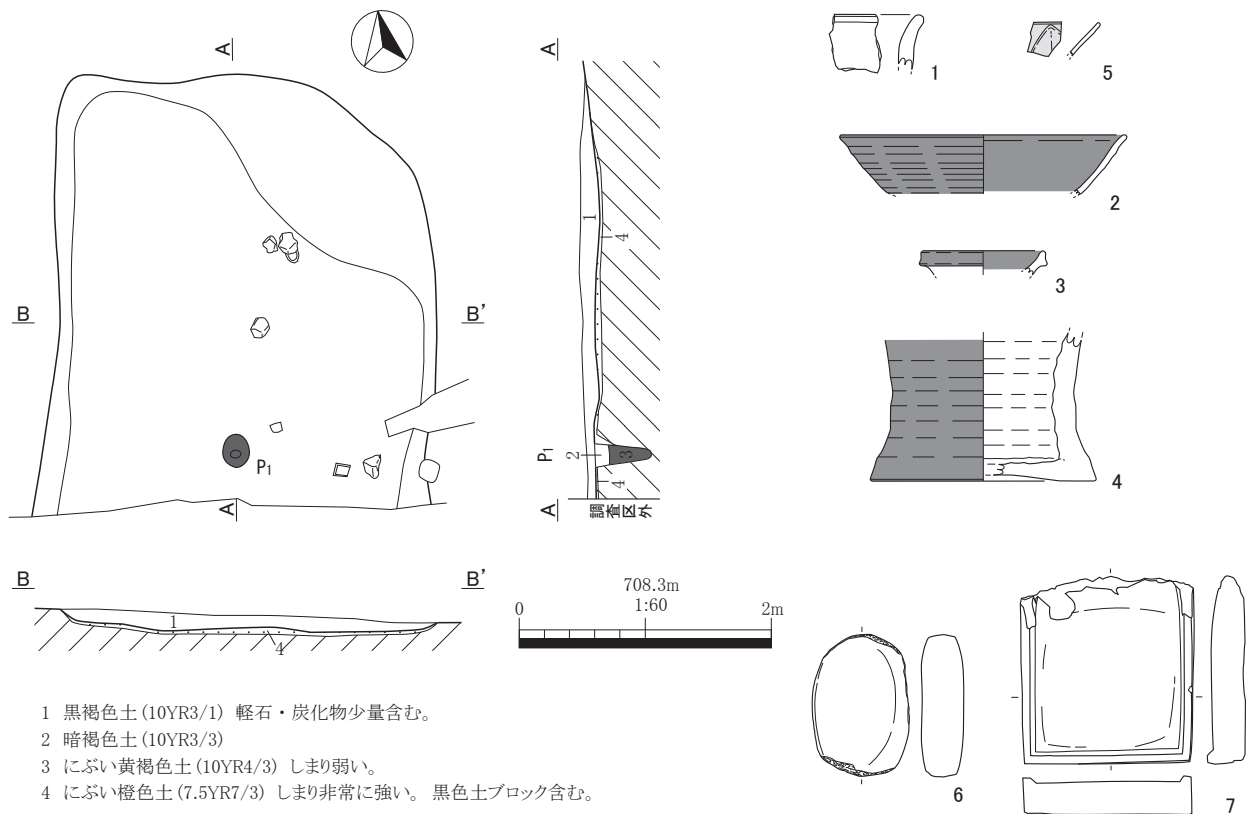
遺物は1層から土師器・須恵器・石器が出土した。1は土師器の坏で、内面黒色処理が施される。2は須恵器の長頸瓶である。3は敲石、4は砥石である。土師器・須恵器については混入品と考えられる。

本址は中世の所産と考えられる。



第18図 Ta1号堅穴状遺構遺構図・遺物実測図





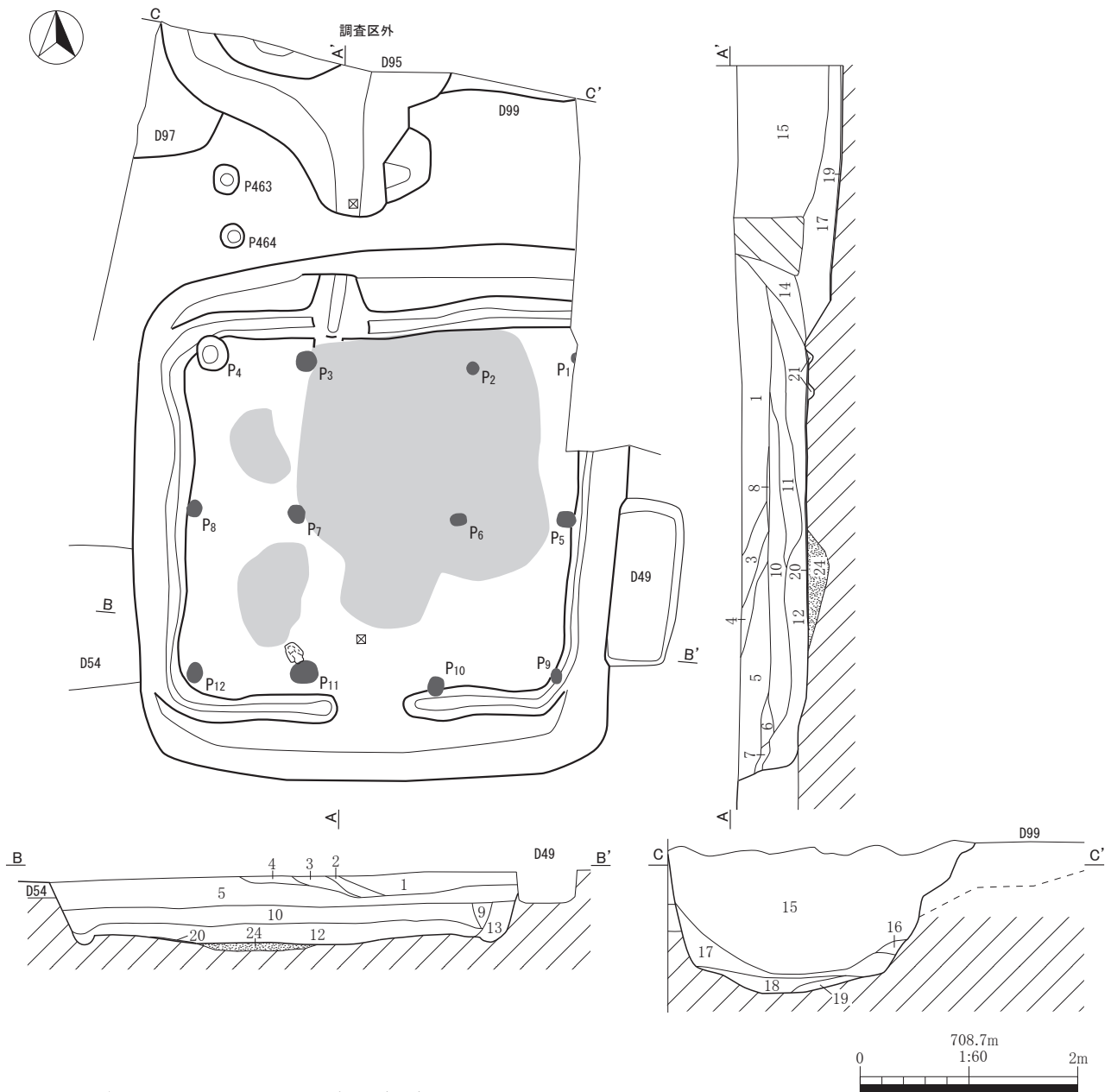
第 19 図 Ta2 号堅穴状遺構遺構図・遺物実測図

**Ta2 号堅穴状遺構**（第 19 図） VI-20 グリッドに位置し、P344～P352 より古く、南側が調査区外に延びる。長方形を呈すると考えられるが、北東部分が丸く、立上りが緩やかである。長軸 3.2m 以上、短軸 3.0m を測り、主軸は N - 12° - E である。堅固な床面を有し、床面が壁に沿って緩やかに立上る。検出面から床面までの深さは 10 ～ 15 cm 程度で、堀方は床面より 4 cm 程度深い。ピットは中央付近に 1 基検出され、柱痕も確認された。

遺物は土師器・灰釉陶器・石製品などが出土した。1 は土師器の甕の口縁部である。混入品と考えられる。2・3 は灰釉陶器である。2 は碗で、体部の張りが弱く直線的に開く形状である。3 は長頸瓶の口縁部と考えられる。4 は古瀬戸の瓶子である。平底で胴部下端が面取りされ、くびれのある締腰形を呈する。13 世紀後半の所産と考えられる。5 は青磁の連弁碗である。6 は敲石である。左右側面に敲打痕、上下両面に擦痕が認められる。7 は石製の硯である。海部分が欠損しているが、全面とも平滑に研磨されている。裏面にはノミ状の工具によるハツリ痕が認められる。

本址は出土遺物から 13 世紀後半～ 14 世紀の所産と考えられる。

**Ta3 号堅穴状遺構**（第 20 図、第 21 図） 調査時は H5 号住居址として記録したが、中世の遺構と判断し、堅穴状遺構とした。VI - 1・2 グリッドに位置し、Ta4 号堅穴状遺構・D54 号土坑より新しく、D49 号土坑より古い。南側の方形の堅穴と D95 号土坑とした北側の掘り込みが地下で繋がっており、北側は調査区外に延びる。遺構全体を人為的に埋め戻したような堆積が認められる。南側の方形部分は長軸 4.9m、短軸 4.5m、主軸は N - 3° - E である。明確な床面と捉えられる堅く締まった面は確認できず、堀方も認められないが、底面上で灰層（20 層）が認められる。検出面から底面までの深さは 60cm 程度で、壁がほぼ垂直に立上り、南側中央を除いて壁溝が廻る。溝は北側中央でトンネル状に D95 号土坑へ続く。また、遺構中央部の灰層下位にも、北側中央部に集約するように溝が認められる。

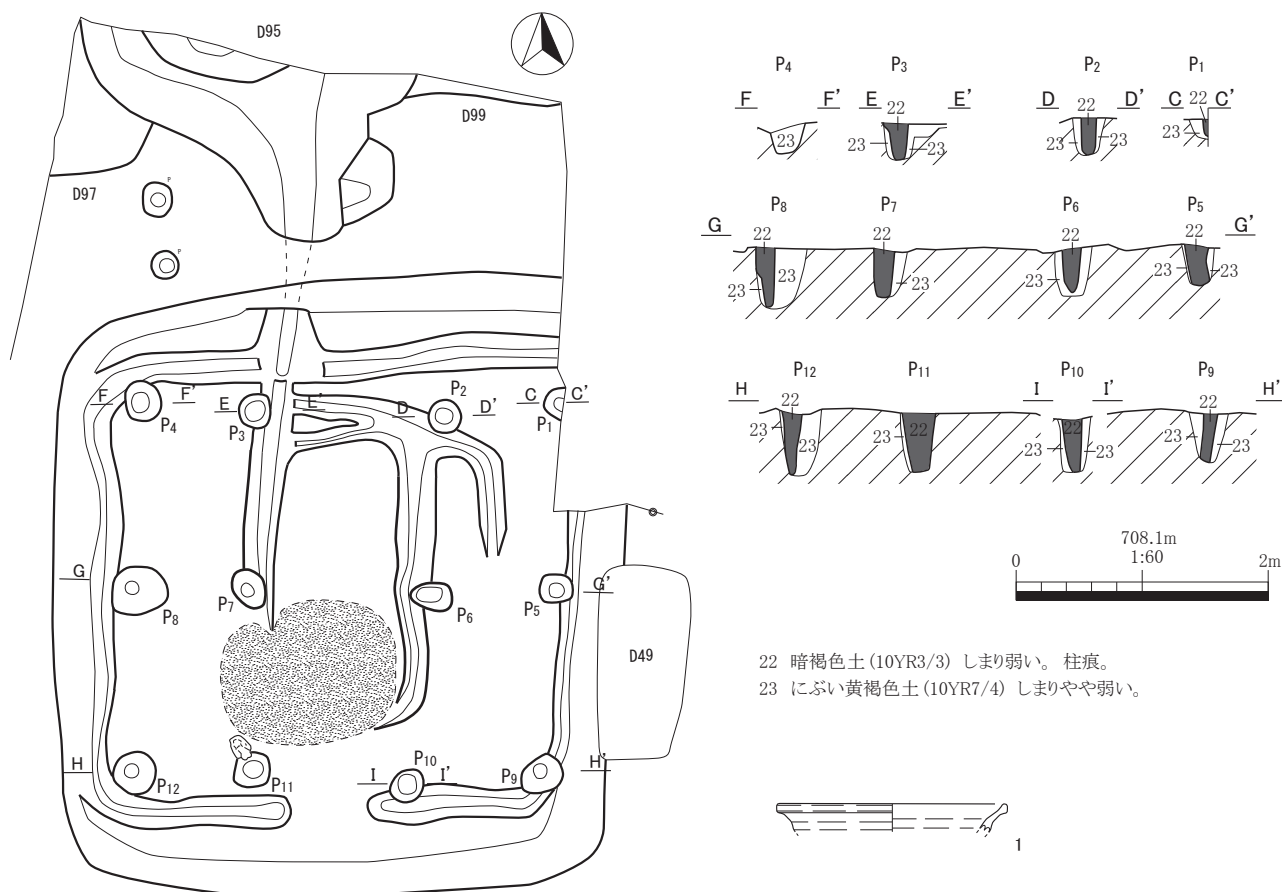


- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石・小ロームブロック多量含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石少量含む。
- 3 にぶい黄橙色土 (10YR6/4) 黒褐色土ブロック含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石多量含む。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) にぶい橙色土含む。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石含む。
- 8 灰の堆積
- 9 にぶい橙色土 (10YR7/3)
- 10 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石・小ロームブロック多量含む。
- 11 褐灰色土 (10YR5/1) 軽石・黒褐色土ブロック多量含む。
- 12 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石少量含む。

- 13 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 黒褐色土ブロック少量含む。
- 14 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック多量含む。
- 15 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石・ロームブロック少量含む。
- 16 にぶい橙色土 (7.5YR7/4) 黒褐色土ブロック少量含む。
- 17 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック含む。
- 18 褐灰色砂質土 (10YR4/1) しまりやや強い。
- 19 明黄褐色シルト質土 (10YR7/6) しまりやや強い。
- 20 灰の堆積
- 21 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック含む。
- 24 褐灰色砂 (10YR4/1) しまりやや強い。

第 20 図 Ta3 号竪穴状遺構遺構図

ピットは南側方形部分で 12 基検出された。桁行 2 間、梁行 3 間の総柱状に配置されており、柱痕も確認できる。柱間は 95cm～150cm、柱痕の深さは 12cm～46cm である。北側の D95 号土坑は D97・99 号土坑より新しく、検出範囲では不整形である。南側の方形部分より一段低く、底面は U 字に窪む。検出面から底



第 21 図 Ta3 号竪穴状遺構遺構図 2・遺物実測図

面までの深さは 1.2m で、垂直に近い角度で立上る。検出面より上位がカクランを受けているため、本来の掘り込みはさらに深いと考えられる。

遺物は埋土から弥生土器・土師器・須恵器・古瀬戸などが出土しているが、ほとんどが混入品と考えられる小破片である。1 は古瀬戸の折縁小皿の口縁部であり、埋土から出土した。13 世紀に比定される。

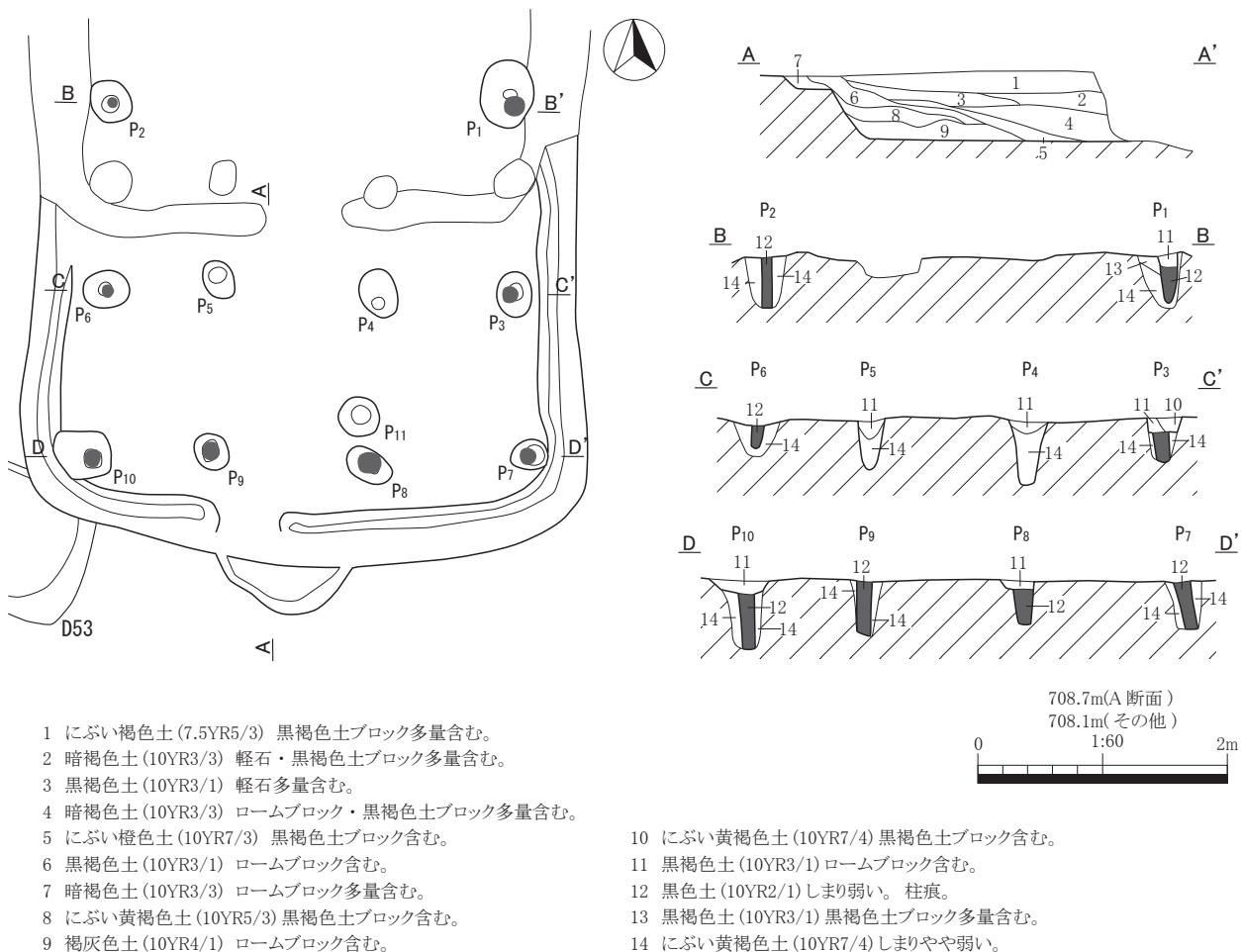
本址の帰属時期については、埋土から出土した古瀬戸の年代から、13 世紀～14 世紀の所産と考えたい。規則的な柱穴が配置されることから、何らかの建物址であると考えられるが、地下で土坑と繋がる形態は佐久市内では類例がない。南側の方形部分が母屋で、北側の土坑は何らかの付属施設と捉えられる。地下部分は人が通れるほどの広さではないため、排水等のための施設であろうか。

**Ta4 号竪穴状遺構**（第 22 図） VI - 6・7 グリッドに位置し、Ta3 号竪穴状遺構より古く、D50・53 号土坑より新しい。調査時は H6 号住居址として記録したが、中世の遺構と判断し、竪穴状遺構とした。Ta3 号竪穴状遺構と一部重なり、掘り込みの深さもほぼ同じであるため、建替えが行われたと考えられる。東西 4.3m、南北 3.6m 以上、主軸は N - 3° - E であり、南側中央に張り出し部が認められる。明確な床面や堀方は確認できない。検出面から底面までの深さは 60cm 程度で、壁がほぼ垂直に立上り、南側中央を除いて壁溝が廻る。

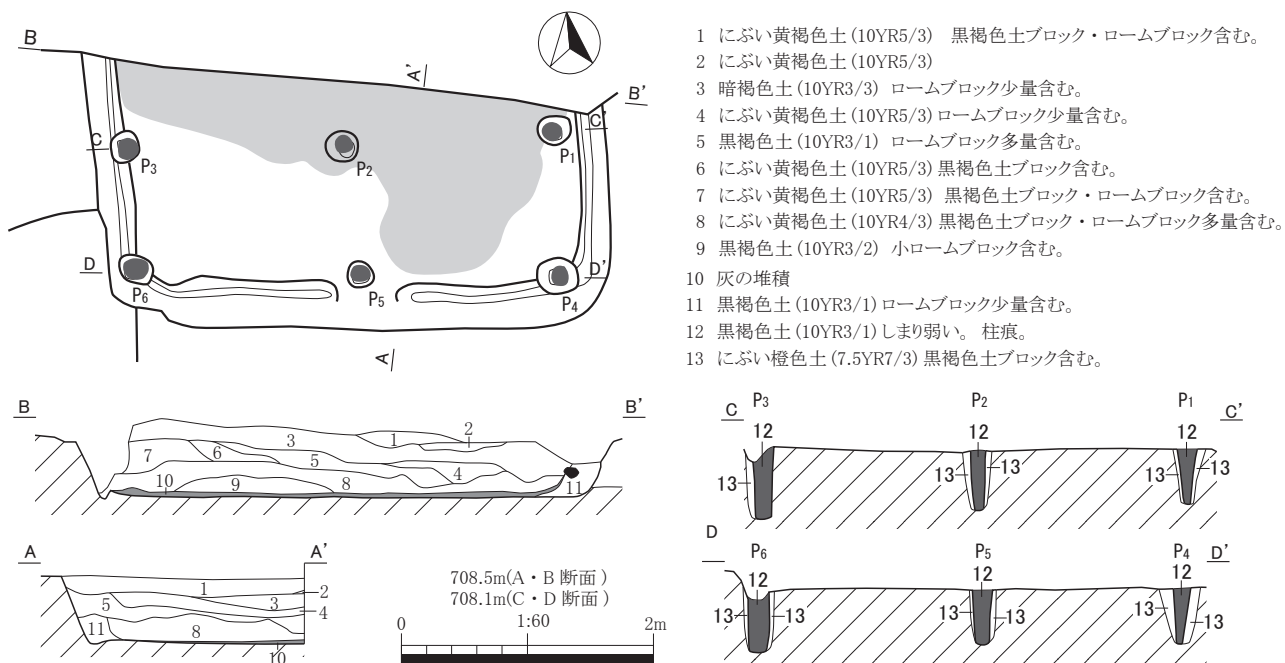
ピットは 10 基確認された。桁行 2 間、梁行 3 間の総柱状に並び、柱痕も認められるが、北側列の中央には配置されない。柱間は 90cm ～ 156cm で、深さは 9cm ～ 54cm である。

遺物は埋土から弥生土器・土師器・須恵器の小破片が出土したが、いずれも混入品と考えられる。

本址は形態や重複の状況から、Ta3 号竪穴状遺構の直前と考えられる。



第 22 図 Ta4 号竪穴状遺構遺構図



第 23 図 Ta5 号竪穴状遺構遺構図

**Ta5 号堅穴状遺構**（第 23 図） VI - 4・5 グリッドに位置し、北側が調査区外に延びる。H8 号堅穴住居址より新しい。調査時は H7 号住居址として記録したが、中世の遺構と判断し、堅穴状遺構とした。東西 4m、南北 2.1m 以上で、主軸は N - 4° - E である。明確な床面や堀方は確認できないが、底面上に 3cm 程度の厚さで灰層（10 層）が認められ、東側の壁際ではこの灰層がわずかに立上る。検出面から底面までの深さは 60cm 程度で、壁がほぼ垂直に立上り、南側中央を除いて壁溝が廻る。

ピットは灰層を切る形で 6 基が確認された。桁行は不明、梁行は 2 間である。柱間は 1m ～ 1.8m で、深さは 42 ～ 55cm である。

遺物は土師器と須恵器の破片が出土しているが、混入品と考えられる。

本址は形態的特長が Ta3・4 号堅穴状遺構に類似することから、同時期と捉え、13 ～ 14 世紀代と考えたい。

### 第 3 節 掘立柱建物址

柱穴と考えられる同規模のピットが規則的に並ぶものを掘立柱建物址と捉え、6 軒を検出した。いずれも調査区中央より東側に位置する。規模や柱穴の配置などはそれぞれの建物で異なるが、概ね長方形を呈する。掘立柱建物址からの出土遺物は、混入品と考えられる土器片がほとんどであり、遺物から遺構の帰属時期を特定するのは困難である。しかし、周辺での調査成果、柱穴の形状や主軸方向などから、奈良・平安時代の所産と考えられる。

なお、掘立柱建物址の上屋構造や出入口の位置などは不明だが、本稿では長軸方向を桁行、短軸方向を梁行とした。

**F1 号掘立柱建物址**（第 24 図） V - 19 ～ 25 グリッドに位置し、D22・D24 号土坑より古い。南西側の柱穴が調査区外となり検出できなかったが、桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物と考えられる。検出された柱穴は 9 基で、柱穴は円形ないし隅丸方形を呈し、柱痕を留めるものもある。規模は桁行 5.5m、梁行 4.2m、面積 23.1 m<sup>2</sup>を測り、主軸は N - 72° - E である。柱間は桁行では 1.3 ～ 1.4m または 2.6 ～ 2.7m で、中央が広がる。梁行では概ね 2.1m である。柱穴の深さは 28 ～ 65cm である。

遺物は出土していない。本址は、柱穴の形状や主軸方向から、奈良・平安時代と考えられる。

**F2 号掘立柱建物址**（第 25 図） VI - 9 ～ 15 グリッドに位置し、D46・D47 号土坑より古い。桁行 2 間、梁行 2 間の総柱建物である。9 基の柱穴はいずれも方形で、長軸が 1m 前後と比較的大きく、各柱穴の規模や配列が整然としている。P1・P3・P4・P7・P8・P9 では柱痕が確認でき、いずれも柱穴のほぼ中央に位置している。規模は桁行 4.5m、梁行 3.5m、面積 15.8 m<sup>2</sup>を測り、主軸は N - 14° - W である。柱間は桁行で 2.0 ～ 2.4m、梁行で 1.7 ～ 1.9m、柱穴の深さは 55 ～ 70cm である。

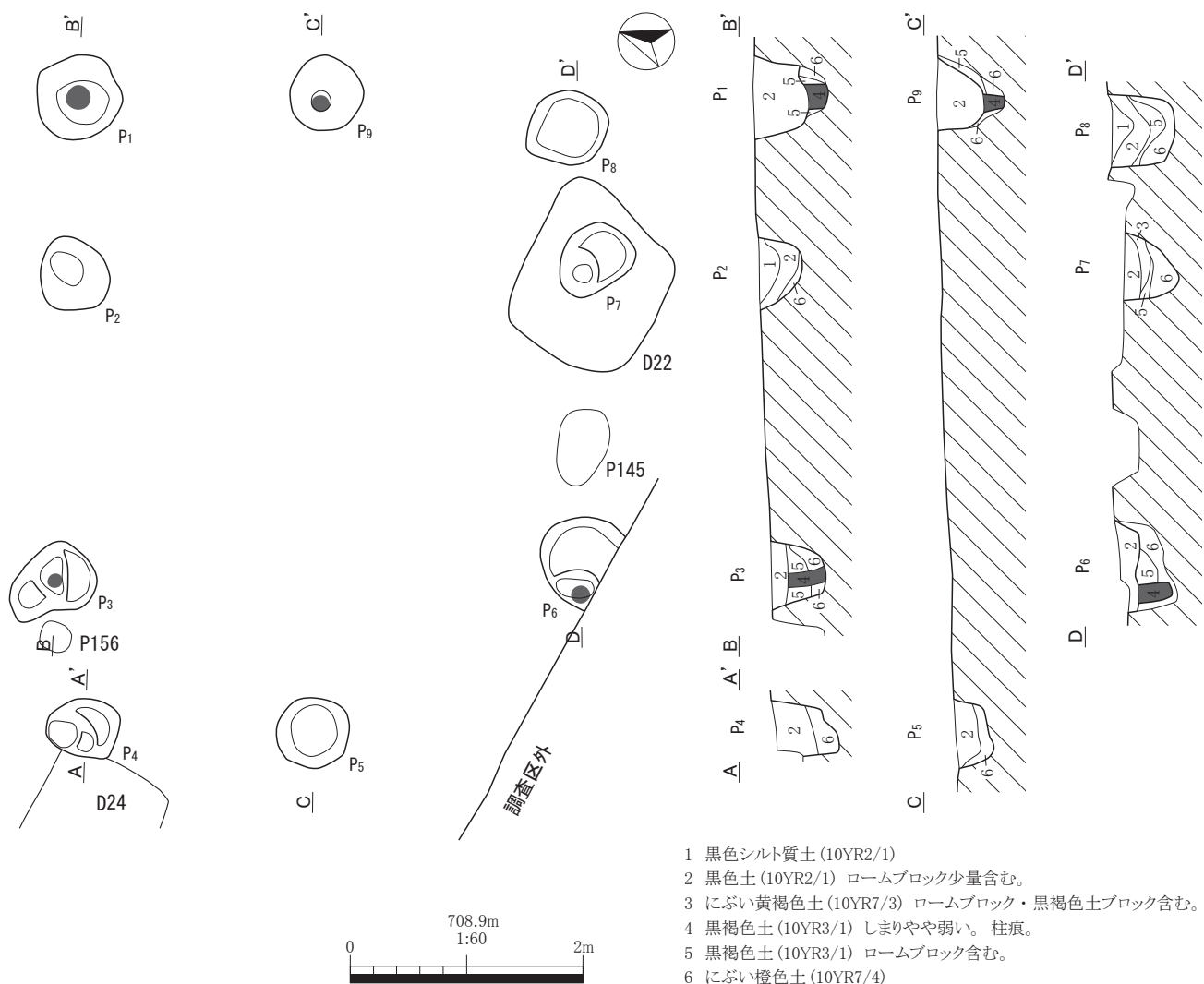
遺物は P6 から鉄製品が出土している。1 は両端部が欠損しているが、角釘と考えられる。

本址は主軸方向や周辺調査区での検出例から、奈良・平安時代の所産と考えられる。

**F3 号掘立柱建物址**（第 26 図） VI - 5 ～ VII - 16 グリッドに位置し、D69 号土坑より古い。桁行 3 間、梁行 1 間の側柱建物である。8 基の柱穴は方形ないし不整円形で、P2 と P3 は浅い溝で繋がる。P1・P5・P6・P8 では柱痕が確認できる。規模は桁行 5.9m、梁行 4.4m、面積 25.9 m<sup>2</sup>を測り、主軸は N - 9° - W である。柱間は桁行で 1.6 ～ 2.2m、梁行で 4.1 ～ 4.4m、柱穴の深さは 30 ～ 52cm である。

遺物は P3 から縄文土器と考えられる破片が出土したが、混入品と考えられる。

本址は、柱穴の形状や主軸方向から、奈良・平安時代と考えられる。



第 24 図 F1 号掘立柱建物址遺構図

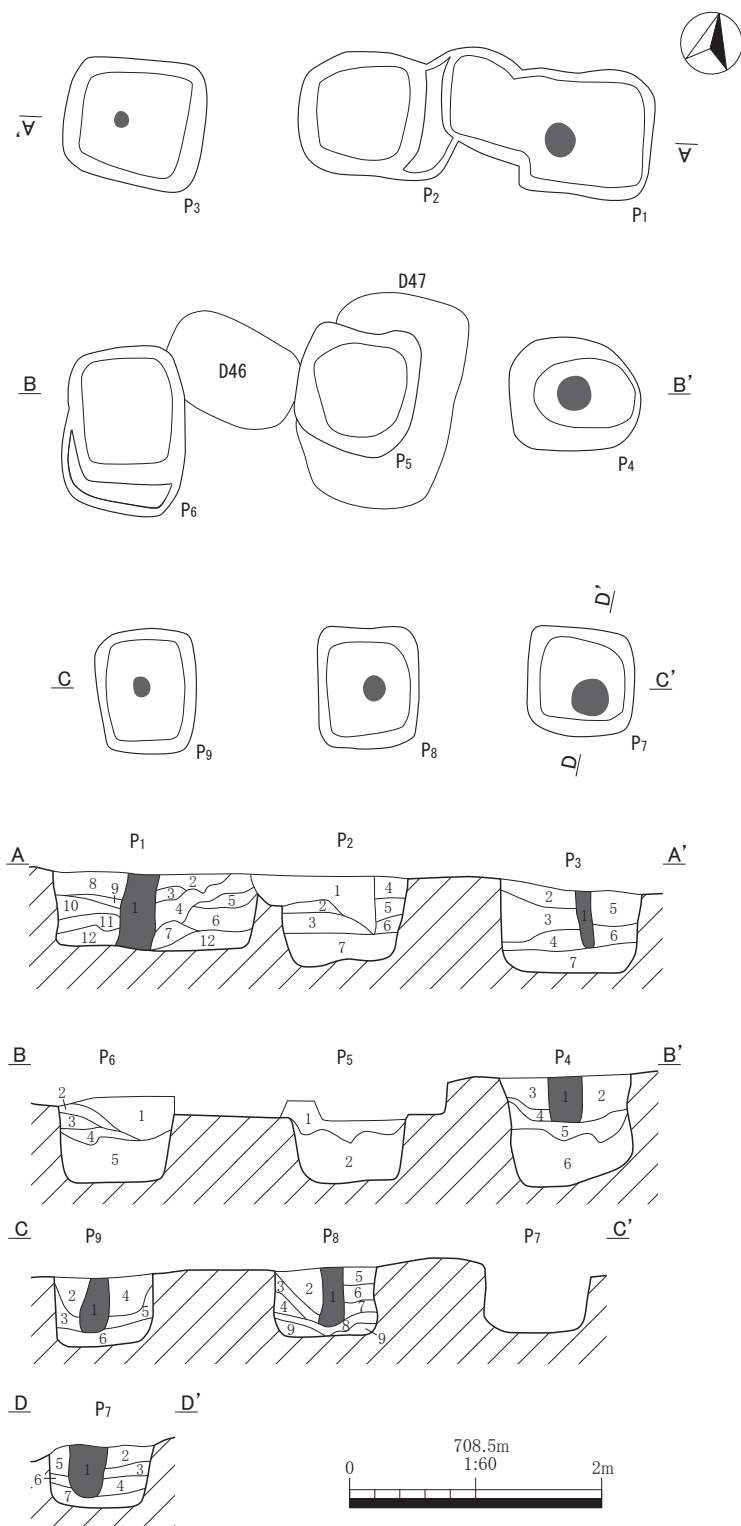
**F4 号掘立柱建物址**（第 27 図） VI-18 ～ 24 グリッドに位置し、Ta1 号竪穴状遺構・P294・P300 より古い。P245・P284・P292・P295・P302・P313 により構成される、桁行 1 間、梁行 2 間の側柱建物である。規模は桁行 2.9m、梁行 2.5m、面積 7.3 m<sup>2</sup>を測り、主軸は N-17° -W である。柱間は桁行で 2.8 ～ 2.9m、梁行で 1.1 ～ 1.4m であり、柱穴の深さは 26 ～ 35cm である。柱穴は不整円形で。埋土は黒褐色土を基調とし、軽石等を含む。

遺物は出土していないが、柱穴の形状や主軸方向から、奈良・平安時代の所産と考えられる。

**F5 号掘立柱建物址**（第 28 図） V - 22 ～ XI - 2 グリッドに位置し、D10・D11 号土坑より古い。P99・P113・P114・P135・P136 により構成される。東側が調査区外に延び、南側にも延びる可能性がある。規模は桁行 3.6m、梁行 3.3m、を測り、主軸は N-64° -E である。柱間は桁行で 3.6m、梁行で 1.2 ～ 2.0m であり、柱穴の深さは 55 ～ 71cm である。柱穴の形状は隅丸方形・楕円形・不整形と様々で。埋土は黒褐色土やにぶい黄橙色土などである。

P135 から土師器と須恵器が出土している。1 は須恵器の坏蓋である。2 は土師器の甕の底部である。出土遺物から、本址は平安時代の所産と考えられる。





- P8**
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石含む。
  - 2 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。
  - 3 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。
  - 4 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。
  - 5 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。
  - 6 黒褐色土 (10YR3/1) 小ロームブロック含む。
  - 7 5 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。
  - 8 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 黒色土ブロック多量含む。
  - 9 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 黒色土ブロック少量含む。

- P1**
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや弱い。
  - 2 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック含む。
  - 3 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。
  - 4 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。
  - 5 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック含む。
  - 6 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック多量含む。
  - 7 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック多量含む。
  - 8 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。
  - 9 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。
  - 10 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。
  - 11 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。
  - 12 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 黒色土ブロック少量含む。

- P2**
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石含む。
  - 2 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック含む。
  - 3 黒褐色土 (10YR3/2) 小ロームブロック少量含む。
  - 4 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。
  - 5 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。
  - 6 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック少量含む。
  - 7 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 黒色土ブロック少量含む。

- P3**
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石含む。
  - 2 黒褐色土 (10YR3/1) 小ロームブロック多量含む。
  - 3 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック少量含む。
  - 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック・黒褐色土ブロック含む。
  - 5 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。
  - 6 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック多量含む。
  - 7 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 黒色土ブロック含む。

- P4**
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石含む。
  - 2 黒褐色土 (10YR3/1) 小ロームブロック少量含む。
  - 3 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック含む。
  - 4 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。
  - 5 黒褐色土 (10YR3/2) 小ロームブロック多量含む。
  - 6 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 黒色土ブロック含む。

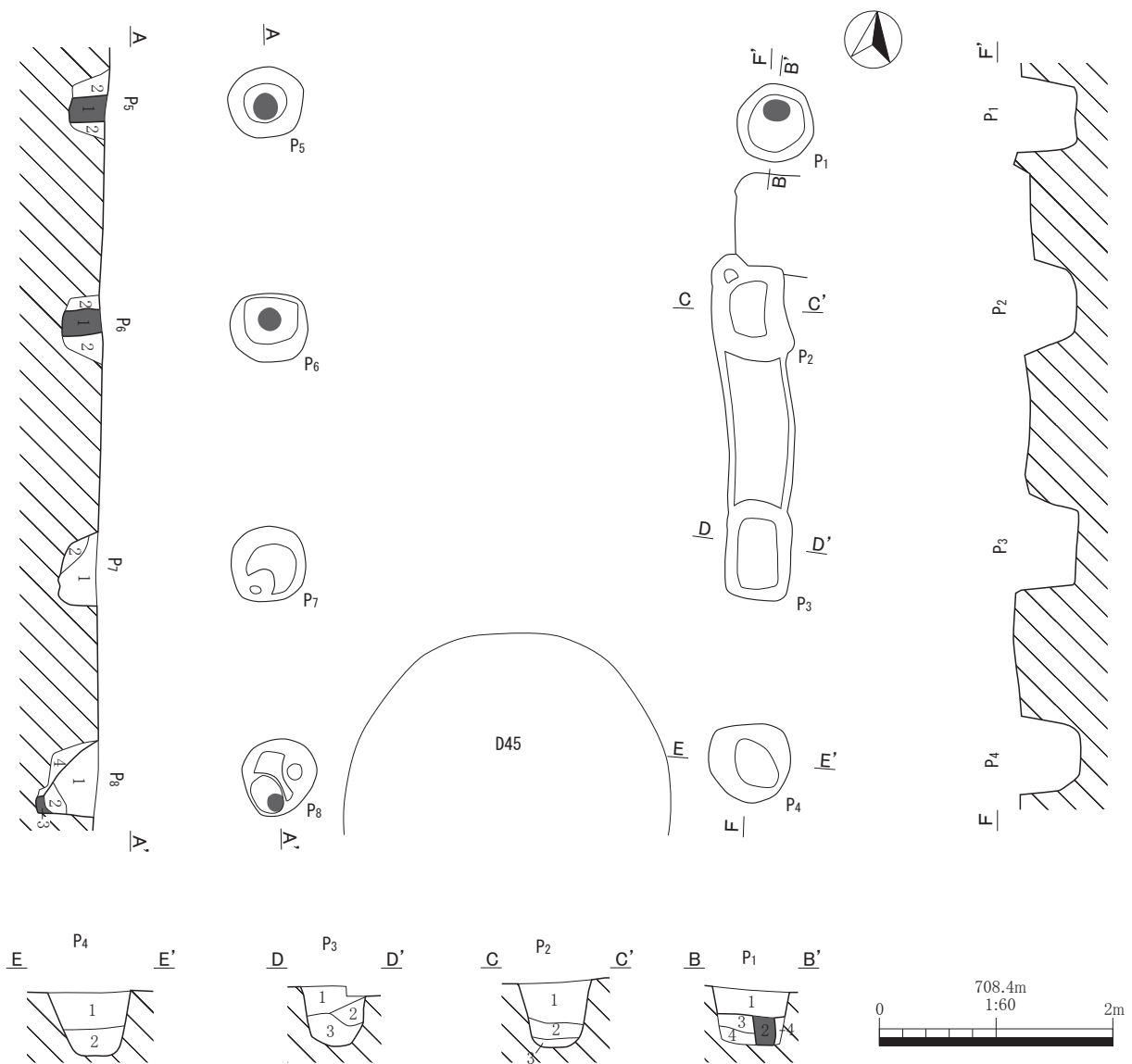
- P5**
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 小ロームブロック少量含む。
  - 2 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 黒色土ブロック含む。

- P6**
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石含む。
  - 2 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。
  - 3 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック少量含む。
  - 4 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック含む。
  - 5 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 黒色土ブロック含む。

- P7**
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石含む。
  - 2 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック含む。
  - 3 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。
  - 4 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック多量含む。
  - 5 黒褐色土 (10YR3/1) 小ロームブロック少量含む。
  - 6 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック多量含む。
  - 7 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 黒色土ブロック含む。

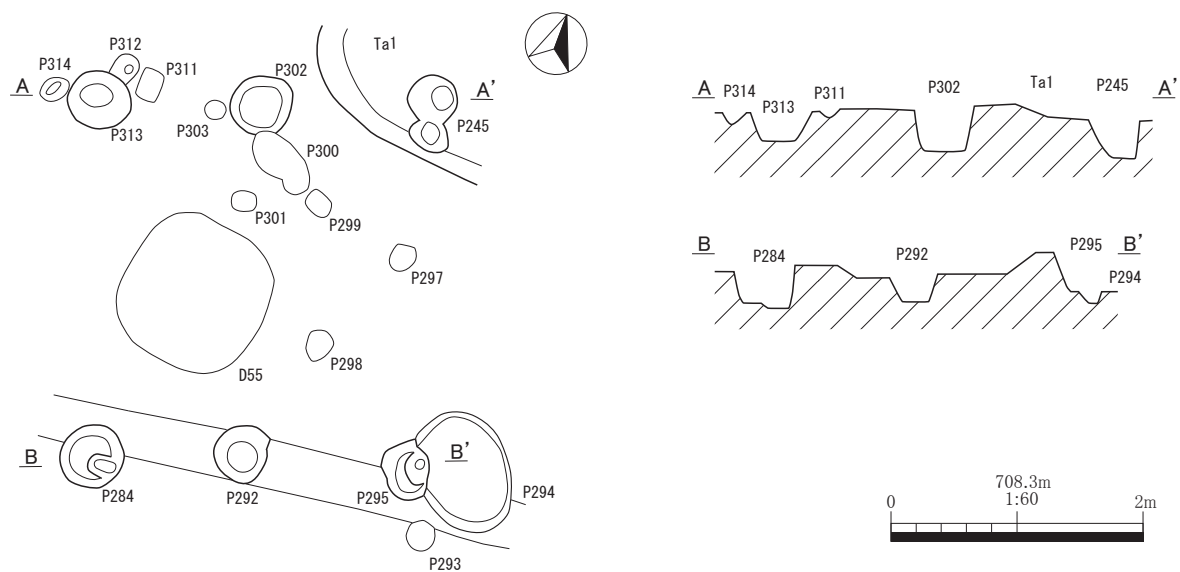
- P9**
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石含む。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック多量含む。
  - 3 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック少量含む。
  - 4 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック多量含む。
  - 5 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。
  - 6 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 黒色土ブロック含む。

第 25 図 F2 号掘立柱建物址遺構図

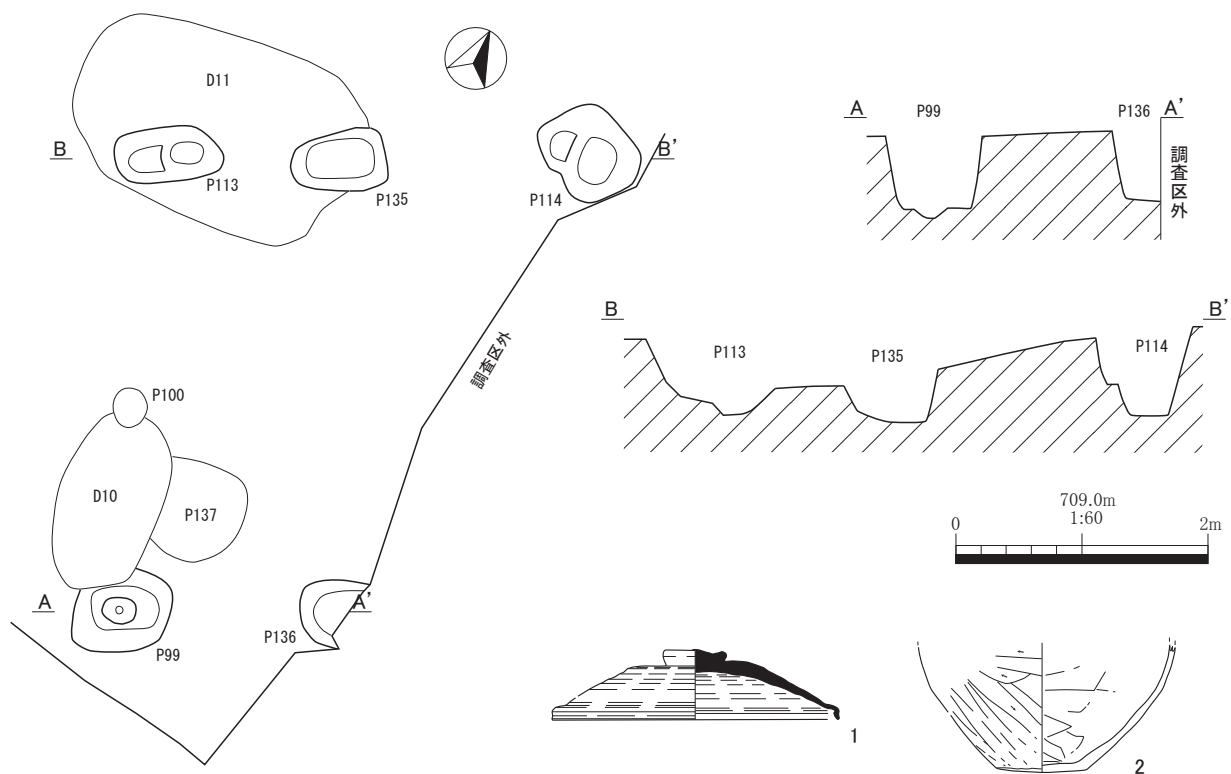


第 26 図 F3 号掘立柱建物址遺構図

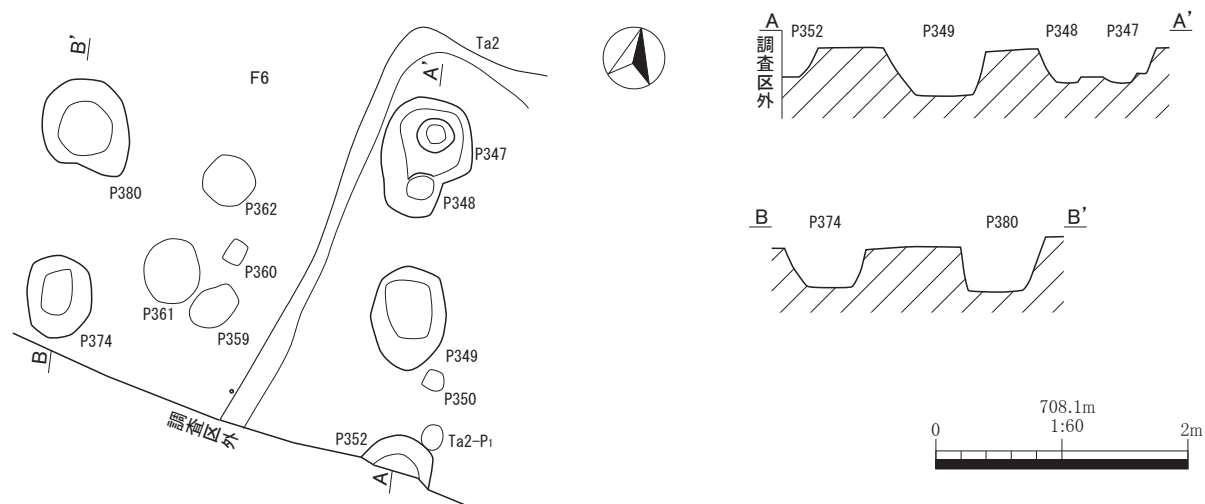




第 27 図 F4 号掘立柱建物址遺構図



第 28 図 F5 号掘立柱建物址遺構図



第 29 図 F6 号掘立柱建物址遺構図

**F6 号掘立柱建物址**（第 29 図） VI - 20 ～ VII - 21 グリッドに位置し、Ta2 号竪穴状遺構より古い。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、P347・P349・P352・P374・P380 により構成され、桁行 2 間以上、梁行 1 間の側柱建物と考えられる。規模は桁行 2.7m 以上、梁行 2.7m を測り、主軸は N - 9° - W である。柱間は桁行で 1.2 ～ 1.4m、梁行で 2.7m であり、柱穴の深さは 23 ～ 43cm である。柱穴は不整楕円形で、埋土は黒褐色土やにぶい橙色土である。

遺物は出土していないが、柱穴の形状や主軸方向から、奈良・平安時代の所産と考えられる。

#### 第 4 節 土坑

長軸が 1m を超えるものを土坑としてピットと区別した。土坑は 98 基検出され、調査区全域に分布する。方形・長方形を呈するものが主体だが、円形・楕円形のものもあり、多くは人為的に埋め戻されたような埋土である。遺物が伴うものはわずかで、土坑ごとの帰属時期を判断するのは困難であるが、形状や埋土等の特徴、わずかに出土する銅銭や青磁などから、中世の所産と考えられる。

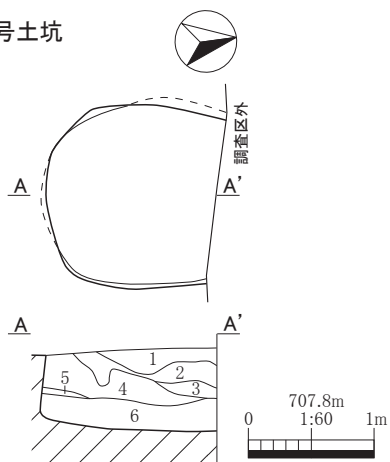
**D1 号土坑**（第 30 図） XI-13 グリッドに位置し、北側が調査区外に延びる。円形に近い隅丸方形を呈し、東西 1.45m、南北 1.37m 以上、主軸は N - 17° - E である。検出面からの深さは 0.65m で、断面はフラスコ状を呈する。

**D2 号土坑**（第 30 図） XII-4 グリッドに位置し、北西側がわずかに調査区外に延びる。不整円形を呈し、長軸 1.06m、短軸 0.83m、主軸は N - 15° - W である。検出面からの深さ 0.15m を測り、断面は浅い U 字形である。

**D3 号土坑**（第 30 図） VIII-14 グリッドに位置し、北側が調査区外に延びる。東西 2.29m、南北 0.58m 以上、主軸は N - 13° - E である。検出面からの深さは 0.56m を測り、埋土中に角礫を数点含む。断面は浅い U 字形である。

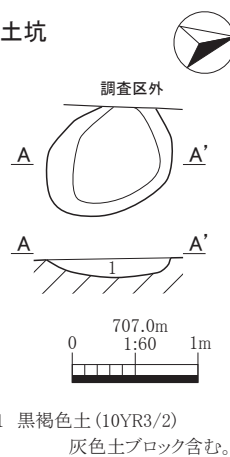
**D4 号土坑**（第 30 図） IV-6 グリッドに位置し、P29 より古い。南北両側がわずかに調査区外に延びる。隅丸長方形を呈し、長軸 1.36m 以上、短軸 1.45m、主軸は N - 6° - E である。検出面からの深さは 0.23m を測り、断面は逆台形である。

D1 号土坑



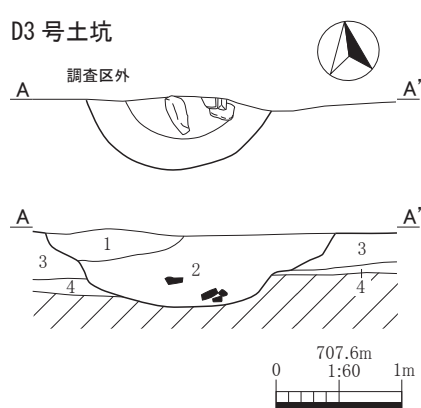
- 1 褐色土 (7.5YR4/3) 炭化物粒含む。
- 2 黒色土 (7.5YR2/1) 炭化物粒含む。
- 3 黒褐色土 (7.5YR3/1) ロームブロック少量含む。
- 4 にぶい赤褐色土 (5YR5/3) 黒色土ブロック少量含む。しまり弱い。
- 5 黒色土 (7.5YR2/1) 混入物なし。
- 6 にぶい赤褐色土 (5YR5/3) しまりやや強い。

D2 号土坑



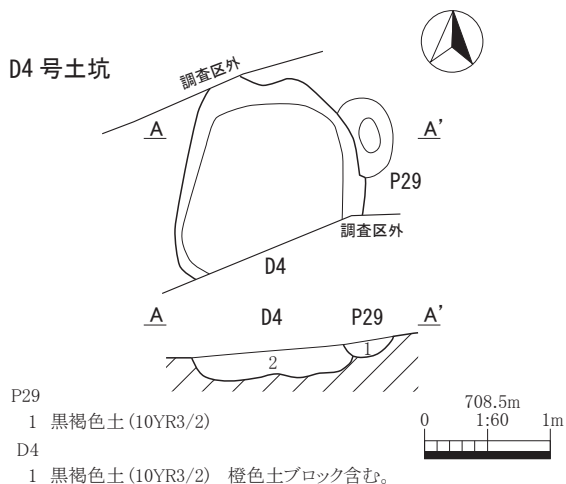
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 灰色土ブロック含む。

D3 号土坑



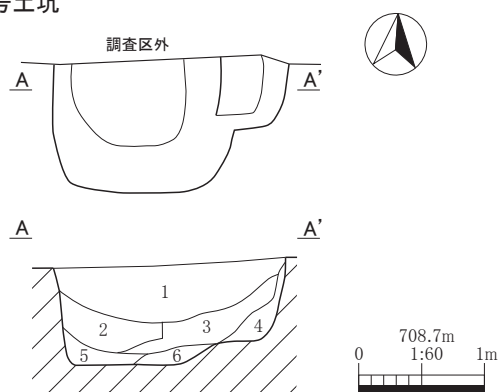
- 1 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまり弱い。
- 2 灰褐色土 (7.5YR4/2) 軽石少量含む。

D4 号土坑



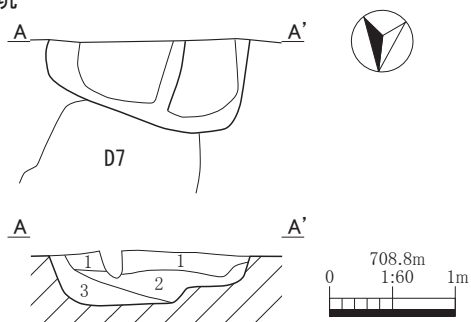
- 1 黒褐色土 (10YR3/2)
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 橙色土ブロック含む。

D5 号土坑



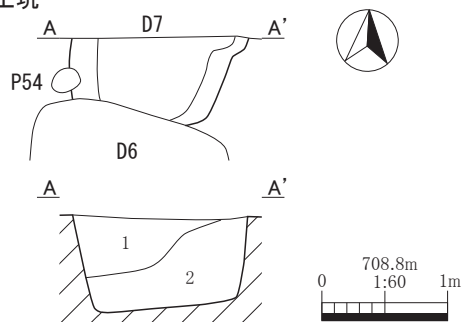
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) にぶい橙色土ブロック含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石少量含む。
- 3 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 黒褐色土・にぶい橙色土ブロック含む。
- 4 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黒褐色土ブロック含む。
- 5 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 混入物なし。
- 6 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。

D6 号土坑



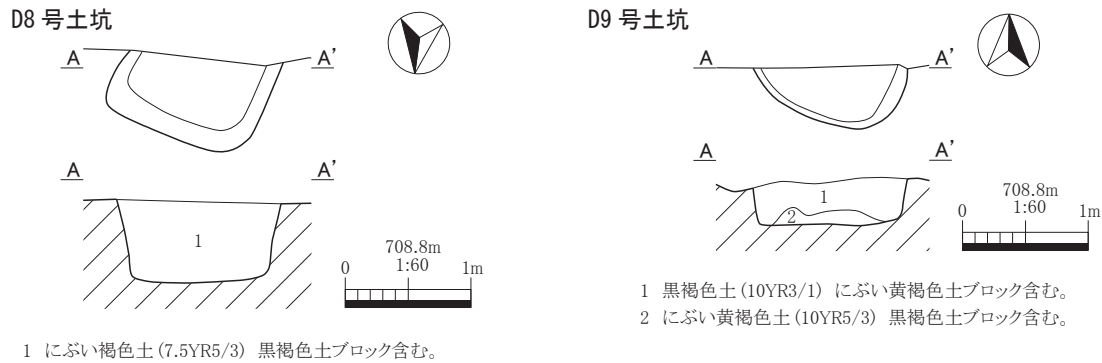
- 1 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黒褐色土ブロック含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) にぶい黄褐色土ブロック含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 軽石含む。

D7 号土坑



- 1 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黒褐色土ブロック多量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 軽石含む。

第 30 図 D1・D2・D3・D4・D5・D6・D7 号土坑遺構図



第 31 図 D8・D9 号土坑遺構図

**D5 号土坑**（第 30 図）Ⅲ - 10 グリッドに位置し、北側が調査区外に延びる。東側にテラス状の張出し部があり、東西 1.85m、南北 1.05m 以上、主軸は  $N - 1^{\circ} - E$  である。検出面からの深さは 0.79m を測り、断面は逆台形である。

**D6 号土坑**（第 30 図）Ⅲ - 9・10 グリッドに位置し、D7 号土坑より新しく、南側が調査区外に延びる。隅丸方形を呈するものと考えられる。西側がテラス状に高くなる。東西 1.60m、南北 0.66m 以上、主軸は  $N - 4^{\circ} - E$  である。検出面からの深さは 0.43m を測り、断面は逆台形である。

**D7 号土坑**（第 30 図）Ⅲ - 9・10 グリッドに位置し、D6 号土坑より古く、北側が調査区外に延びる。東側がテラス状に張出した隅丸方形を呈すると考えられる。東西 1.38m、南北 0.60m 以上、主軸は  $N - 6^{\circ} - E$  である。検出面からの深さは 0.70m を測り、断面は逆台形である。

**D8 号土坑**（第 31 図）Ⅲ - 8 グリッドに位置し、南側が調査区外に延びるが、隅丸方形を呈すると考えられる。東西 1.21m、南北 0.67m 以上、主軸は  $N - 14^{\circ} - E$  である。検出面からの深さは 0.64m を測り、断面は逆台形である。

**D9 号土坑**（第 31 図）Ⅲ - 8 グリッドに位置し、北側が調査区外に延びる。東西 1.16m 以上、南北 0.51m 以上で、検出面からの深さは 0.33m を測り、断面は逆台形である。

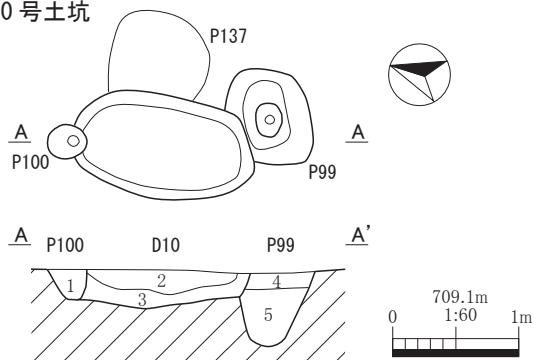
**D10 号土坑**（第 32 図）Ⅸ - 2・3 グリッドに位置し、F5 号掘立柱建物址・P137 より新しく、P100 より古い。平面形は楕円形で、長軸 1.46m、短軸 0.83m、主軸は  $N - 7^{\circ} - W$  である。検出面からの深さは 0.31m で、断面は逆台形である。

**D11 号土坑**（第 32 図）Ⅴ - 23 グリッドに位置し、F5 号掘立柱建物址・P113 より新しい。平面形は楕円形で、長軸 2.34m、短軸 1.49m、主軸は  $N - 86^{\circ} - E$  である。検出面からの深さは 0.37m で、南側にテラス状の段が認められる。断面は逆台形である。

**D12 号土坑**（第 32 図）Ⅴ - 18 グリッドに位置し、D13 号土坑より古い。平面形は不整長方形で、長軸 2.19m、短軸 1.41m、主軸は  $N - 80^{\circ} - E$  である。検出面からの深さは 0.22m で、断面は逆台形である。

**D13 号土坑**（第 32 図）Ⅴ - 18 グリッドに位置し、D12 号土坑より新しい。平面形は北西側が丸く張出した隅丸長方形で、張出した部分にテラス状の段を有する。長軸 2.05m、短軸 1.37m、主軸は  $N - 3^{\circ} - W$  である。検出面からの深さは 1.01m で、断面は逆台形である。

### D10 号土坑



P100

1 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石含む。

D10

2 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック少量含む。

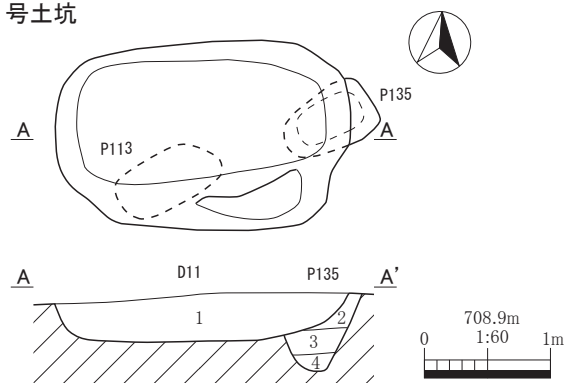
3 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック多量含む。

P99

4 黒褐色土 (10YR3/1) 混入物なし。

5 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック含む。

### D11 号土坑



D11

1 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック含む。

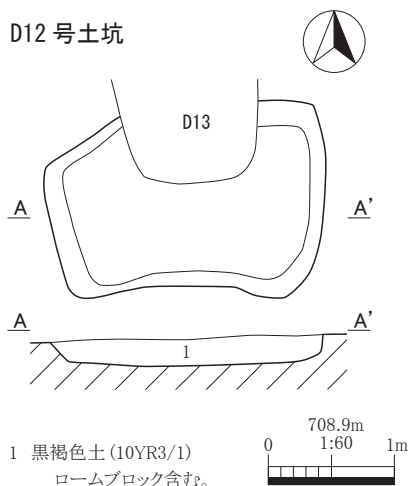
P135

2 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ロームブロック含む。

3 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黒褐色土ブロック含む。

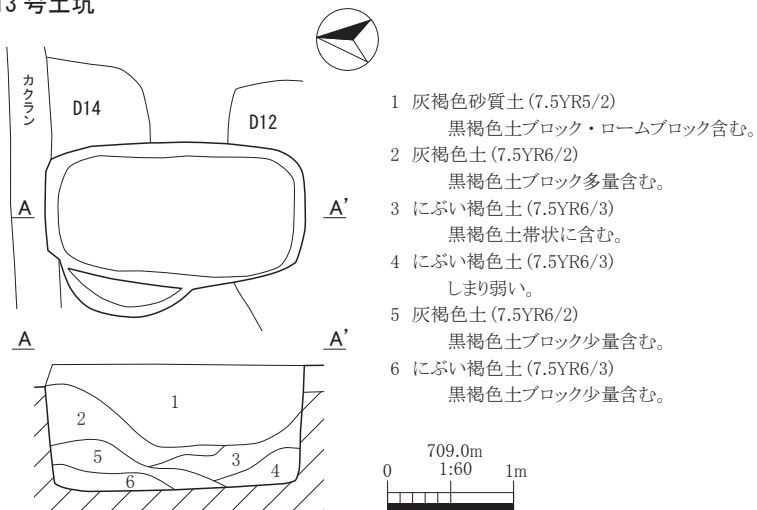
4 黒色土 (10YR2/1) ロームブロック含む。

### D12 号土坑



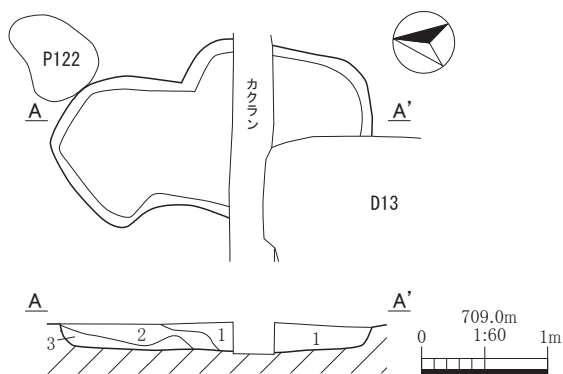
1 黒褐色土 (10YR3/1)  
ロームブロック含む。

### D13 号土坑



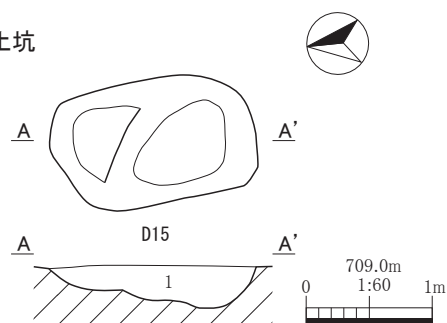
- 1 灰褐色砂質土 (7.5YR5/2)  
黒褐色土ブロック・ロームブロック含む。
- 2 灰褐色土 (7.5YR6/2)  
黒褐色土ブロック多量含む。
- 3 にぶい褐色土 (7.5YR6/3)  
黒褐色土帯状に含む。
- 4 にぶい褐色土 (7.5YR6/3)  
しまり弱い。
- 5 灰褐色土 (7.5YR6/2)  
黒褐色土ブロック少量含む。
- 6 にぶい褐色土 (7.5YR6/3)  
黒褐色土ブロック少量含む。

### D14 号土坑



- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 軽石含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石含む。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック含む。

### D15 号土坑



1 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック含む。

第 32 図 D10・D11・D12・D13・D14・D15 号土坑遺構図

**D14 号土坑**（第 32 図） V-18 グリッドに位置し、D13 号土坑より古い。平面形は不整形で、長軸 2.54m、短軸 1.41m、主軸は N-3° - W である。検出面からの深さは 0.22m で、断面は逆台形である。

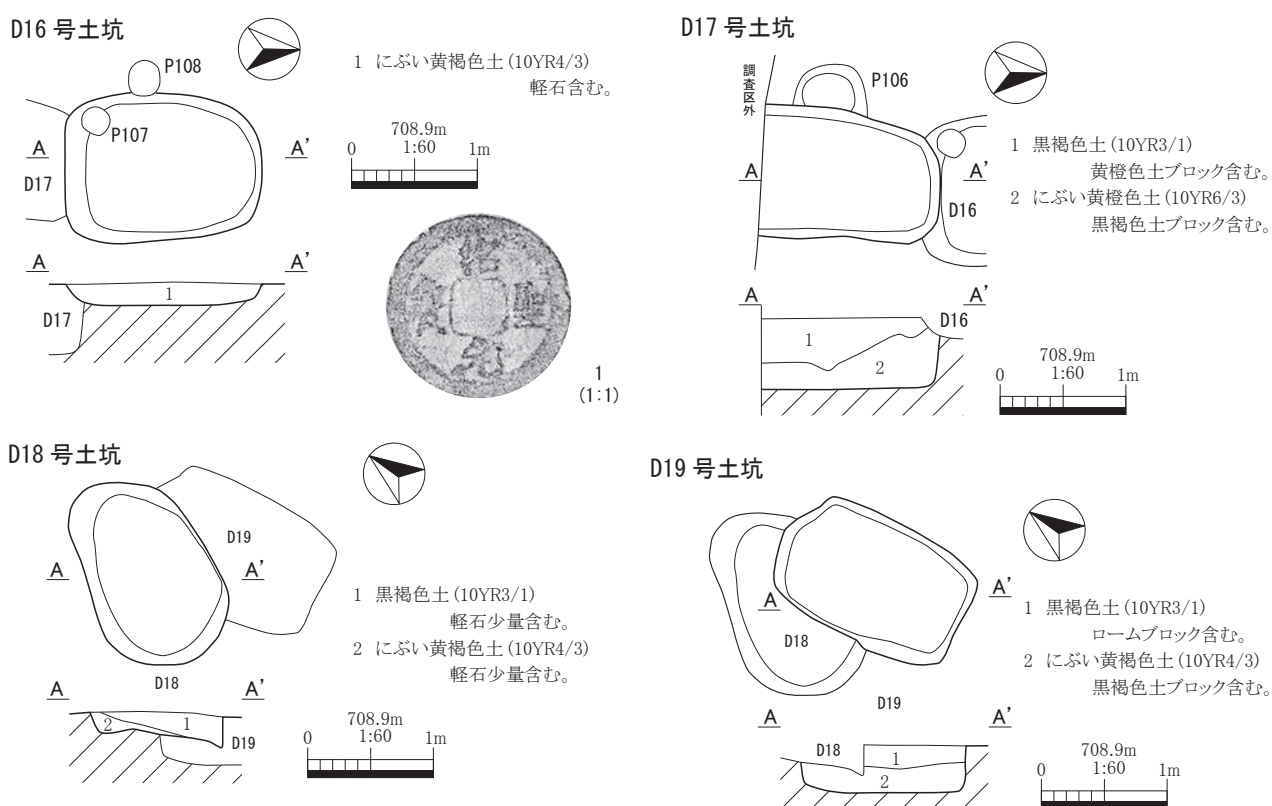
**D15 号土坑**（第 32 図） V-18 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸 1.63m、短軸 0.95m、主軸は N-3° - W である。検出面からの深さは 0.34m で、断面は U 字形だが、底面は平坦ではない。

**D16 号土坑**（第 33 図） V-23 グリッドに位置し、D17 号土坑より新しい。平面形は隅丸方形で、長軸 1.56m、短軸 1.17m、主軸は N-2° - W である。検出面からの深さは 0.18m で、断面は逆台形である。埋土から銅銭が出土している。銅銭は紹聖元寶（北宋 1094 年）である。

**D17 号土坑**（第 33 図） IX-3 グリッドに位置し、D16 号土坑より古い。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、隅丸長方形を呈すると考えられる。長軸 1.41m 以上、短軸 1.02m、主軸は N-5° - E である。検出面からの深さは 0.56m で、断面は逆台形である。

**D18 号土坑**（第 33 図） V-18 グリッドに位置し、D19 号土坑より新しい。平面形は楕円形で、長軸 1.58m、短軸 0.97m、主軸は N-28° - E である。検出面からの深さは 0.18m で、断面は逆台形であるが底面が平坦ではない。

**D19 号土坑**（第 33 図） V-23 グリッドに位置し、D18 号土坑より古い。平面形は長方形で、長軸 1.57m、短軸 1.01m、主軸は N-62° - W である。検出面からの深さは 0.38m で、断面は逆台形である。



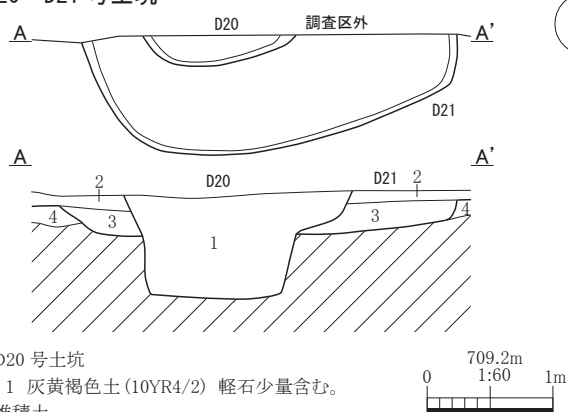
第 33 図 D16・D17・D18・D19 号土坑遺構図

**D20 号土坑**（第 34 図） V - 5 グリッドに位置し、D21 号土坑より新しい。ほとんどが調査区外に延びるため平面形は不明だが、断面図では東側にテラス状の段が確認できる。東西 1.77m 以上で、検出面からの深さは 0.81m で、断面は逆台形である。

**D21 号土坑**（第 34 図） V - 5 グリッドに位置し、D20 号土坑より古い。北側が調査区外に延びるため全容は不明である。東西 2.78m、南北 0.87m 以上、主軸は N-8° - E である。検出面からの深さは 0.22m で、断面は浅い U 字形である。

**D22 号土坑**（第 34 図） V - 24 グリッドに位置し、F1 号掘立柱建物址・D23 号土坑より新しい。平面形は隅丸方形で長軸 1.40m、短軸 1.22m、主軸は N - 98° - E である。検出面からの深さは 0.10m で、断面は逆台形である。

D20・D21 号土坑



D20 号土坑

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 軽石少量含む。

堆積土

2 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 軽石少量含む。

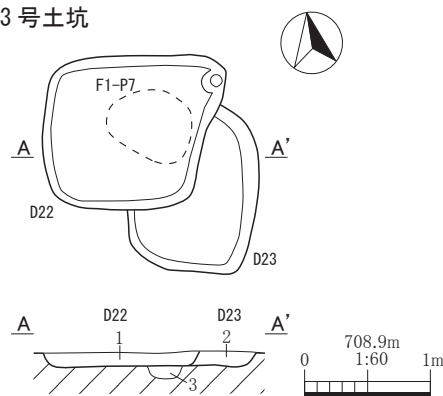
D21 号土坑

3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロック含む。

堆積土

4 灰黄褐色土 (10YR5/2)

D22・D23 号土坑



D22 号土坑

1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 軽石少量含む。

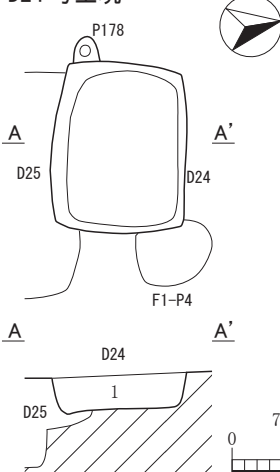
D23 号土坑

2 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石少量含む。

F1-P7

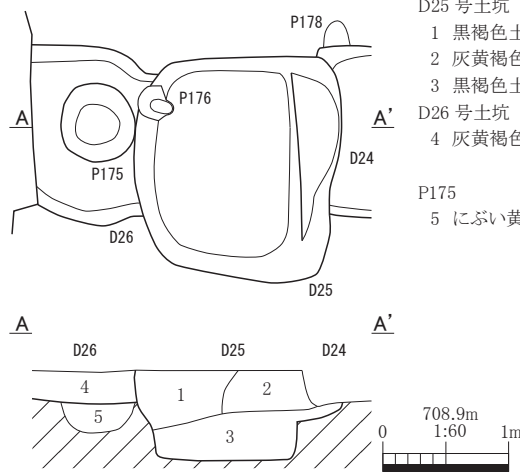
3 黒色土 (10YR2/1) ロームブロック少量含む。

D24 号土坑



1 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック含む。

D25・26 号土坑



D25 号土坑

1 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック少量含む。

2 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック多量含む。

3 黒褐色土 (10YR3/1) 灰黄褐色土ブロック多量含む。

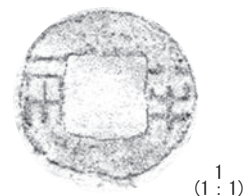
D26 号土坑

4 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック・

黒褐色土ブロック含む。

P175

5 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黒褐色土ブロック含む。



第 34 図 D20・D21・D22・D23・D24・D25・D26 号土坑遺構図



**D23 号土坑**（第 34 図） IX-4 グリッドに位置し、D22 号土坑より古い。平面形は隅丸方形で長軸 1.33m、短軸 0.97m、主軸は N - 17° - E である。検出面からの深さは 0.12m で、断面は逆台形である。

**D24 号土坑**（第 34 図） V - 25・VI - 21 グリッドに位置し、D25 号土坑より新しい。平面形は方形で長軸 1.34m、短軸 1.07m、主軸は N - 77° - W である。検出面からの深さは 0.27m で、断面は逆台形である。

**D25 号土坑**（第 34 図） V - 25・VI - 21 グリッドに位置し、D26 号土坑より新しく、D24 号土坑より古い。平面形は隅丸方形で、北側がわずかに張出してテラス状の段を有する。長軸 1.75m、短軸 1.63m、主軸は N - 79° - W である。検出面からの深さは 0.72m で、断面は逆台形である。

遺物は銅銭が出土している。中央右側に「半」、左側に「両」という二文字が配される。前漢代の半両銭（前 175 年）と考えられる。中世に他の銅銭と共に持ち込まれたものと考えられる。

**D26 号土坑**（第 34 図） VI - 21 グリッドに位置し、P175 より新しく、D25 号土坑より古い。南側が調査区外に延び、北側が D25 号土坑に切られるため全容は不明である。東西 1.41m、南北 0.81m 以上、主軸は N - 16° - E である。検出面からの深さは 0.25m で、断面は逆台形である。

**D27 号土坑**（第 35 図） VI - 16 グリッドに位置し、P200 より新しく、P198・P199 より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸 2.79m、短軸 1.19m、主軸は N - 75° - W である。検出面からの深さは 0.42m で、断面は逆台形である。

埋土から遺物が出土しており、1 は灰釉陶器の碗である。9 世紀後半の所産とみられるが、混入品と考えられる。

**D28 号土坑**（第 35 図） V - 15 グリッドに位置し、D19・D34・D40 号土坑より新しい。平面形は楕円形で、南側と東側にテラス状の段を有する。長軸 2.33m、短軸 1.57m、主軸は N - 6° - E である。検出面からの深さは 0.54m で、断面は逆台形である。

埋土から須恵器が出土している。1 は須恵器の有台坏であるが、混入品と考えられる。

**D29 号土坑**（第 35 図） V - 14 グリッドに位置し、D18 より古い。西側が D18 号土坑に切られており全容は不明だが、東西 0.74m 以上、南北 1.16m を測り、主軸は N - 1° - E である。検出面からの深さは 0.24m で、断面は逆台形である。

**D30 号土坑**（第 36 図） VI - 21 グリッドに位置する。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、北側が張出した長方形であろうか。長軸 1.25m 以上、短軸 1.19m、主軸は N - 13° - E である。検出面から底面までの深さは 0.83m で、断面は逆台形である。

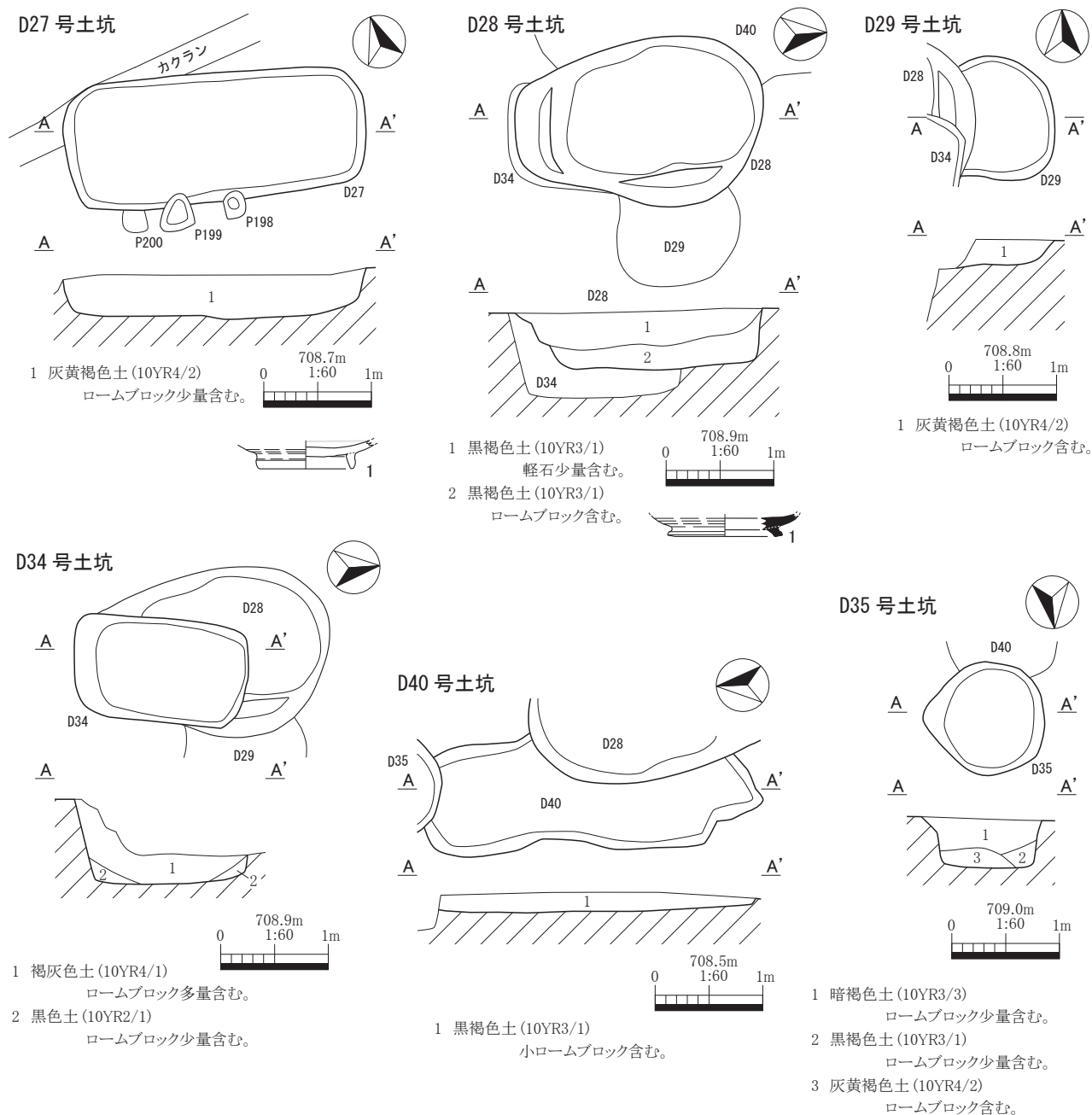
検出面から 0.43m の深さで、厚さ 10cm 程度の灰と骨の堆積が認められた。これらは土坑中央部で面的に確認でき、その下部と北側張出し部では焼土も確認できる。骨灰層より下位の堆積は、ロームブロックを含むもので、人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物は出土しなかった。

本址は中世以降の火葬墓と考えられるが、土坑を埋め戻し転用したものであろうか。

**D31 号土坑**（第 36 図） V - 20 グリッドに位置し、D39 号土坑より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 2.95m、短軸 1.06m、主軸は N - 83° - E である。検出面から底面までの深さは 0.49m で、断面は逆台形である。

**D32 号土坑**（第 36 図） VI - 11 グリッドに位置し、D50・D51 号土坑より新しい。平面形は隅丸方形で、長軸 1.83m、短軸 1.46m、主軸は N - 85° - W である。検出面からの深さは 0.49m で、断面は逆台形である。



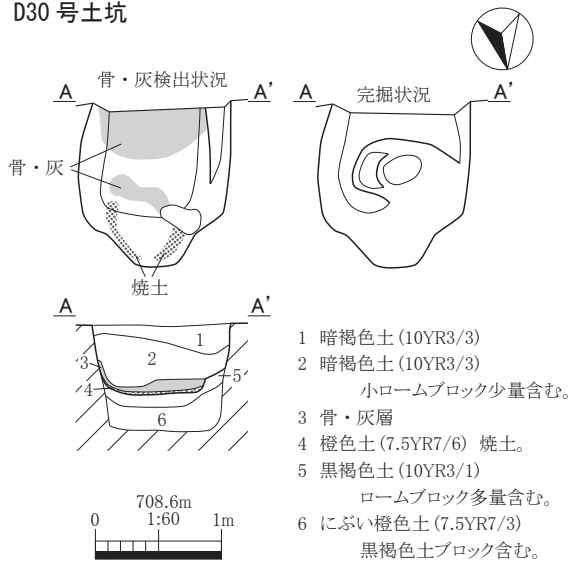


第 35 図 D27・D28・D29・D34・D35・D40 号土坑遺構図

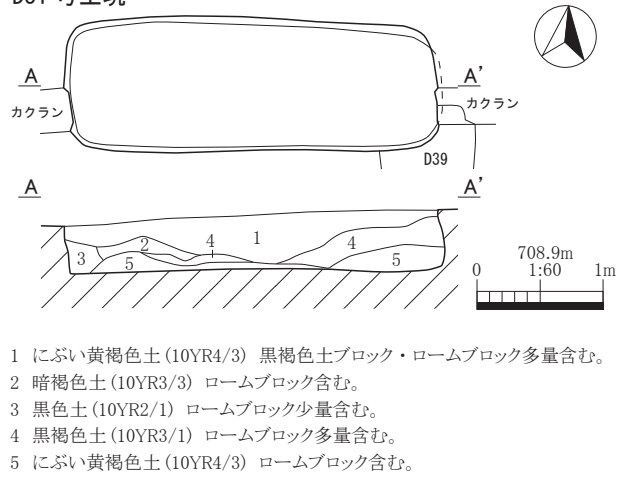
**D33 号土坑**（第 36 図） VI-21 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.55m、短軸 0.96m、主軸は N - 73° - W である。検出面で、土坑周辺に角礫が検出されており、本址に伴うものである可能性がある。検出面からの深さは 0.21m で、断面は浅い U 字形である。

**D34 号土坑**（第 35 図） V-15 グリッドに位置し、D28 号土坑より古い。上部を D28 号土坑に切られるが、隅丸長方形を呈すると考えられる。長軸 1.62m、短軸 0.95m、主軸は N - 11° - E である。検出面からの深さは 0.80m で、断面は逆台形である。

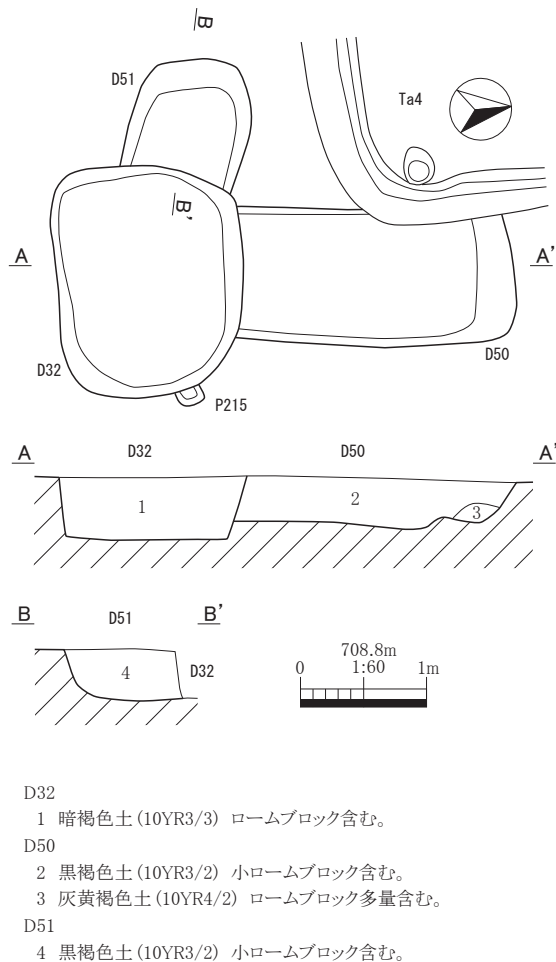
### D30 号土坑



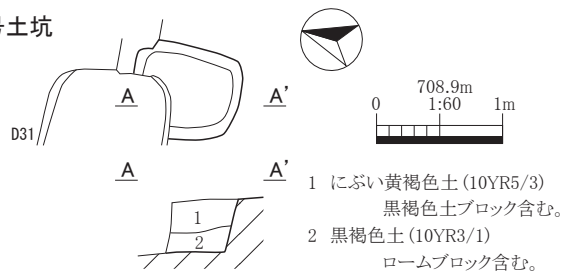
### D31 号土坑



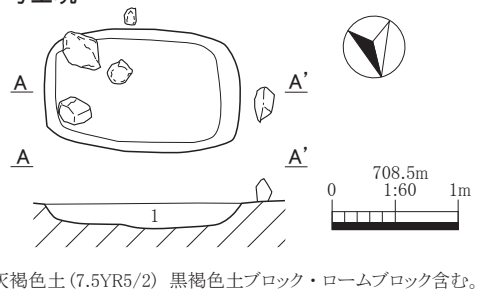
### D32・D50・D51 号土坑



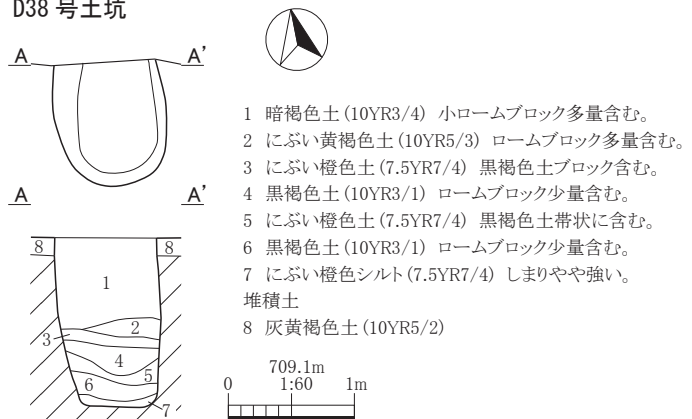
### D39 号土坑



### D33 号土坑



### D38 号土坑



第 36 図 D30・D31・D32・D33・D38・D39・D50・D51 号土坑遺構図

**D35 号土坑**（第35図） V-15 グリッドに位置し、D40 号土坑より新しい。平面形は不整円形で、長軸 1.11m、短軸 1.04m、主軸は N-82° - W である。検出面からの深さは 0.46 m で、断面は逆台形である。

**D36 号土坑**（第37図） VI-17～23 グリッドに位置し、D61・D63 号土坑より新しい。平面形は隅丸方形で、南側から西側にテラス状の段を有する。長軸 2.29m、短軸 1.57m、主軸は N-13° - E である。検出面からの深さは 0.49m で、断面は逆台形である。

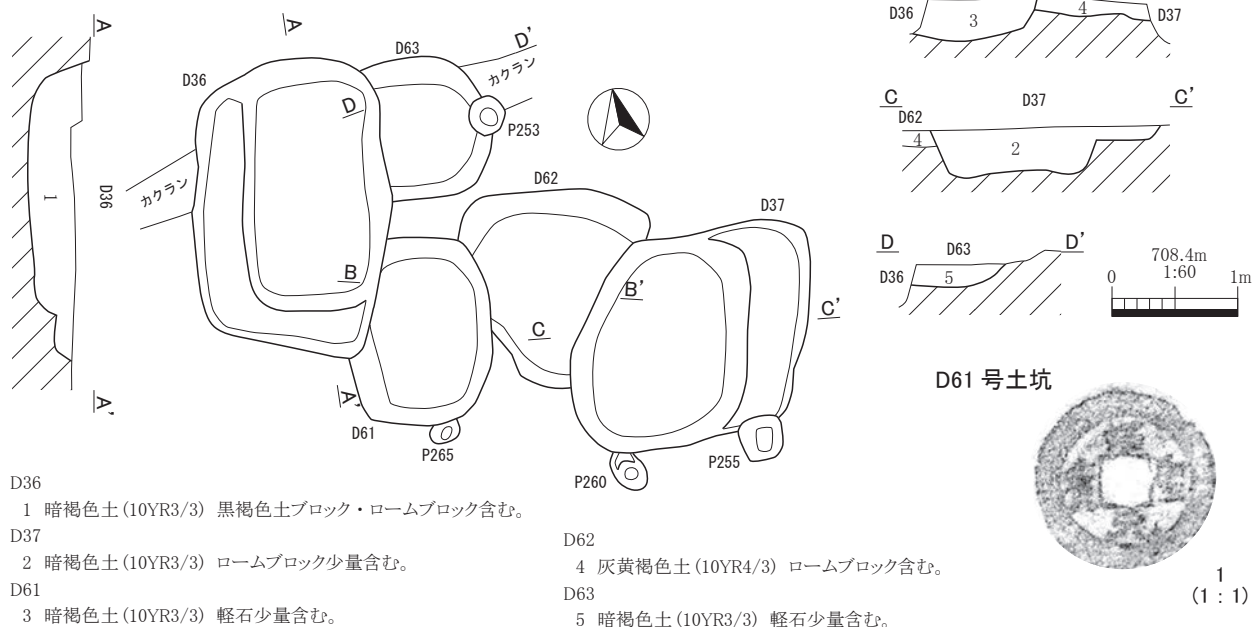
**D37 号土坑**（第37図） VI-22 グリッドに位置し、D62 号土坑・P260 より新しく、P255 より古い。平面形は不整方形で、東側にテラス状の段を有する。長軸 1.84m、短軸 1.68m、主軸は N-81° - W である。検出面からの深さは 0.39m で、断面は逆台形である。

**D38 号土坑**（第36図） VI-1 グリッドに位置する。北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、楕円形を呈すると考えられる。長軸 0.98m 以上、短軸 0.89m、主軸は N-8° - E である。検出面からの深さは 1.34m で、断面は逆台形である。

**D39 号土坑**（第36図） V-19 グリッドに位置し、D31 号土坑より古い。一部が D31 号土坑に切られるが、隅丸方形を呈すると考えられる。長軸 0.86m、短軸 0.74m、主軸は N-7° - W である。検出面からの深さは 0.41m で、断面は逆台形である。

**D40 号土坑**（第35図） V-15 グリッドに位置し、D28・D35 号土坑より古い。平面形は不整形で、長軸 3.00m、短軸 1.05m、主軸は N-5° - W である。検出面からの深さは 0.17m で、すり鉢状の浅い掘込みである。

D36・D37・D61・D62・D63 号土坑

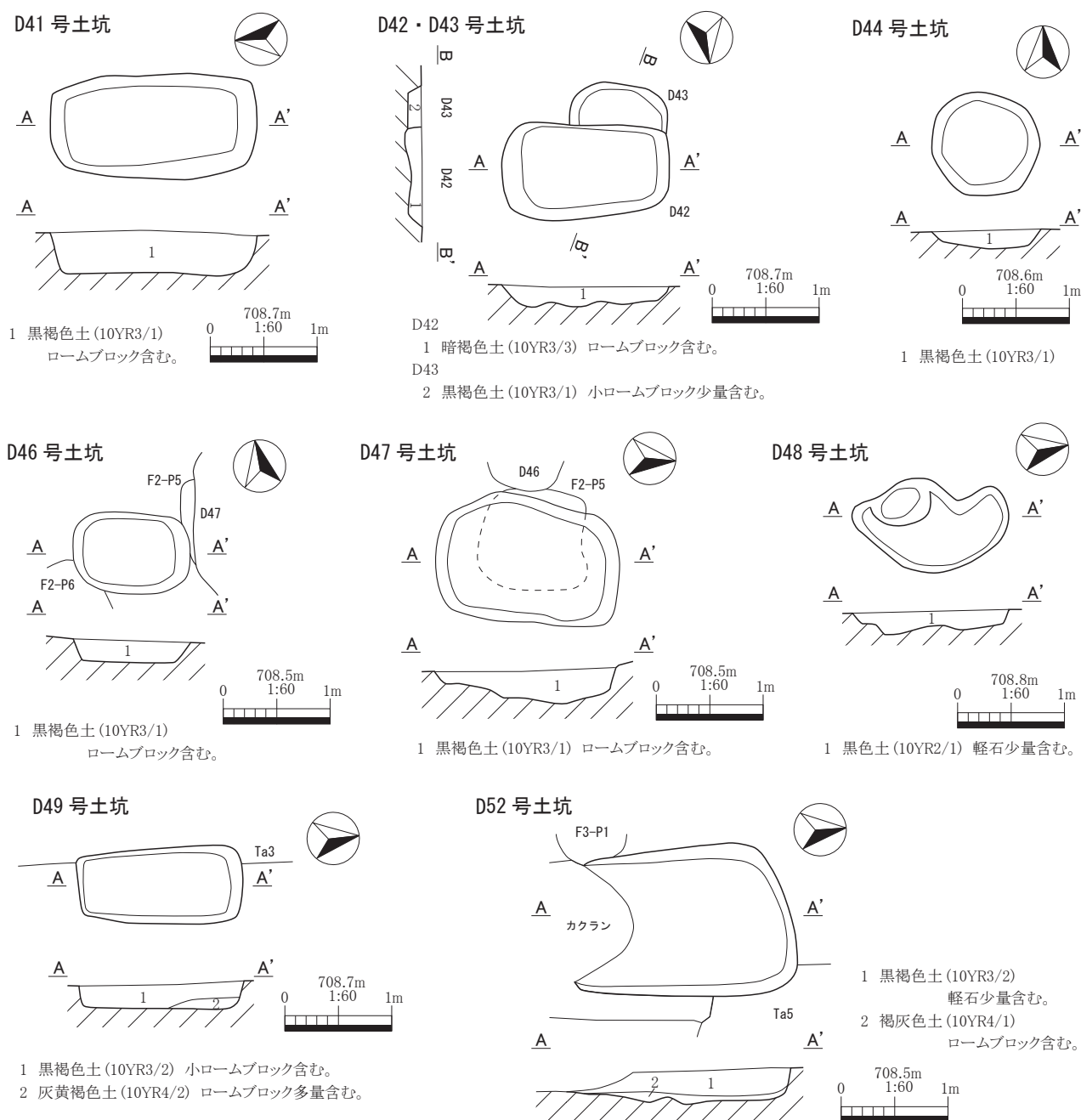


第37図 D36・D37・D61・D62・D63 号土坑遺構図

**D41 号土坑**（第 38 図） VI-12 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.92m、短軸 0.99m、主軸は N - 3° - E である。検出面からの深さは 0.41m で、断面は逆台形である。

**D42 号土坑**（第 38 図） VI-12 グリッドに位置し、D43 号土坑より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.56m、短軸 0.88m、主軸は N - 83° - W である。検出面からの深さは 0.18m で、断面は浅い U 字形だが底部は平坦ではない。

**D43 号土坑**（第 38 図） VI-12 グリッドに位置し、D42 号土坑より古い。隅丸方形を呈すると考えられ、



第 38 図 D41・D42・D43・D44・D46・D47・D48・D49・D52 号土坑遺構図

東西 0.91m、南北 0.38m 以上を測り、検出面からの深さは 0.12m で、断面は逆台形である。

**D44 号土坑**（第 38 図） VI-17 グリッドに位置する。平面形は円形で、長軸 1.00m、短軸 0.96m である。検出面からの深さは 0.18m で、断面は浅い U 字形である。

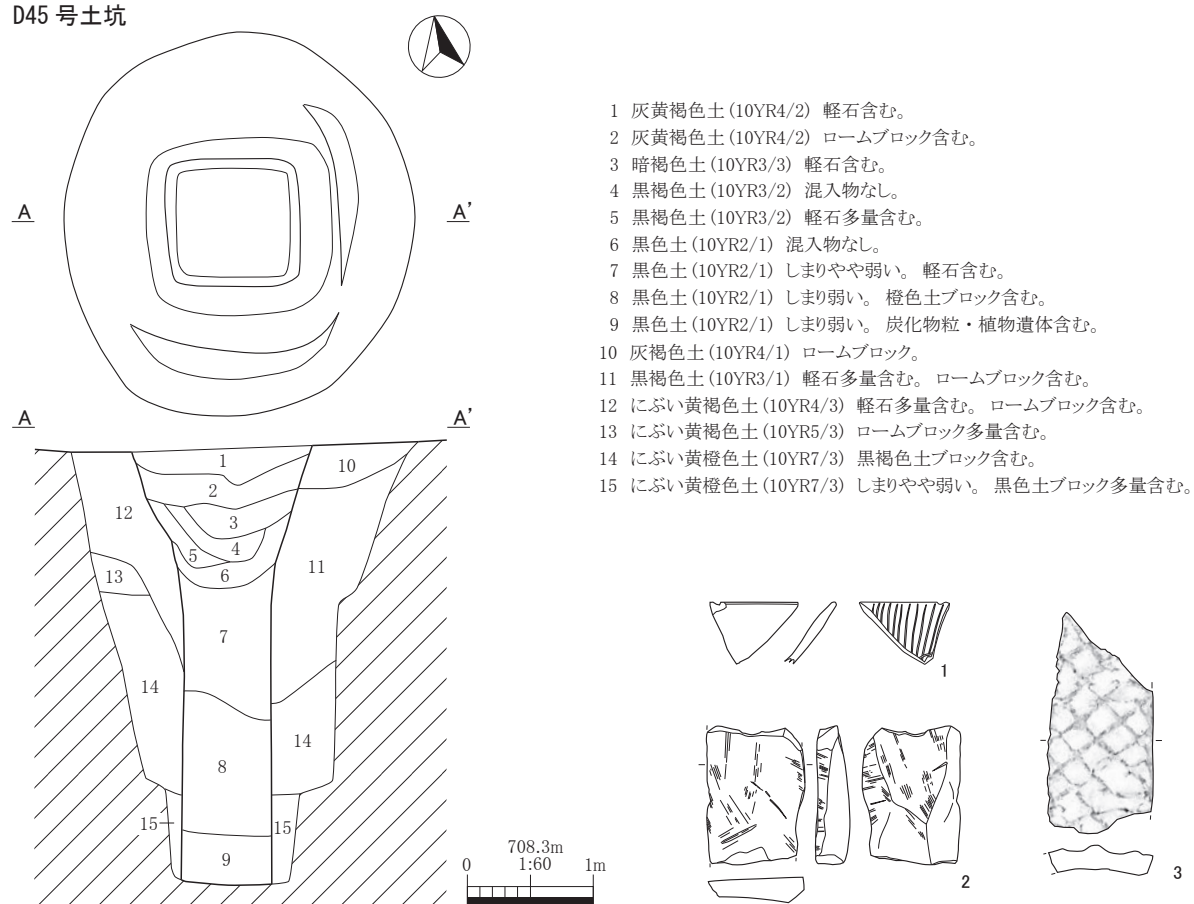
**D45 号土坑**（第 39 図） VII-6・11 グリッドに位置する。検出時の平面形は円形で、長軸 3.05m、短軸 2.78m である。検出面から深さ 2.76m で段を有し、以下一辺 1.00m の方形を呈し、方形部分の深さは 0.70m である。検出面から 2m 程度の深さで湧水がみられた。堀方の形状や垂直に立上る土層堆積（1～9 層）から、本址は井戸址と考えられ、方形の井戸枠が組まれていたものと考えられる。底面付近では腐食した板状の木材などの有機物も確認できた。

遺物は井戸枠内の埋土から、土器や平瓦などが出土しているが、いずれも混入品と考えられる。1 は土師器の碗であり、内面にはミガキによる暗文がみられる。2 は砥石である。3 は古代の平瓦であり、周辺の調査区で出土したものと同様のたたき目を有する。本址は、堀方の形状等から中世の所産と考えたい。

**D46 号土坑**（第 38 図） VI-10 グリッドに位置し、F2 号掘立柱建物址より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.10m、短軸 0.70m、主軸は N-76° -W である。検出面からの深さは 0.21m で、断面は逆台形である。

**D47 号土坑**（第 38 図） VI-9 グリッドに位置し、F2 号掘立柱建物址より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.72m、短軸 1.16m、主軸は N-3° -E である。検出面からの深さは 0.32m で、断面は浅い U 字形である。

D45 号土坑



第 39 図 D45 号土坑遺構図・遺物実測図

**D48 号土坑**（第 38 図） V - 15 グリッドに位置する。平面形は不定形で、長軸 1.46m、短軸 0.87m、主軸は N - 7° - E である。検出面からの深さは 0.20m で、断面は浅い U 字形であるが底面は平坦ではない。

**D49 号土坑**（第 38 図） VI - 1 グリッドに位置し、Ta3 号堅穴状遺構より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.53m、短軸 0.70m、主軸は N - 8° - E である。検出面からの深さは 0.23m で、断面は逆台形である。

**D50 号土坑**（第 36 図） VI - 6 グリッドに位置し、Ta4 号堅穴状遺構・D32 号土坑より古い。平面形は隅丸長方形と考えられる。長軸 2.13m 以上、短軸 1.07m、主軸は N - 7° - E である。検出面からの深さは 0.38m で、断面は逆台形である。

**D51 号土坑**（第 36 図） VI - 11 グリッドに位置し、D32 号土坑より古い。隅丸方形を呈すると考えられ、東西 0.90m 以上、南北 0.94m を測り、検出面からの深さは 0.41m で、断面は逆台形である。

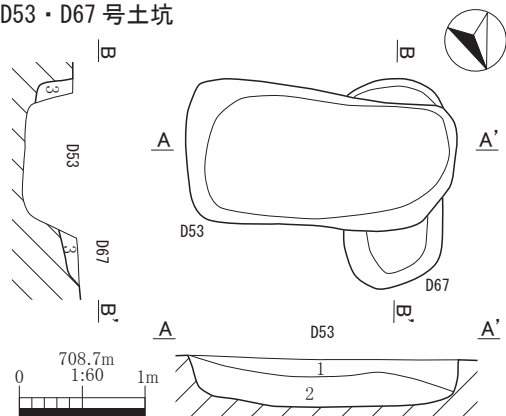
**D52 号土坑**（第 38 図） VI - 5 グリッドに位置し、Ta5 号堅穴状遺構・F3 号掘立柱建物址より新しい。南側がカクランを受けており全容は不明だが、隅丸長方形を呈するものと考えられる。長軸 1.98m 以上、短軸 1.38m、主軸は N - 4° - E である。検出面からの深さは 0.29m で、断面は逆台形である。

**D53 号土坑**（第 40 図） VI - 7 グリッドに位置し、Ta4 号堅穴状遺構・D67 号土坑より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 2.14m、短軸 1.07m、主軸は N - 63° - W である。検出面からの深さは 0.38m で、断面は逆台形である。

**D54 号土坑**（第 40 図） VI - 2 グリッドに位置し、Ta3 号堅穴状遺構より古い。平面形は隅丸長方形と考えられ、長軸 1.52m 以上、短軸 1.33m、主軸は N - 85° - W である。検出面からの深さは 0.22m で、断面は逆台形である。

遺物は青磁と銅銭が出土している。1・2 は青磁で、1 は連弁碗である。2 は碗で、内面に画花文が施される。3 は銅銭で、紹聖元寶（北宋 1094 年）である。D54 号土坑は、13 世紀～14 世紀の所産と考えたい。

D53・D67 号土坑



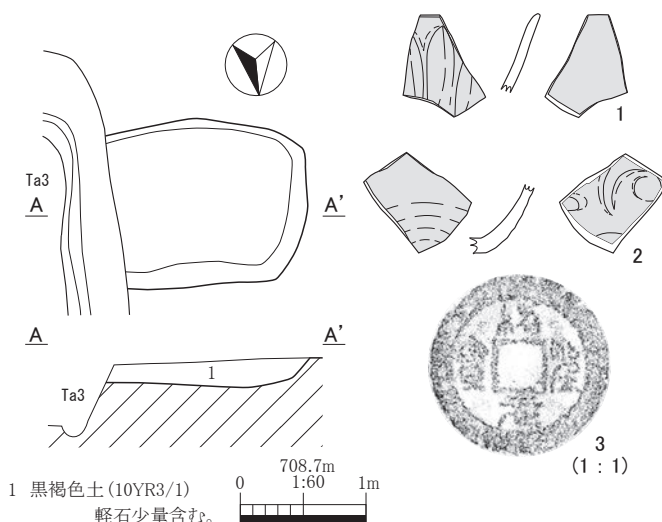
D53

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 軽石含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック多量含む。

D67

- 3 黒褐色土(10YR3/2) 小ロームブロック含む。

D54 号土坑



- 1 黒褐色土(10YR3/1) 軽石少量含む。

3 (1 : 1)

第 40 図 D53・D54・D67 号土坑遺構図・遺物実測図

**D55 号土坑**（第 41 図） VI-19 グリッドに位置する。平面形は隅丸方形で、長軸 1.17m、短軸 1.13m、主軸は N - 13° - E である。検出面からの深さは 0.36m で、断面は逆台形である。

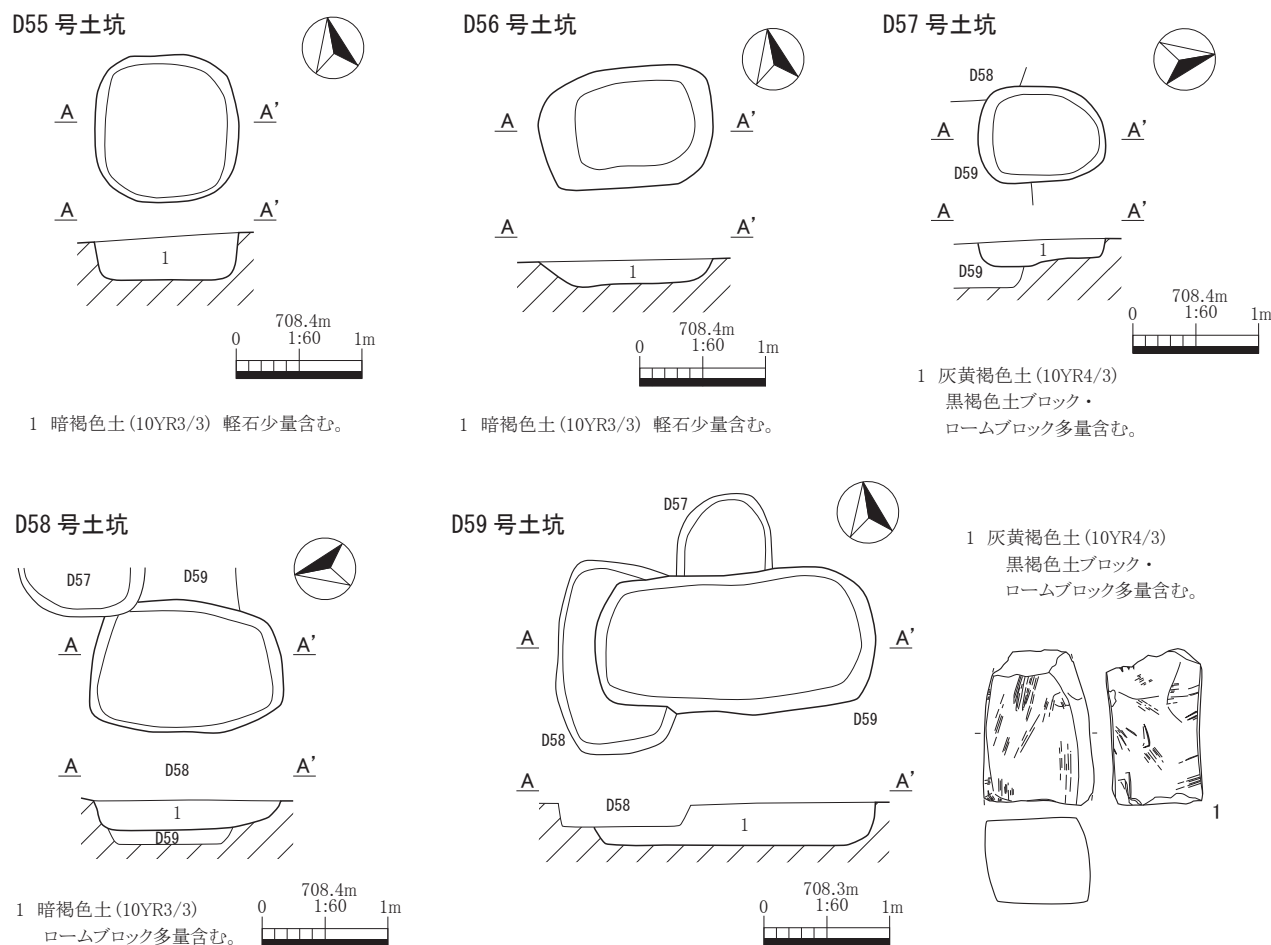
**D56 号土坑**（第 41 図） VI-19 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.37m、短軸 0.94m、主軸は N - 85° - W である。検出面からの深さは 0.19m で、断面は浅い U 字形である。

**D57 号土坑**（第 41 図） VI-14 グリッドに位置し、D58・D59 号土坑より新しい。平面形は隅丸方形で、長軸 1.01m、短軸 0.76m、主軸は N - 10° - E である。検出面からの深さは 0.21m で、断面は逆台形である。

**D58 号土坑**（第 41 図） VI-14 グリッドに位置し、D59 号土坑より新しく、D57 号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.50m、短軸 1.05m、主軸は N - 12° - E である。検出面からの深さは 0.25m で、断面は浅い U 字形である。

**D59 号土坑**（第 41 図） VI-14 グリッドに位置し、D57・D58 号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸 2.21m、短軸 1.12m、主軸は N - 81° - W である。検出面からの深さは 0.33m で、断面は逆台形である。遺物は、1 の砥石が出土している。

**D60 号土坑**（第 42 図） VI-15 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 2.52m、短軸 1.68m、主軸は N - 81° - W である。検出面からの深さは 0.24m で、断面は逆台形である。



第 41 図 D55・D56・D57・D58・D59 号土坑遺構図・遺物実測図



**D61 号土坑**（第 37 図） VI-22 グリッドに位置し、D62 号土坑・P265 より新しく、D36 号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.50m、短軸 1.15m、主軸は N-9° -E である。検出面からの深さは 0.33m で、断面は U 字形である。

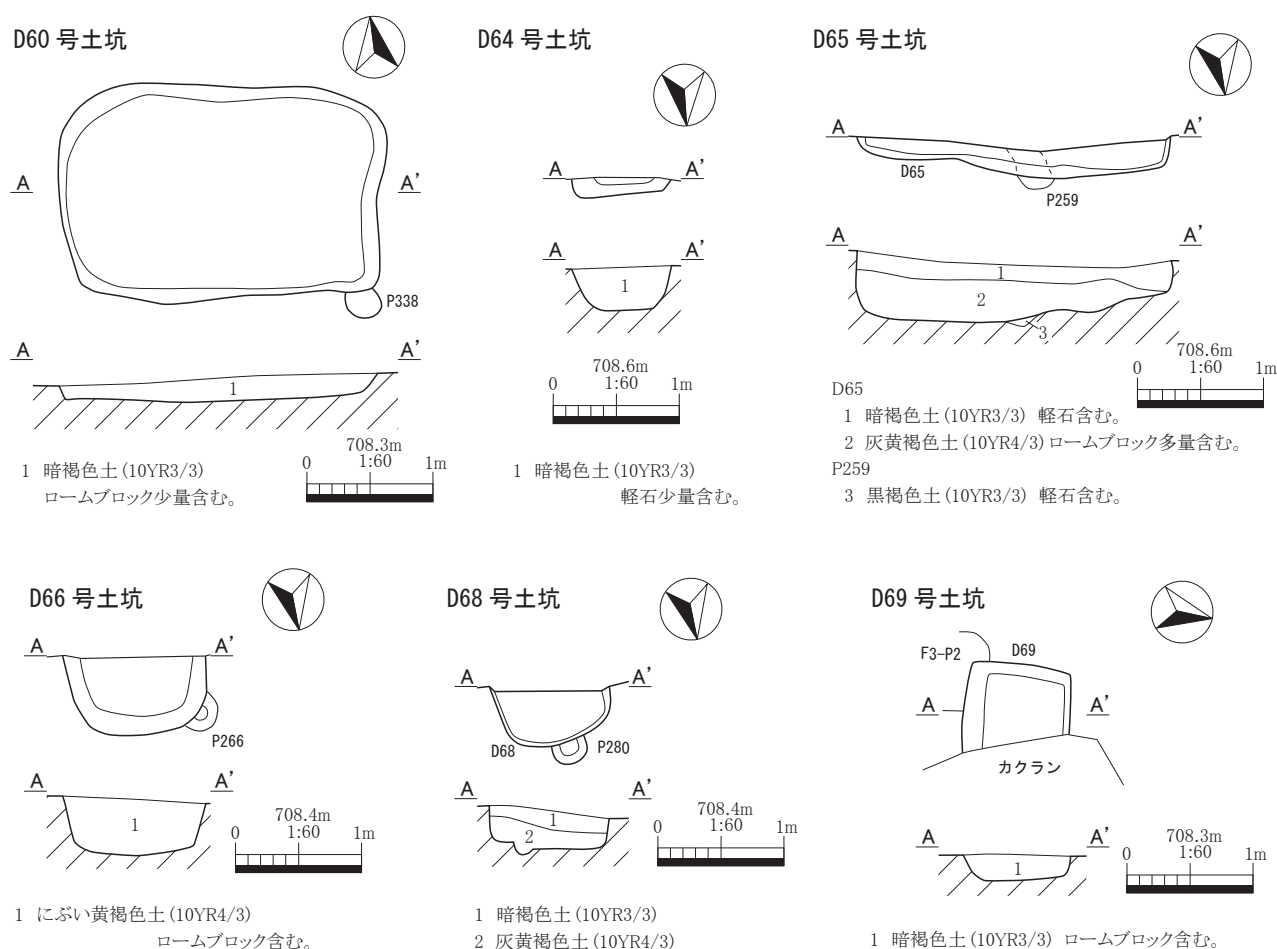
遺物は、1 の銅銭が出土している。紹聖元寶（北宋 1094 年）である。

**D62 号土坑**（第 37 図） VI-22 グリッドに位置し、D37・D61 号土坑古い。平面形は不整形で、長軸 1.58m、短軸 1.48m、主軸は N-18° -E である。検出面からの深さは 0.13m で、断面は浅い U 字形である。

**D63 号土坑**（第 37 図） VI-17 グリッドに位置し、D36 号土坑・P253 古い。隅丸方形を呈すると考えられ、東西 0.88m 以上、南北 1.12m を測る。検出面からの深さは 0.18m で、断面は浅い U 字形である。

**D64 号土坑**（第 42 図） VI-21 グリッドに位置する。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 0.76m 以上、検出面からの深さは 0.37m を測る。断面は逆台形である。

**D65 号土坑**（第 42 図） VI-22 グリッドに位置し、南側が調査区外に延びる。長軸 2.44m 以上、短軸 0.27m 以上、主軸は N-78° -W である。検出面からの深さは 0.55m で、断面は逆台形である。



第 42 図 D60・D64・D65・D66・D68・D69 号土坑遺構図

**D66 号土坑**（第 42 図） VI - 7 グリッドに位置し、P266 より新しい。東西 1.10m、南北 0.62m 以上、主軸は N - 7° - E である。検出面からの深さは 0.45m で、断面は逆台形である。

**D67 号土坑**（第 40 図） VI-23 グリッドに位置し、D53 号土坑より古い。平面形は楕円形で、長軸 1.65m、短軸 0.78m、主軸は N - 23° - E である。検出面からの深さは 0.29m で、断面は逆台形である。

**D68 号土坑**（第 42 図） VI - 23 グリッドに位置し、P280 より新しい。東西 0.90m、南北 0.53m 以上、主軸は N - 7° - W である。検出面からの深さは 0.38m で、断面は逆台形である。

**D69 号土坑**（第 42 図） VI - 5 グリッドに位置し、F3 号掘立柱建物址より新しい。長方形を呈すると考えられ、東西 0.65m 以上、南北 0.85m、主軸は N - 81° - E である。検出面からの深さは 0.26 m で、断面は逆台形である。

**D70 号土坑**（第 10 図） I - 13 グリッドに位置し、H9 号住居址より新しい。隅丸長方形を呈すると考えられ、東西 1.34m、南北 1.04m 以上、主軸は N - 3° - E である。検出面からの深さは 0.43m で、断面は逆台形である。

**D71 号土坑**（第 43 図） VII - 4 グリッドに位置し、H12 号住居址・D80 号土坑より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 2.32m、短軸 1.22m、主軸は N - 12° - W である。検出面からの深さは 0.14m だが、上部は削平されているため本来の掘込みはさらに深い。中央部では、底面上で角礫が検出された。

遺物は、須恵器の四耳壺が出土している。本址の時期については、形状や切合い関係から、中世の所産と考えられ、須恵器四耳壺は体部のみ転用されたものと考えられる。

**D72 号土坑**（第 43 図） VII - 9 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.89m、短軸 1.18m、主軸は N - 11° - E である。検出面からの深さは 0.29m で、断面は逆台形である。

**D73 号土坑**（第 43 図） VII-19 グリッドに位置する。平面形は不整形で、東側にテラス状の段を有する。長軸 2.07m、短軸 2.05m、検出面からの深さは 0.29m で、断面は逆台形である。

**D74 号土坑**（第 43 図） VII - 19 グリッドに位置する。平面形は不整形で、長軸 1.86m、短軸 1.28m、主軸は N - 9° - E である。検出面からの深さは 0.14m で、断面は浅い U 字形だが底面は平坦ではない。

**D75 号土坑**（第 43 図） VII - 2 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 2.88m、短軸 1.74m、主軸は N - 1° - E である。検出面からの深さは 0.19m で、断面は逆台形である。

遺物は銅銭が出土している。1 は、熙寧元寶（北宋 1068 年）である。

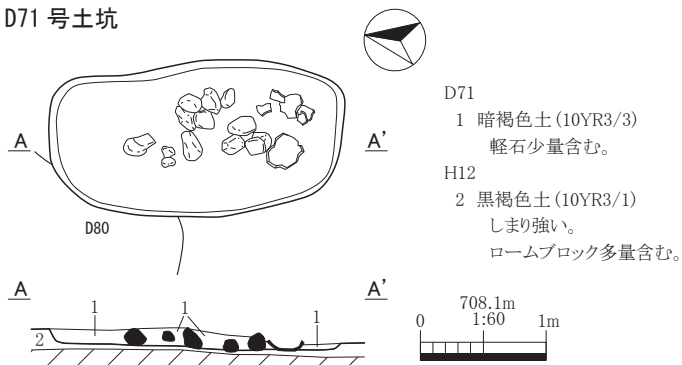
**D76 号土坑**（第 44 図） III - 23 グリッドに位置し、D77 号土坑より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.44m、短軸 0.84m、主軸は N - 78° - E である。検出面からの深さは 0.43m で、断面は逆台形である。

**D77 号土坑**（第 44 図） III-23 グリッドに位置し、P381 より新しく、D76 号土坑より古い。平面形は円形で、東西 1.10m、南北 1.08m、検出面からの深さは 0.13m で、断面は浅い U 字形である。

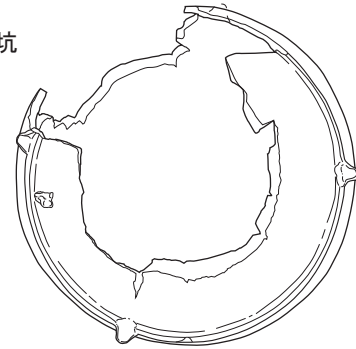
**D78 号土坑**（第 44 図） III-22 グリッドに位置し、D79 号土坑より新しい。平面形は長方形で、長軸 1.55m、短軸 0.82m、主軸は N - 0° - E である。検出面からの深さは 0.26m で、断面は逆台形である。

遺物は銅銭が出土している。1 は右側が欠損しているが、景口口寶と読める。

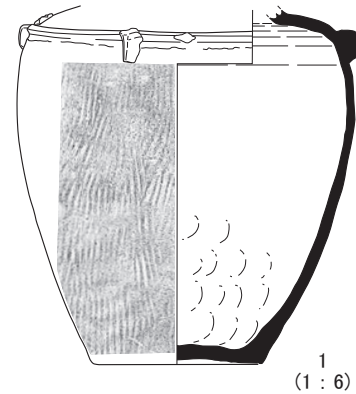
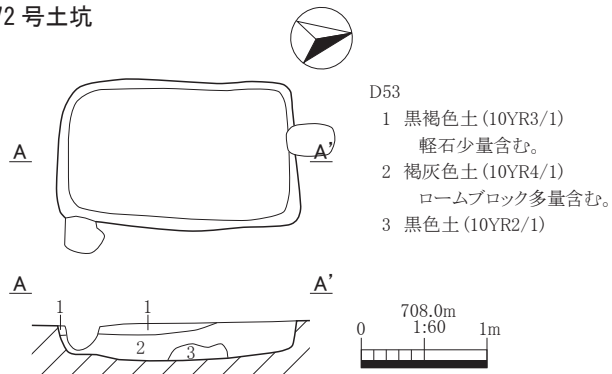
D71 号土坑



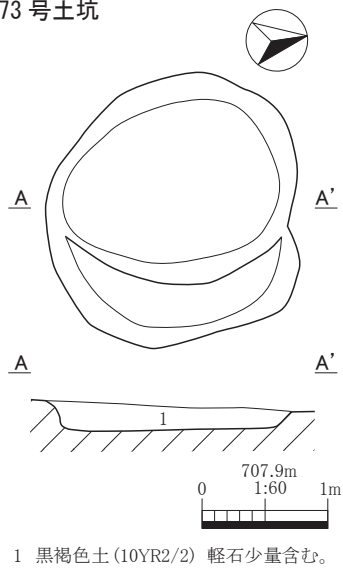
D71 号土坑



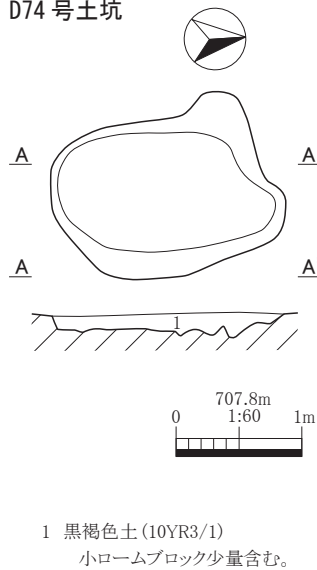
D72 号土坑



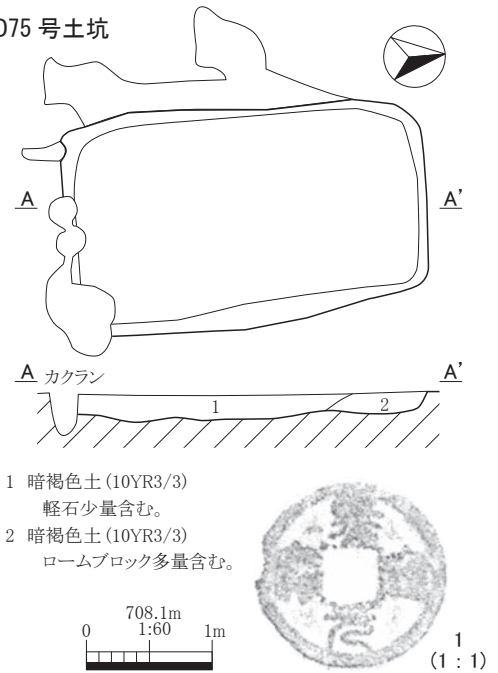
D73 号土坑



D74 号土坑



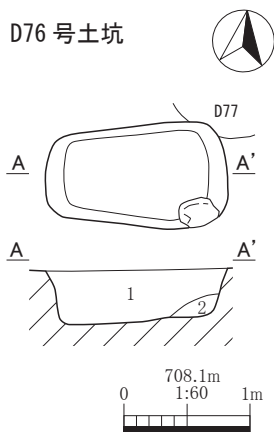
D75 号土坑



第 43 図 D71・D72・D73・D74・D75 号土坑遺構図・遺物実測図

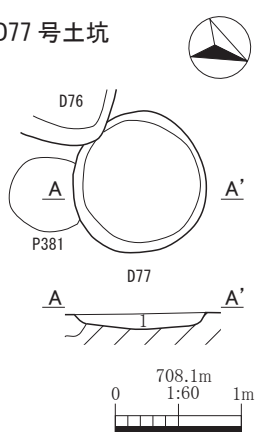
**D79 号土坑** (第 44 図) III-22 グリッドに位置し、D78 号土坑より古い。平面形は円形で、東西 1.38m、南北 1.56m である。検出面からの深さは 0.81m で、断面は逆台形である。

D76 号土坑



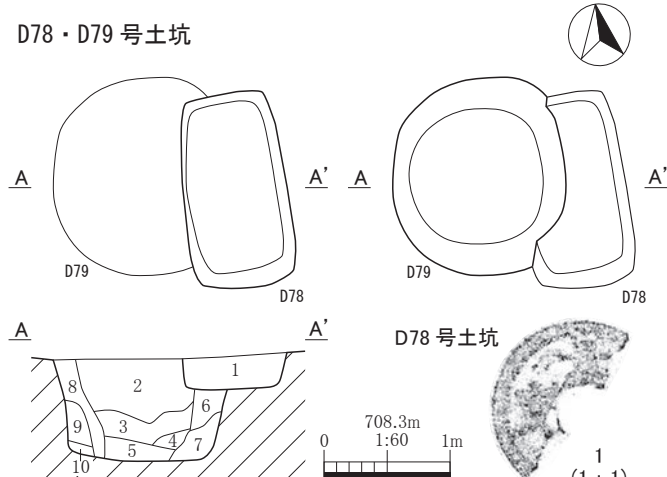
- 1 暗褐色土 (10YR3/3)  
軽石・小ロームブロック含む。  
2 にぶい黄褐色土 (10YR5/3)  
ロームブロック多量含む。

D77 号土坑



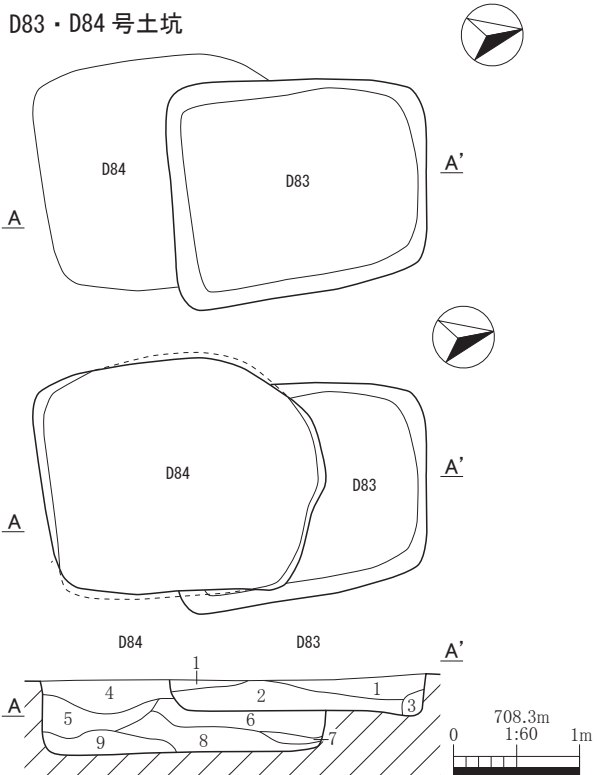
- 1 暗褐色土 (10YR3/3)  
小ロームブロック含む。

D78・D79 号土坑



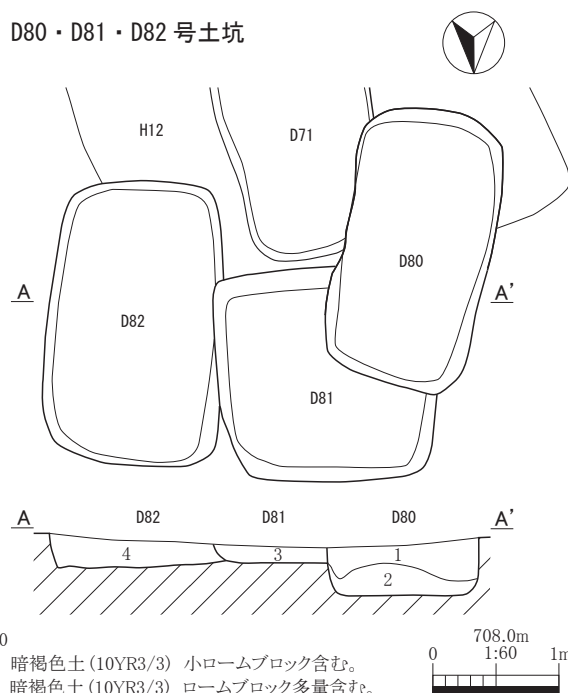
- D78  
1 暗褐色土 (10YR3/3) 小ロームブロック含む。  
D79  
2 黒色シルト質土 (10YR2/1) 軽石少量含む。  
3 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック少量含む。  
4 にぶい黄橙色土 (10YR6/4) 黒褐色土ブロック少量含む。  
5 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石少量含む。  
6 褐灰色土 (10YR5/1) ロームブロック含む。  
7 にぶい黄橙色土 (10YR7/4) 軽石少量含む。  
8 褐灰色土 (10YR5/1) 軽石少量含む。  
9 にぶい黄橙色土 (10YR7/4) 軽石少量含む。  
10 褐灰色土 (10YR5/1) 軽石少量含む。

D83・D84 号土坑



- D83  
1 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック多量含む。  
2 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック少量・にぶい黄橙色土帯状に含む。  
3 黒褐色土 (10YR3/1) 大ロームブロック含む。  
D84  
4 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック多量含む。  
5 暗褐色土 (10YR3/3) 小ロームブロック少量含む。  
6 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック含む。  
7 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石少量含む。  
8 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黒褐色土ブロック・ロームブロック含む。  
9 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黒褐色土ブロック含む。

D80・D81・D82 号土坑



- D80  
1 暗褐色土 (10YR3/3) 小ロームブロック含む。  
2 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック多量含む。  
D81  
3 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石少量含む。  
D82  
4 暗褐色土 (10YR3/3) 小ロームブロック含む。



第 44 図 D76・D77・D78・D79・D80・D81・D82・D83・D84 号土坑遺構図・遺物実測図

**D80 号土坑**（第44図） VII-4 グリッドに位置し、H12 号住居址・D81 号土坑より新しく、D71 号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸 2.19m、短軸 1.18m、主軸は N - 11° - E である。検出面からの深さは 0.39m で、断面は逆台形である。

遺物は土師器が出土している。1 は土師器の皿で、内面黒色処理が施される。2 は土師器の坏である。いずれも H12 号住居址からの混入と考えられる。

**D81 号土坑**（第44図） VII-4 グリッドに位置し、H12 号住居址・D82 号土坑より新しく、D80 号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、東西 1.70m、東西 1.69m、主軸は N - 0° - E である。検出面からの深さは 0.13m で、断面は逆台形である。

**D82 号土坑**（第44図） VII-4 グリッドに位置し、H12 号住居址より新しく、D81 号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸 2.26m、短軸 1.35m、主軸は N - 6° - E である。検出面からの深さは 0.22m で、断面は逆台形である。

**D83 号土坑**（第44図） VII-1 グリッドに位置し、D84 号土坑より新しい。平面形は長方形で、長軸 2.02m、短軸 1.70m、主軸は N - 9° - E である。検出面からの深さは 0.33m で、断面は逆台形である。

**D84 号土坑**（第44図） VII-1 グリッドに位置し、D83 号土坑より古い。平面形は不整形で、長軸 2.24m、短軸 1.83m、主軸は N - 6° - E である。検出面からの深さは 0.58m で、断面はフラスコ状である。

**D85 号土坑**（第45図） VII-5 グリッドに位置し、D86 号土坑より新しい。平面形は楕円形で、長軸 1.08m、短軸 1.03m、主軸は N - 21° - E である。検出面からの深さは 0.18m で、断面は逆台形である。

**D86 号土坑**（第45図） VII-5 グリッドに位置し、D87 号土坑より新しく、D85 号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.66m、短軸 1.06m、主軸は N - 83° - E である。検出面からの深さは 0.22m で、断面は浅い U 字形だが、底面は平坦ではない。

**D87 号土坑**（第45図） VII-5 グリッドに位置し、D86 号土坑より古い。平面形は隅丸長方形で、北東側にテラス状の段を有する。長軸 2.10m、短軸 1.77m、主軸は N - 3° - W である。検出面からの深さは 0.27m で、断面は逆台形である。

**D88 号土坑**（第45図） IV - 22 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸 1.30m、短軸 1.08m、主軸は N - 3° - E である。検出面からの深さは 0.13m で、断面は浅い U 字形である。

**D89 号土坑**（第45図） VII-24 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.43m、短軸 1.02m、主軸は N - 84° - W である。検出面からの深さは 0.82m で、断面は逆台形である。

**D90 号土坑**（第46図） XI-4 グリッドに位置し、D91 号土坑より新しい。平面形は楕円形で、長軸 1.71m、短軸 1.39m、主軸は N - 22° - W である。検出面からの深さは 0.50m で、断面は逆台形である。

**D91 号土坑**（第46図） XI-4 グリッドに位置し、D90 号土坑より古い。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 2.03m、南北 0.88m 以上の規模を有する。検出面からの深さは 0.63m で、断面は段を持った U 字形である。埋土からは角礫が検出される。

**D92 号土坑**（第 46 図） XI-4 グリッドに位置し、D91 号土坑より古い。平面形は楕円形で、長軸 1.26m、短軸 0.98m、主軸は N - 12° - E である。検出面からの深さは 0.30m で、断面は U 字形である。

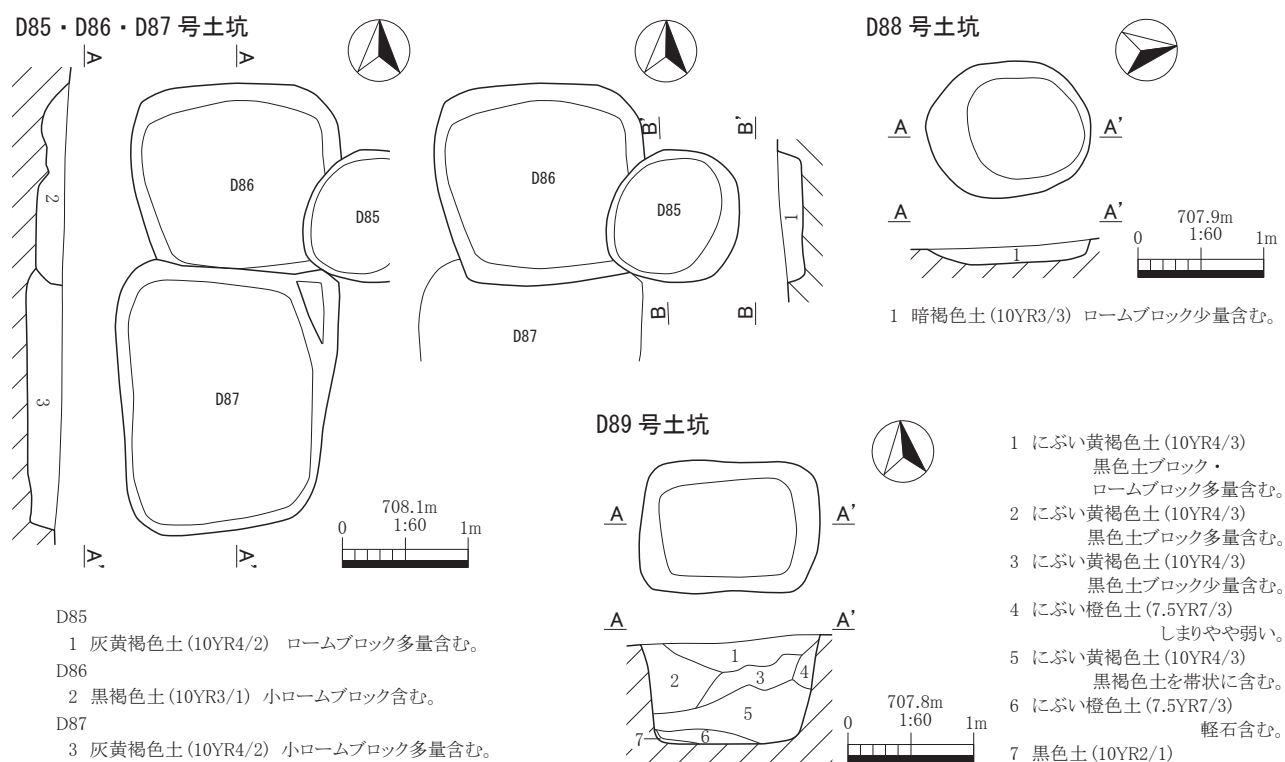
**D93 号土坑**（第 46 図） VII-25 グリッドに位置する。平面形は円形で、東西 1.04m、南北 1.08m を測る。検出面からの深さは 0.30m で、断面は逆台形である。

**D95 号土坑**（第 20 図） II - 22 グリッドに位置し、D97・D99 号土坑より新しい。北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南側が地下で Ta3 号堅穴状遺構と繋がっており、一連の遺構と考えられる。

**D96 号土坑**（第 46 図） III-20 グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.54m、短軸 1.08m、主軸は N - 89° - W である。検出面からの深さは 0.14m で、断面は逆台形である。

**D97 号土坑**（第 46 図） II - 22 グリッドに位置し、D95 号土坑より古い。北側と西側が調査区外に延びるため全容は不明だが、南側にテラス状の段を有し、東西 0.72m 以上、南北 1.21m 以上の規模を有する。検出面からの深さは 0.67m で、断面は逆台形である。

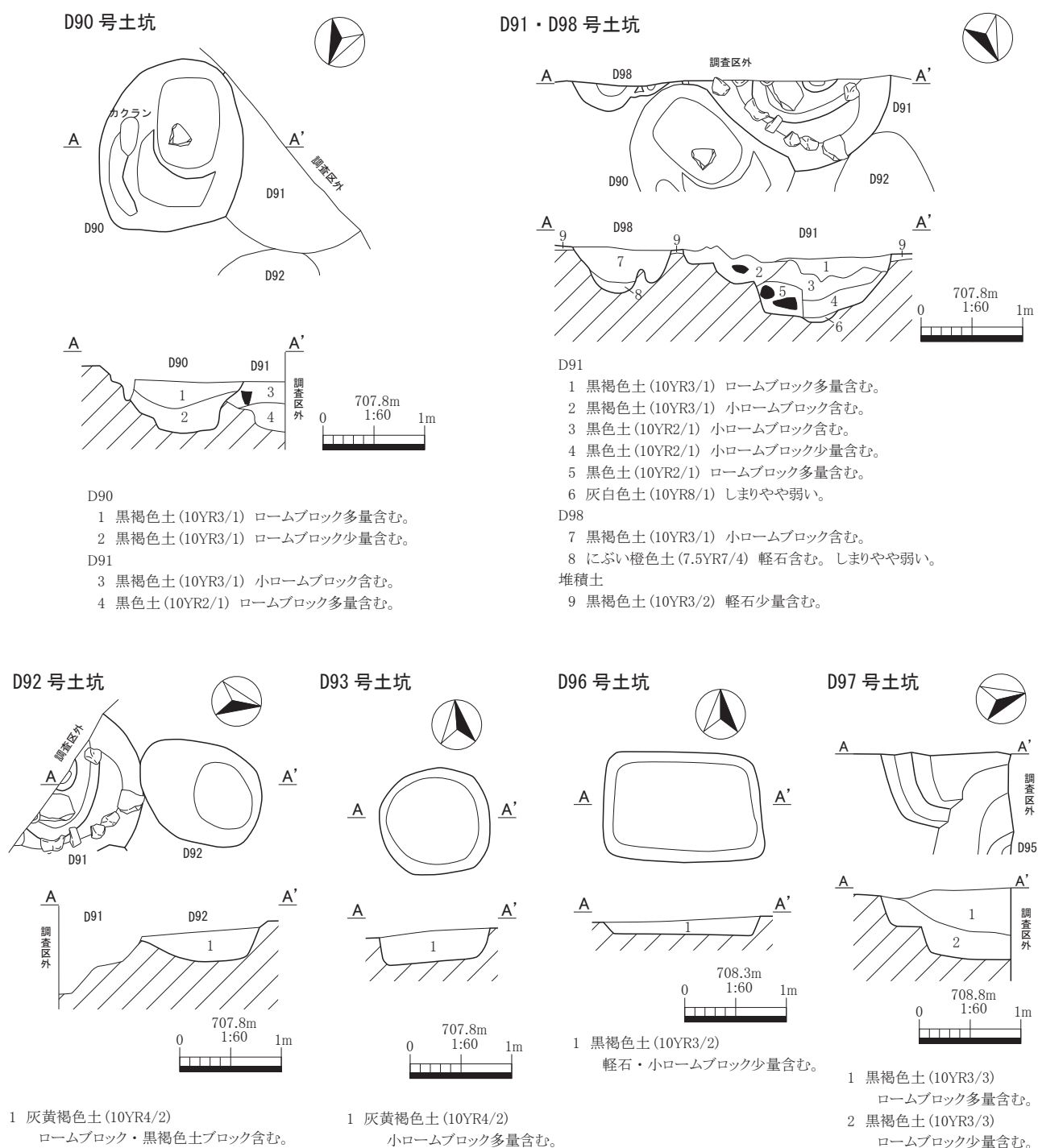
**D98 号土坑**（第 46 図） XI - 4 グリッドに位置する。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西 0.93m 以上、南北 0.26m 以上の規模を有する。検出面からの深さは 0.45m で、断面は U 字形である。



第 45 図 D85・D86・D87・D88・D89 号土坑遺構図



**D99 号土坑**（第 20 図） II - 21 グリッドに位置し、D95 号土坑より古い。南端部分のみの検出であったため、底面は未検出である。東西 1.54m 以上の規模を有し、検出面からの深さは 0.40m 以上である。

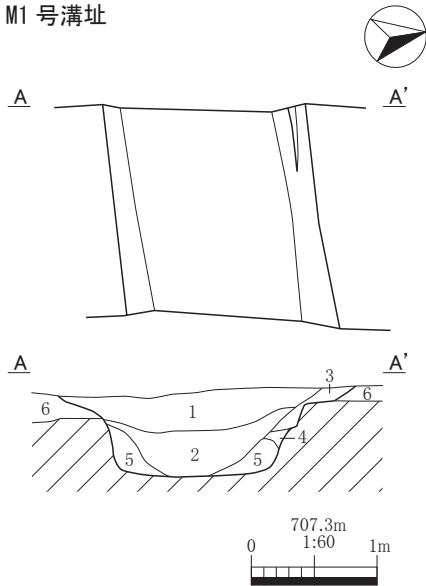


第 46 図 D90・D91・D92・D93・D96・D97・D98 号土坑遺構図

## 第5節 溝址

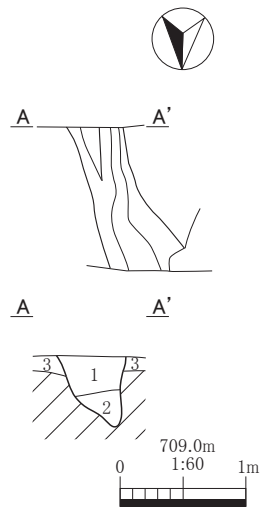
**M1号溝址**（第47図） XII-4グリッドに位置し、東西両側が調査区外に延びる。長さ1.64m以上、幅1.60mを測り、主軸はN-88°-Wである。検出面からの深さは0.67mで、断面は下部は逆台形で、上部は緩やかに開きながら立上る。他の方形の土坑とは、堆積状況が異なるため、溝址と判断した。遺物は出土していないが、主軸方向や形状から、中世の区画溝である可能性が考えられる。

M1号溝址



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや強い。
- 3 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック含む。
- 4 にぶい褐色土 (7.5YR6/3) 黒色土ブロック含む。
- 5 黒色土 (10YR2/1) ロームブロック少量含む。
- 6 黒色土 (10YR2/1) 軽石含む。

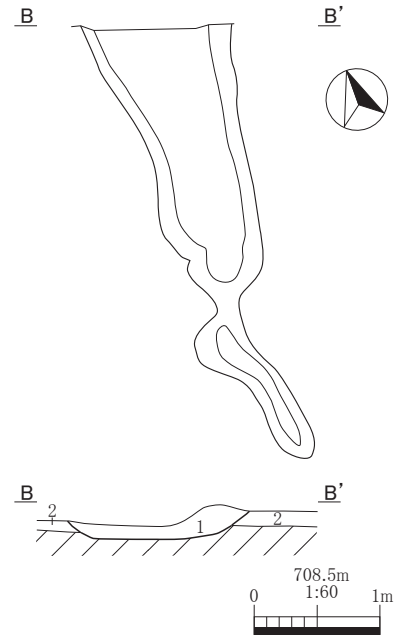
M2号溝址（北側）



M2

- 1 浅黄橙色砂 (7.5YR8/6) しまり弱い粗砂。
- 2 橙色土 (7.5YR7/6) 砂含む。
- 堆積層
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) 軽石含む。

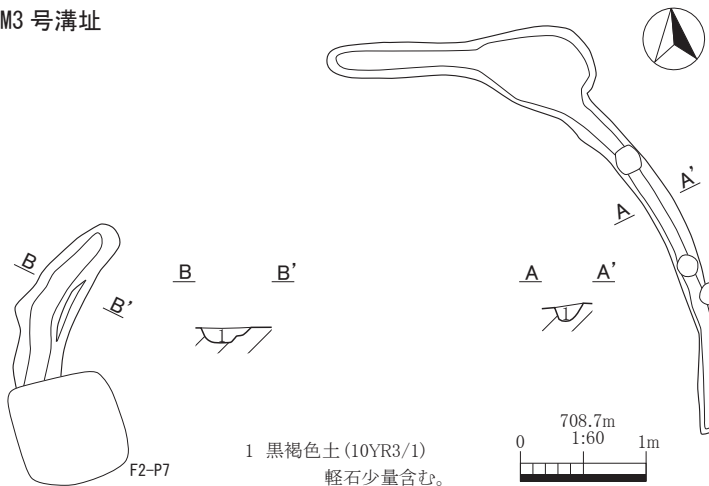
M2号溝址（南側）



M2

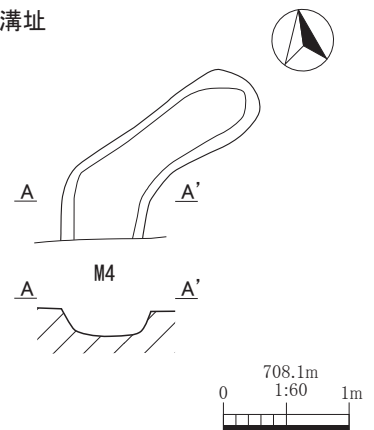
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 粗砂含む。
- 堆積層
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石含む。

M3号溝址



- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 軽石少量含む。

M4号溝址



第47図 M1・M2・M3・M4号溝址遺構図

**M2号溝址**（第47図）Ⅲ-9グリッドとⅢ-14グリッドにおいて検出された溝址であるが、同一遺構と考えられる。北側部分は長さ1.20m、幅0.36～0.58m、深さ0.55m、主軸はN-18°-Wである。南側部分は長さ3.60m、幅0.18～1.10m、深さ0.24m、主軸はN-2°-Eである。いずれも平面・断面とも不整形で、埋土に多量の粗砂を含んでいることから、自然流路と考えられる。弥生土器や須恵器の小破片が出土しているが混入品と考えられ、本址は中世以降の所産と考えられる。

**M3号溝址**（第47図）Ⅵ-8グリッドに位置し、東西5.60m、南北3.37mの規模で半円形に湾曲する溝址である。検出面からの深さは10cm程度と浅く、遺物は出土していない。平面形から、円形周溝墓の可能性も考えられるが、主体部は確認できなかった。

**M4号溝址**（第47図）Ⅲ-24グリッドに位置し、D82号土坑より古い。長さ1.78m、幅0.47m～0.68m、深さ0.20mを測る。遺物が出土していないため、時期は不明である。

## 第6節 ピット

建物址に付随するものを除き、451基のピットが検出された。ピットは調査区全域に分布しており、弥生時代から中世までの所産と考えられる。各ピットの詳細はピット一覧表（第2表～第6表）に示す。

遺構名	グリッド	長径	法量(m) 短径	深さ	埋土	新旧関係・ 出土遺物
P1	Ⅺ-6	0.54	〈0.40〉	0.40	黒色土(10YR2/1)	
P2	Ⅷ-18	0.40	〈0.20〉	0.30	黒色土(10YR2/1)	
P3	Ⅷ-18	0.30	〈0.24〉	0.26	黒色土(10YR2/1)	
P4	Ⅷ-15	0.60	0.50	0.23	黒色土(10YR2/1)	
P5	Ⅷ-10	0.94	0.66	0.08	黒色土(10YR2/1)	
P6	Ⅷ-10	0.44	0.40	0.10	黒色土(10YR2/1)	
P7	Ⅷ-5	〈0.76〉	0.60	0.40	1:黒色土(10YR2/1) 2:黒褐色土(10YR3/1)	
P8	Ⅳ-24	0.30	0.28	0.15	黒色土(10YR2/1)	
P9	Ⅳ-19	0.34	0.34	0.10	黒色土(10YR2/1)	
P10	Ⅳ-19	0.38	0.36	0.12	黒色土(10YR2/1)	
P11	Ⅳ-19	〈1.06〉	0.46	0.16	黒色土(10YR2/1)	
P12	Ⅳ-19	0.60	0.48	0.16	黒褐色土(10YR3/1)	
P13	Ⅳ-19	〈0.54〉	0.40	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	
P14	Ⅳ-8	〈0.68〉	0.54	0.11	黒色土(10YR2/1)	
P15	Ⅳ-8	0.34	0.32	0.16	黒褐色土(10YR3/1)	P15より新
P16	Ⅳ-8	0.40	〈0.36〉	0.12	黒褐色土(10YR3/1)	P16より古
P18	Ⅳ-8	0.40	〈0.30〉	0.15	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P19	Ⅳ-7	0.14	0.12	0.05	黒色土(10YR2/1)	
P20	Ⅳ-7	0.30	0.26	0.15	黒褐色土(10YR3/1)	
P21	Ⅳ-7	0.36	0.30	0.20	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P22	Ⅳ-7	0.32	0.22	0.24	黒色土(10YR2/1)	
P23	Ⅳ-7	0.28	0.20	0.26	黒色土(10YR2/1)	
P24	Ⅳ-6	0.54	0.40	0.20	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	須恵器
P25	Ⅳ-6	0.10	0.10	0.20	黒色土(10YR2/1)	
P26	Ⅳ-6	0.50	0.46	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	
P27	Ⅳ-6	0.90	〈0.34〉	0.39	黒褐色土(10YR3/1)	
P28	Ⅳ-6	1.06	〈0.26〉	0.29	黒褐色土(10YR3/1)	D4より古
P29	Ⅳ-6	0.64	0.50	0.18	黒褐色土(10YR3/1)	D4より古
P30	Ⅲ-9	0.28	0.22	0.20	黒褐色土(10YR3/1)	
P31	Ⅲ-9	0.20	0.14	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P32	Ⅲ-9	0.28	〈0.10〉	0.15	黒褐色土(10YR3/1)	
P33	Ⅲ-8	0.20	0.20	0.18	黒褐色土(10YR3/1)	
P34	Ⅲ-8	0.30	〈0.14〉	0.25	黒褐色土(10YR3/1)	
P35	Ⅲ-8	0.18	0.18	0.15	黒褐色土(10YR3/1)	
P36	Ⅲ-7	0.30	0.24	0.44	黒褐色土(10YR3/1)	
P37	Ⅲ-7	〈0.68〉	0.56	0.64	1:黒褐色土(10YR3/1) 2:暗褐色土(10YR3/3)	
P38	Ⅲ-6	〈0.44〉	0.20	0.42	黒褐色土(10YR3/1)	
P39	Ⅲ-6	0.30	0.22	0.12	黒褐色土(10YR3/1)	
P41	Ⅲ-6	0.22	0.22	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P42	Ⅲ-6	0.30	〈0.16〉	0.18	黒褐色土(10YR3/1)	
P43	Ⅲ-6	0.24	0.16	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P44	Ⅲ-6	0.20	0.20	0.07	黒褐色土(10YR3/1)	
P45	Ⅲ-6	0.24	0.22	0.07	黒褐色土(10YR3/1)	
P46	Ⅲ-6	0.80	〈0.26〉	0.46	1:黒褐色土(10YR3/1) 2:黒色土(10YR2/1)	
P47	Ⅱ-10	0.46	0.34	0.12	黒褐色土(10YR3/1)	
P48	Ⅲ-6	0.80	〈0.64〉	0.15	黒褐色土(10YR3/1)	P56より新
P49	Ⅱ-5	0.30	0.24	0.11	黒褐色土(10YR3/1)	
P50	Ⅳ-6	0.24	0.22	0.30	黒褐色土(10YR3/1)	
P51	Ⅲ-10	0.28	0.20	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	
P52	Ⅲ-10	0.24	0.18	0.13	黒褐色土(10YR3/1)	
P53	Ⅲ-10	0.24	0.20	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	
P54	Ⅲ-10	0.22	0.18	0.08	黒褐色土(10YR3/1)	D7より新
P55	Ⅲ-6	0.96	0.46	0.64	1:黒褐色土(10YR3/1) 2:暗褐色土(10YR3/3)	

第2表 ピット一覧表1

遺構名	グリッド	法量(m)			埋土	新旧関係・出土遺物
		長径	短径	深さ		
P56	II-10	0.20	〈0.10〉	0.22	黒色土(10YR2/1)	P48より古
P57	II-10	0.20	0.20	0.07	黒褐色土(10YR3/1)	
P58	II-10	0.24	0.16	0.08	黒褐色土(10YR3/1)	
P59	II-10	0.40	0.30	0.15	黒褐色土(10YR3/1)	
P60	II-10	0.26	0.26	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P61	II-10	0.24	0.22	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P62	II-5	0.26	0.12	0.09	黒褐色土(10YR3/1)	
P63	II-5	0.34	〈0.20〉	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	
P65	II-10	0.36	〈0.20〉	0.64	1:黒褐色土(10YR3/1) 2:褐灰色土(10YR4/1) 3:黒褐色土(10YR3/1)	土師器
P66	II-10	0.44	0.34	0.20	黒褐色土(10YR3/1)	
P67	II-9	〈0.22〉	0.16	0.12	黒褐色土(10YR3/1)	
P68	II-9	〈0.30〉	0.30	0.12	黒褐色土(10YR3/1)	
P69	II-9	0.30	〈0.20〉	0.05	黒褐色土(10YR3/1)	
P70	II-8	0.32	0.28	0.14	黒褐色土(10YR3/1)	
P71	II-8	〈0.22〉	0.16	0.13	黒褐色土(10YR3/1)	
P72	II-8	0.28	〈0.24〉	0.14	黒褐色土(10YR3/1)	
P73	II-8	0.80	〈0.26〉	0.41	黒褐色土(10YR3/1)	
P74	XI-15	0.50	0.40	0.46	黒褐色土(10YR3/1)	H1より新 須恵器 土師器
P75	XI-15	〈0.30〉	〈0.40〉	0.40	黒褐色土(10YR3/1)	H1より新 P89より古
P76	XI-15	0.36	〈0.22〉	0.20	黒褐色土(10YR3/1)	H1より新 P89より古
P77	XI-15	0.24	〈0.14〉	0.50	黒褐色土(10YR3/1)	H1より新 P78より古
P78	XI-15	0.44	0.28	0.56	黒褐色土(10YR3/1)	H1・P77より新
P79	XI-15	0.26	0.26	0.47	黒褐色土(10YR3/1)	H1・P80より新
P80	XI-15	0.24	0.22	0.36	黒褐色土(10YR3/1)	H1より新 P79より古
P81	XI-15	0.34	〈0.20〉	0.41	黒褐色土(10YR3/1)	H1より新 P82より古
P82	XI-15	0.32	〈0.20〉	0.44	黒褐色土(10YR3/1)	H1・H2・ P81より新
P83	XI-15	0.28	0.26	0.37	黒褐色土(10YR3/1)	H1・H2より新
P84	XII-11	0.38	0.36	0.31	黒褐色土(10YR3/1)	H2より新
P85	XII-11	0.40	0.32	0.42	黒褐色土(10YR3/1)	H2より新
P86	XII-11	0.34	0.24	0.42	黒褐色土(10YR3/1)	H2より新
P87	XII-11	0.36	0.32	0.32	黒褐色土(10YR3/1)	H2より新
P88	XI-15	0.30	〈0.10〉	0.35	黒褐色土(10YR3/1)	H1より新
P89	XI-15	〈0.34〉	〈0.26〉	0.26	黒褐色土(10YR3/1)	H1・P75・ P76より新 土師器
P90	XI-15	0.24	0.20	0.21	黒褐色土(10YR3/1)	H1より新
P92	II-6	0.46	0.18	0.48	暗褐色土(10YR3/3)	H4より新
P93	I-10	0.16	0.14	0.32	黒褐色土(10YR3/1)	H4より新
P94	I-10	0.28	〈0.22〉	0.26	暗褐色土(10YR3/3)	H4より新 土師器
P95	I-10	0.34	0.22	0.36	黒褐色土(10YR3/1)	H4より新
P96	I-10	0.22	0.20	0.24	1:黒褐色土(10YR3/1) 2:にぶい黄褐色土(10YR4/3)	H4より新
P97	I-10	0.30	〈0.14〉	0.31	黒褐色土(10YR3/1)	H4より新
P98	IX-2	0.70	〈0.46〉	0.32	黒褐色土(10YR3/1)	土師器
P100	V-23	0.28	0.24	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	D10より古
P101	IX-3	0.52	0.50	0.31	黒褐色土(10YR3/1・3/2)	
P102	IX-3	0.80	0.62	0.27	黒褐色土(10YR3/1)	P134より古 須恵器

遺構名	グリッド	法量(m)			埋土	新旧関係・出土遺物
		長径	短径	深さ		
P103	IX-3	0.84	0.64	0.36	褐灰色土(10YR4/1)	弥生土器・須恵器
P104	IX-3	0.22	0.20	0.36	褐灰色土(10YR4/1)	
P105	IX-3	0.40	0.36	0.36	黒褐色土(10YR3/1)	
P106	IX-4	0.50	〈0.34〉	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	D17より古
P107	V-23	0.22	0.20	0.20	褐灰色土(10YR4/1)	D16より古
P108	V-24	0.28	0.26	0.20	褐灰色土(10YR4/1)	D16より新
P109	V-23	0.30	0.26	0.16	黒褐色土(10YR3/1)	
P110	V-23	0.22	〈0.20〉	0.22	褐灰色土(10YR4/1)	P111より新
P111	V-23	0.60	0.44	0.30	黒褐色土(10YR3/1)	P110より古 須恵器
P112	V-22	0.24	0.15	0.26	黒褐色土(10YR3/1)	
P115	V-17	0.50	0.50	0.56	黒褐色土(10YR3/1)	土師器
P116	V-17	0.62	0.60	0.14	黒褐色土(10YR3/1)	弥生土器
P117	V-17	0.64	0.56	0.36	黒褐色土(10YR3/1)	弥生土器
P118	V-17	0.40	0.36	0.07	黒褐色土(10YR3/1)	
P119	V-12	0.36	0.24	0.20	黒褐色土(10YR3/1)	
P120	V-12	0.62	0.50	0.20	黒褐色土(10YR3/1)	P121より古
P121	V-12	0.52	0.50	0.28	黒褐色土(10YR3/1)	P120より新
P122	V-12	0.76	0.60	0.16	黒褐色土(10YR3/1)	
P123	V-23	0.24	0.22	0.16	黒褐色土(10YR3/1)	
P124	V-23	0.22	0.18	0.26	黒褐色土(10YR3/1)	
P125	V-24	0.54	0.54	0.20	1:褐灰色土(10YR4/1) 2:黒褐色土(10YR3/1)	円礫
P126	V-24	0.22	0.20	0.38	黒褐色土(10YR3/1)	
P127	V-24	0.38	0.32	0.47	黒褐色土(10YR3/1)	擦石
P128	V-24	0.26	0.26	0.32	黒褐色土(10YR3/1)	
P129	V-19	0.62	0.52	0.12	褐灰色土(10YR4/1)	
P130	V-14	0.26	0.26	0.13	黒褐色土(10YR3/1)	
P131	V-14	0.66	0.60	0.60	黒褐色土(10YR3/1)	
P132	V-14	1.04	1.00	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	弥生土器
P133	V-14	0.62	0.50	0.15	黒褐色土(10YR3/1)	
P134	IX-3	0.30	0.18	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	P102より新
P137	IX-2	0.80	〈0.66〉	0.30	黒褐色土(10YR3/1)	D10より古 須恵器
P138	V-25	0.80	0.60	0.20	黒褐色土(10YR3/1)	F1-P3より新
P139	V-14	0.18	0.12	0.12	暗褐色土(10YR3/3)	
P140	V-19	0.20	0.16	0.08	黒褐色土(10YR3/1)	
P141	V-13	0.42	0.34	0.10	暗褐色土(10YR3/3)	
P142	V-14	0.18	0.18	0.08	暗褐色土(10YR3/3)	
P143	V-22	0.18	0.16	0.28	黒褐色土(10YR3/1)	
P144	V-22	0.22	0.20	0.22	暗褐色土(10YR3/3)	
P145	IX-4	0.68	0.44	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	
P146	V-25	0.20	0.18	0.38	暗褐色土(10YR3/3)	
P147	V-24	0.90	0.78	0.12	暗褐色土(10YR3/3)	P181・P182・P187より古 土師器
P148	V-24	0.26	0.24	0.08	暗褐色土(10YR3/3)	
P149	V-25	0.22	0.20	0.12	暗褐色土(10YR3/3)	
P150	V-25	0.36	0.32	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	
P151	V-25	0.30	0.26	0.38	暗褐色土(10YR3/3)	
P152	V-25	0.52	0.24	0.36	1:暗褐色土(10YR3/3) 2:にぶい黄褐色土(10YR7/3)	
P153	V-25	0.22	0.18	0.06	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P154	V-25	0.34	0.30	0.28	暗褐色土(10YR3/3)	

第3表 ピット一覧表2

遺構名	グリッド	法量(m)			埋土	新旧関係・ 出土遺物
		長径	短径	深さ		
P155	V-25	0.32	0.22	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	
P156	V-25	0.26	0.24	0.32	暗褐色土(10YR3/3)	
P157	V-25	0.24	0.20	0.30	暗褐色土(10YR3/3)	
P158	V-20	0.18	0.18	0.10	暗褐色土(10YR3/3)	
P159	V-20	0.34	0.30	0.17	暗褐色土(10YR3/3)	
P160	V-19	0.22	0.22	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	
P161	V-14	0.62	0.40	0.12	暗褐色土(10YR3/3)	
P162	V-15	0.34	0.34	0.10	暗褐色土(10YR3/3)	
P163	V-9	0.44	0.30	0.12	暗褐色土(10YR3/3)	
P164	V-10	0.26	0.22	0.16	暗褐色土(10YR3/3)	
P165	V-10	0.46	0.44	0.10	暗褐色土(10YR3/3)	
P166	V-10	0.70	0.38	0.22	暗褐色土(10YR3/3)	
P167	V-10	0.30	0.26	0.48	暗褐色土(10YR3/3)	
P168	V-5	0.60	0.44	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	
P169	V-10	1.00	0.60	0.12	暗褐色土(10YR3/3)	P170より新
P170	V-10	0.18	0.18	0.10	暗褐色土(10YR3/3)	P169より古
P171	V-10	0.20	0.18	0.06	暗褐色土(10YR3/3)	
P172	V-10	0.38	0.30	0.07	暗褐色土(10YR3/3)	
P173	VI-11	0.42	0.34	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	土師器
P174	V-25	0.66	0.56	0.33	1:黒褐色土(10YR3/1) 2:暗褐色土(10YR3/3)	須恵器
P175	VI-21	0.62	0.62	0.23	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	D26より古
P176	VI-21	〈0.30〉	0.30	0.38	暗褐色土(10YR3/3)	D25より古
P177	VI-21	0.22	0.20	0.27	暗褐色土(10YR3/3)	
P178	VI-21	0.20	〈0.20〉	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	D24より古
P179	VI-21	0.24	0.20	0.07	暗褐色土(10YR3/3)	土師器
P180	VI-21	0.24	0.18	0.22	暗褐色土(10YR3/3)	須恵器
P181	V-24	0.24	0.22	0.15	暗褐色土(10YR3/3)	P147より新
P182	V-24	0.22	0.22	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	P147より新
P183	IX-4	0.22	0.14	0.22	暗褐色土(10YR3/3)	
P184	V-24	0.32	0.18	0.30	暗褐色土(10YR3/3)	
P185	V-24	0.22	0.20	0.28	暗褐色土(10YR3/3)	
P186	V-24	0.18	0.16	0.15	暗褐色土(10YR3/3)	弥生土器 須恵器
P187	V-25	0.22	0.22	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	P147より新
P188	V-25	0.22	0.22	0.30	暗褐色土(10YR3/3)	
P189	V-25	0.20	0.20	0.24	暗褐色土(10YR3/3)	
P190	IX-5	0.24	〈0.14〉	0.22	暗褐色土(10YR3/3)	
P191	V-25	0.22	0.16	0.18	暗褐色土(10YR3/3)	
P192	V-25	0.14	0.14	0.22	暗褐色土(10YR3/3)	
P193	V-25	0.24	〈0.20〉	0.23	暗褐色土(10YR3/3)	P194より新
P194	V-25	0.26	0.26	0.28	暗褐色土(10YR3/3)	P193より古
P195	V-25	0.22	0.20	0.30	暗褐色土(10YR3/3)	
P196	V-25	0.20	0.20	0.15	暗褐色土(10YR3/3)	
P197	V-24	0.18	0.14	0.26	暗褐色土(10YR3/3)	
P198	V-21	0.26	0.20	0.22	暗褐色土(10YR3/3)	D27より新
P199	V-21	0.34	0.34	0.30	暗褐色土(10YR3/3)	D27より新
P200	V-21	0.22	〈0.20〉	0.35	暗褐色土(10YR3/3)	D27より古
P201	V-15	0.58	0.28	0.08	暗褐色土(10YR3/3)	
P202	VI-11	0.35	0.20	0.10	暗褐色土(10YR3/3)	
P203	VI-11	0.28	0.20	0.22	暗褐色土(10YR3/3)	

遺構名	グリッド	法量(m)			埋土	新旧関係・ 出土遺物
		長径	短径	深さ		
P204	VI-16	0.29	0.22	0.32	暗褐色土(10YR3/3)	
P205	VI-16	0.50	0.32	0.23	黒褐色土(10YR3/1)	
P206	VI-16	0.24	0.22	0.07	暗褐色土(10YR3/3)	
P207	VI-16	0.26	0.22	0.08	暗褐色土(10YR3/3)	
P208	VI-16	0.30	0.24	0.28	暗褐色土(10YR3/3)	
P209	VI-16	0.30	0.22	0.23	暗褐色土(10YR3/3)	
P210	VI-17	0.44	0.26	0.38	暗褐色土(10YR3/3)	
P211	VI-12	0.32	0.24	0.32	暗褐色土(10YR3/3)	
P212	VI-11	0.34	0.32	0.18	暗褐色土(10YR3/3)	
P213	VI-11	0.22	0.20	0.08	黒褐色土(10YR3/1)	
P214	VI-6	0.34	0.26	0.08	暗褐色土(10YR3/3)	
P215	VI-11	0.20	〈0.14〉	0.20	黒褐色土(10YR3/1)	D32より古
P216	V-23	0.20	0.18	0.20	黒褐色土(10YR3/2)	
P217	IX-4	0.24	0.20	0.24	暗褐色土(10YR3/3)	
P218	V-24	0.30	0.24	0.50	暗褐色土(10YR3/3)	
P219	V-19	0.18	0.18	0.11	暗褐色土(10YR3/3)	
P220	V-19	0.18	0.14	0.14	暗褐色土(10YR3/3)	
P221	VI-12	0.60	0.50	0.38	1:暗褐色土(10YR3/3) 2:黒褐色土(10YR3/1)	弥生土器 土師器
P222	VI-12	0.38	0.22	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	
P223	VI-12	0.68	0.66	0.12	暗褐色土(10YR3/3)	
P224	VI-17	0.24	0.24	0.10	暗褐色土(10YR3/3)	
P225	VI-17	0.68	0.48	0.32	黒褐色土(10YR3/2)	須恵器
P226	VI-17	0.26	0.22	0.22	暗褐色土(10YR3/3)	
P227	VI-17	0.38	0.30	0.20	黒褐色土(10YR3/1)	須恵器・土師器
P228	VI-17	1.10	0.56	0.20	1:黒褐色土(10YR3/1) 2:暗褐色土(10YR3/3)	
P229	VI-18	0.80	0.48	0.30	黒褐色土(10YR3/1)	
P230	VI-18	0.30	0.28	0.24	黒褐色土(10YR3/2)	弥生土器
P231	VI-18	0.34	0.26	0.12	黒褐色土(10YR3/2)	
P232	VI-18	0.28	0.22	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	
P233	VI-18	0.44	0.22	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	
P234	VI-18	0.40	0.32	0.14	暗褐色土(10YR3/3)	Ta1より古
P235	VI-13	0.44	0.34	0.38	黒褐色土(10YR3/2)	Ta1より古
P236	VI-13	0.22	0.18	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	
P237	VI-13	0.18	0.18	0.12	黒褐色土(10YR3/1)	Ta1より古
P238	VI-13	0.26	0.20	0.12	黒褐色土(10YR3/1)	Ta1より古
P239	VI-13	0.18	0.16	0.32	黒褐色土(10YR3/2)	Ta1より古
P240	VI-13	0.46	0.40	0.36	黒褐色土(10YR3/2)	Ta1より古
P241	VI-13	0.80	0.70	0.30	黒褐色土(10YR3/1)	Ta1より古
P242	VI-13	0.26	0.80	0.33	暗褐色土(10YR3/3)	Ta1より古
P243	VI-13	0.32	0.22	0.33	暗褐色土(10YR3/3)	Ta1より古
P244	VI-18	0.30	0.22	0.40	暗褐色土(10YR3/3)	Ta1より古
P246	VI-18	0.38	0.36	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	Ta1より古
P247	VI-18	0.34	0.32	0.12	暗褐色土(10YR3/3)	Ta1より古
P248	VI-18	0.30	0.26	0.16	暗褐色土(10YR3/3)	
P249	VI-21	0.18	0.16	0.16	暗褐色土(10YR3/3)	
P250	VI-17	0.50	0.40	0.32	黒褐色土(10YR3/2)	土師器
P251	VI-22	0.44	0.34	0.10	黒褐色土(10YR3/2)	
P252	VI-17	〈0.76〉	0.64	0.18	暗褐色土(10YR3/3)	P251より古
P253	VI-17	0.30	0.30	0.36	暗褐色土(10YR3/3)	D63より古

第4表 ピット一覧表3

遺構名	グリッド	法量(m)			埋土	新旧関係・ 出土遺物
		長径	短径	深さ		
P254	VI-22	0.48	0.32	0.30	暗褐色土(10YR3/3)	擦石
P255	VI-22	0.36	0.36	0.26	暗褐色土(10YR3/3)	
P266	VI-23	0.34	〈0.14〉	0.26	暗褐色土(10YR3/3)	D66より古
P267	VI-17	0.38	0.30	0.24	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P268	VI-18	0.34	0.30	0.34	暗褐色土(10YR3/3)	P269より新
P269	VI-18	〈0.44〉	0.32	0.23	暗褐色土(10YR3/3)	P268より古
P270	VI-23	0.28	0.20	0.28	暗褐色土(10YR3/3)	須恵器
P271	VI-23	0.56	0.30	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	弥生土器
P272	VI-13	0.30	0.24	0.40	黒褐色土(10YR3/2)	土師器
P273	VI-13	0.28	0.26	0.08	暗褐色土(10YR3/3)	
P274	VI-12	0.22	0.18	0.12	黒褐色土(10YR3/1)	M3より新
P275	VI-13	0.34	0.24	0.08	黒褐色土(10YR3/2)	
P276	VI-13	0.24	0.18	0.20	黒褐色土(10YR3/1)	
P277	VI-18	0.30	〈0.20〉	0.26	黒褐色土(10YR3/2)	弥生土器
P278	VI-23	0.30	〈0.20〉	0.26	暗褐色土(10YR3/3)	
P279	VI-23	0.36	0.30	0.30	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P280	VI-23	0.28	〈0.16〉	0.15	黒褐色土(10YR3/1)	D68より古
P281	VI-23	0.26	0.24	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	
P282	VI-23	0.30	0.20	0.34	暗褐色土(10YR3/3)	
P283	VI-23	0.22	0.18	0.16	暗褐色土(10YR3/3)	
P285	VI-24	0.42	0.18	0.30	暗褐色土(10YR3/3)	
P286	VI-24	0.20	0.18	0.11	黒褐色土(10YR3/1)	
P287	VI-24	0.30	0.22	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	
P288	VI-24	0.20	0.20	0.16	暗褐色土(10YR3/3)	P289より古
P289	VI-24	0.22	0.20	0.34	黒褐色土(10YR3/2)	P288・290より新 土師器
P290	VI-24	0.20	0.16	0.12	黒褐色土(10YR3/2)	P289より古
P291	VI-25	0.16	0.14	0.30	黒褐色土(10YR3/2)	Ta2より新
P293	VI-23	0.22	0.22	0.28	黒褐色土(10YR3/2)	
P294	VI-18	1.00	〈0.68〉	0.32	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	P295より古 弥生土器
P296	VI-18	0.44	0.42	0.40	黒褐色土(10YR3/2)	
P297	VI-18	0.22	0.20	0.18	暗褐色土(10YR3/3)	
P298	VI-18	0.26	0.22	0.14	暗褐色土(10YR3/3)	
P299	VI-19	0.22	0.18	0.30	暗褐色土(10YR3/3)	
P300	VI-19	0.54	0.30	0.40	暗褐色土(10YR3/3)	
P301	VI-19	0.20	0.16	0.10	黒褐色土(10YR3/2)	
P303	VI-19	0.16	0.14	0.13	暗褐色土(10YR3/3)	
P304	VI-19	0.40	0.26	0.34	1:暗褐色土(10YR3/3) 2:黒褐色土(10YR3/1)	
P305	VI-19	0.22	0.20	0.18	暗褐色土(10YR3/3)	
P306	VI-19	0.24	0.22	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	
P307	VI-9	0.18	0.14	0.10	黒褐色土(10YR3/2)	
P308	VI-8	0.24	0.20	0.12	暗褐色土(10YR3/3)	
P309	VI-9	0.30	0.28	0.23	暗褐色土(10YR3/3)	
P310	VI-19	0.20	0.18	0.16	黒褐色土(10YR3/1)	
P311	VI-19	0.26	0.18	0.14	暗褐色土(10YR3/3)	
P312	VI-19	〈0.20〉	0.20	0.24	暗褐色土(10YR3/3)	P313より古
P314	VI-19	0.24	0.18	0.12	黒褐色土(10YR3/2)	弥生土器 土師器
P315	VI-19	0.16	0.16	0.12	暗褐色土(10YR3/3)	
P316	VI-19	0.16	0.14	0.06	暗褐色土(10YR3/3)	

遺構名	グリッド	法量(m)			埋土	新旧関係・ 出土遺物
		長径	短径	深さ		
P317	VI-19	0.18	0.16	0.21	黒褐色土(10YR3/2)	土師器
P318	VI-19	0.30	0.24	0.34	黒褐色土(10YR3/2)	土師器
P319	VI-14	0.22	0.20	0.28	黒褐色土(10YR3/2)	
P320	VI-14	0.28	0.26	0.26	暗褐色土(10YR3/3)	
P321	VI-14	0.22	0.22	0.30	暗褐色土(10YR3/3)	須恵器
P322	VI-3	0.36	0.30	0.28	暗褐色土(10YR3/3)	土師器
P323	VI-3	0.26	0.22	0.24	黒褐色土(10YR3/2)	
P324	VI-3	0.16	0.14	0.08	1:黒褐色土(10YR3/1) 2:灰黄褐色土(10YR4/3)	
P325	VI-9	0.18	0.16	0.24	黒褐色土(10YR3/2)	
P326	VI-9	0.26	0.20	0.10	暗褐色土(10YR3/3)	
P327	VI-9	0.28	0.22	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	
P328	VI-9	0.22	0.20	0.24	黒褐色土(10YR3/2)	
P329	VI-15	0.20	0.20	0.20	黒褐色土(10YR3/2)	
P330	VI-15	0.14	0.14	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P331	VI-15	0.16	0.14	0.08	黒褐色土(10YR3/1)	
P332	VI-15	0.24	0.20	0.16	黒褐色土(10YR3/2)	
P333	VI-3	0.26	0.20	0.11	暗褐色土(10YR3/3)	H8より新
P334	VI-19	0.28	0.22	0.18	黒褐色土(10YR3/2)	
P335	VI-19	0.20	0.18	0.13	暗褐色土(10YR3/3)	
P336	VI-20	0.22	0.16	0.08	暗褐色土(10YR3/3)	
P337	VI-20	0.16	0.16	0.08	暗褐色土(10YR3/3)	
P338	VI-20	0.30	0.26	0.37	暗褐色土(10YR3/3)	D60より新
P339	VI-20	0.26	0.20	0.15	暗褐色土(10YR3/3)	
P340	VI-20	0.18	0.16	0.08	暗褐色土(10YR3/3)	
P341	VI-15	0.40	0.38	0.13	暗褐色土(10YR3/3)	
P342	VI-15	0.26	0.22	0.28	暗褐色土(10YR3/3)	
P343	VI-20	0.22	0.20	0.20	黒褐色土(10YR3/2)	
P344	VI-20	0.44	0.36	0.26	黒褐色土(10YR3/2)	Ta2より古
P345	VI-20	1.00	0.94	0.40	1:黒褐色土(10YR3/1) 2:にぶい橙色土(7.5YR7/3) 3:黒色土(10YR2/1)	Ta2・P346より古
P346	VI-20	0.46	〈0.16〉	0.36	1:黒色土(10YR2/1) 2:黒褐色土(10YR3/1)	Ta2より古 P345より新
P348	VI-20	0.46	0.36	0.24	黒色土(10YR2/1)	Ta2より古 P347より新 土師器
P350	VI-25	0.18	0.16	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	Ta2より古
P351	VI-25	0.34	〈0.12〉	0.26	黒褐色土(10YR3/1)	Ta2より古
P353	VI-9	0.46	0.36	0.43	暗褐色土(10YR3/3)	
P354	VI-9	0.30	0.24	0.12	暗褐色土(10YR3/3)	
P355	VI-10	0.20	0.16	0.14	黒褐色土(10YR3/2)	
P356	VI-10	0.22	0.22	0.08	黒褐色土(10YR3/1)	
P357	VI-10	0.62	0.50	0.14	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P358	VI-15	0.36	0.30	0.10	暗褐色土(10YR3/3)	
P359	Ⅶ-21	0.40	0.30	0.50	暗褐色土(10YR3/3)	
P360	Ⅶ-16	0.20	0.14	0.08	黒褐色土(10YR3/2)	
P361	Ⅶ-16	0.52	0.44	0.30	1:黒褐色土(10YR3/2) 2:にぶい橙色土(10YR7/3)	
P362	Ⅶ-16	0.40	0.40	0.26	1:黒褐色土(10YR3/2) 2:にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P363	Ⅶ-11	0.24	0.20	0.10	黒褐色土(10YR3/2)	D68より古
P364	Ⅶ-11	1.08	0.38	0.19	暗褐色土(10YR3/3)	
P365	VI-9	0.36	0.26	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	

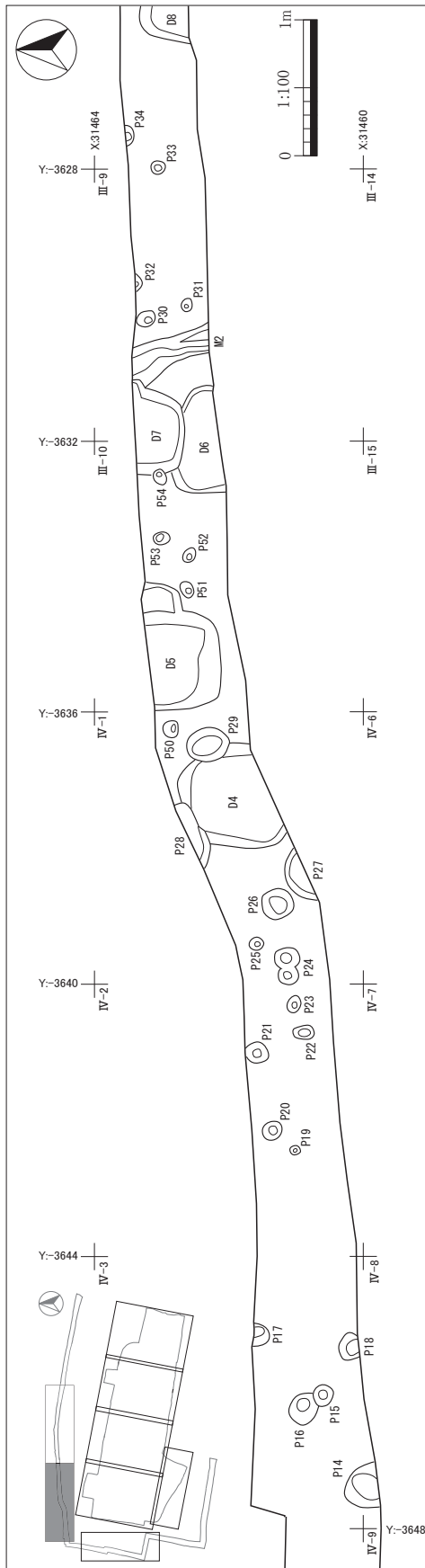
第5表 ピット一覧表4



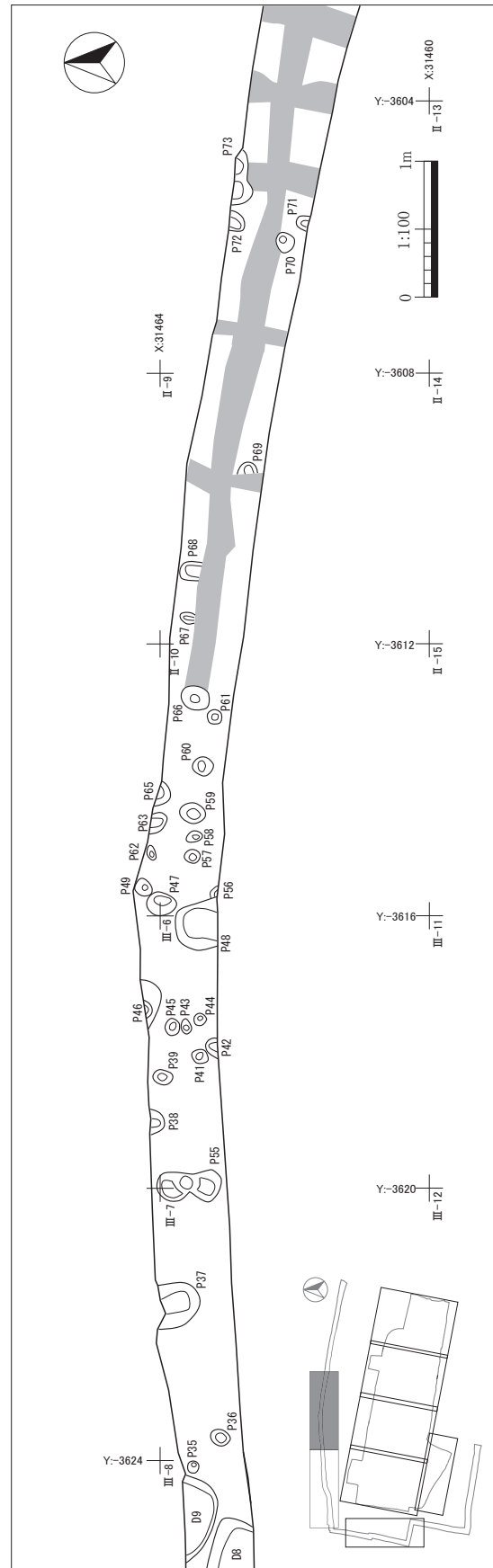
遺構名	グリッド	法量(m)			埋土	新旧関係・ 出土遺物
		長径	短径	深さ		
P366	Ⅵ-9	0.32	0.20	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	
P367	Ⅶ-16	0.68	0.50	0.25	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P368	Ⅵ-20	0.72	0.54	0.20	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P369	Ⅶ-16	0.56	0.46	0.20	1:暗褐色土(10YR3/3) 2:にぶい橙褐色土(10YR7/3)	
P391	Ⅳ-21	0.64	0.44	0.25	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	P392より新
P392	Ⅳ-21	〈0.56〉	0.48	0.10	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	P391より古
P393	Ⅳ-21	0.62	0.27	0.14	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P394	Ⅳ-21	0.54	0.50	0.13	黒褐色土(10YR3/1)	
P395	Ⅷ-2	0.72	0.70	0.28	黒色土(10YR2/1)	
P396	Ⅷ-7	0.66	0.64	0.26	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P397	Ⅳ-21	0.62	0.54	0.20	黒褐色土(10YR3/1)	
P398	Ⅳ-21	0.76	0.68	0.26	黒褐色土(10YR3/1)	
P399	Ⅷ-1	0.50	0.50	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	
P400	Ⅷ-1	0.32	0.30	0.20	黒色土(10YR2/1)	
P401	Ⅷ-1	0.70	0.60	0.18	黒褐色土(10YR3/1)	
P402	Ⅷ-1	0.36	0.28	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P403	Ⅷ-1	0.28	0.24	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P404	Ⅷ-1	0.28	0.28	0.70	黒褐色土(10YR3/1)	
P405	Ⅷ-6	0.26	0.22	0.14	黒褐色土(10YR3/1)	
P406	Ⅷ-6	0.34	0.26	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P407	Ⅷ-11	0.80	0.62	0.20	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	
P408	Ⅶ-25	0.86	0.54	0.34	黒褐色土(10YR3/2)	
P409	Ⅶ-25	0.56	0.38	0.20	黒褐色土(10YR3/2)	
P410	Ⅶ-5	0.44	0.34	0.12	黒褐色土(10YR3/2)	
P411	Ⅷ-1	0.30	0.26	0.14	黒褐色土(10YR3/1)	
P412	Ⅷ-6	0.50	0.36	0.14	灰黄褐色土(10YR4/2)	
P413	Ⅶ-10	0.54	0.50	0.20	灰黄褐色土(10YR4/2)	
P414	Ⅷ-16	0.36	0.28	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	
P415	Ⅶ-24	0.50	0.32	0.14	暗褐色土(10YR3/3)	
P416	Ⅶ-20	0.38	0.32	0.16	黒褐色土(10YR3/2)	
P418	Ⅲ-25	0.28	0.20	0.16	暗褐色土(10YR3/3)	
P419	Ⅲ-25	0.40	0.40	0.20	灰黄褐色土(10YR4/2)	
P420	Ⅲ-25	0.50	0.50	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	
P421	Ⅲ-25	0.30	0.24	0.10	黒褐色土(10YR3/2)	
P422	Ⅶ-19	0.40	0.38	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	
P423	Ⅷ-16	0.32	0.32	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	
P424	Ⅷ-11	0.36	0.26	0.18	黒褐色土(10YR3/2)	
P425	Ⅷ-6	0.18	0.14	0.12	黒褐色土(10YR3/1)	
P426	Ⅶ-23	0.52	0.50	0.26	1:黒褐色土(10YR3/1) 2:暗褐色土(10YR3/3) 3:黒褐色土(10YR3/1)	
P427	Ⅶ-23	0.44	0.40	0.26	褐灰色土(10YR4/1)	
P428	Ⅶ-23	1.02	0.42	0.30	黒褐色土(10YR3/1)	
P429	Ⅺ-3	0.36	0.22	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P430	Ⅷ-12	1.06	0.92	0.30	黒色土(10YR2/1)	

遺構名	グリッド	法量(m)			埋土	新旧関係・ 出土遺物
		長径	短径	深さ		
P431	Ⅷ-11	0.36	0.36	0.18	黒褐色土(10YR3/2)	
P432	Ⅷ-12	0.28	0.24	0.23	黒褐色土(10YR3/1)	土師器
P433	Ⅷ-12	0.36	0.30	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P434	Ⅷ-11	0.38	0.24	0.13	黒褐色土(10YR3/1)	
P435	Ⅷ-12	0.88	0.74	0.24	黒色土(10YR2/1)	
P436	Ⅷ-17	0.52	0.44	0.15	黒褐色土(10YR3/1)	
P437	Ⅷ-17	0.62	0.48	0.21	黒色土(10YR2/1)	
P438	Ⅷ-17	0.64	〈0.40〉	0.28	黒褐色土(10YR3/1)	
P439	Ⅷ-11	0.32	0.24	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	
P440	Ⅷ-16	0.30	0.30	0.24	黒褐色土(10YR3/2)	
P441	Ⅷ-16	0.28	0.28	0.26	黒褐色土(10YR3/1)	
P442	Ⅷ-16	0.28	0.26	0.22	黒褐色土(10YR3/2)	
P443	Ⅷ-16	0.84	0.48	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	
P444	Ⅷ-16	0.38	0.32	0.26	1:黒褐色土(10YR3/1) 2:灰黄褐色土(10YR4/2)	
P445	Ⅷ-16	0.38	0.38	0.10	灰黄褐色土(10YR4/2)	
P446	Ⅶ-20	0.28	0.26	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P447	Ⅷ-16	0.24	0.20	0.14	黒褐色土(10YR3/1)	
P448	Ⅷ-16	0.30	0.26	0.08	黒褐色土(10YR3/1)	
P449	Ⅶ-15	0.22	0.20	0.20	黒褐色土(10YR3/2)	
P450	Ⅶ-15	0.24	0.24	0.14	黒褐色土(10YR3/1)	
P451	Ⅶ-15	0.20	0.18	0.08	黒褐色土(10YR3/1)	
P452	Ⅶ-18	0.34	0.22	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	
P453	Ⅶ-18	0.30	0.26	0.18	黒褐色土(10YR3/1)	
P454	Ⅶ-18	0.26	0.26	0.08	黒褐色土(10YR3/2)	
P455	Ⅶ-18	0.38	0.26	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	
P456	Ⅶ-18	0.44	0.26	0.14	黒褐色土(10YR3/1)	
P457	Ⅶ-19	0.37	0.24	0.08	黒褐色土(10YR3/1)	
P458	Ⅶ-19	0.70	0.54	0.20	暗褐色土(10YR3/3)	
P459	Ⅺ-4	0.46	0.40	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	
P460	Ⅶ-24	0.38	0.34	0.32	黒褐色土(10YR3/2)	
P461	Ⅶ-19	0.36	〈0.28〉	0.22	灰黄褐色土(10YR4/2)	P462より新
P462	Ⅶ-19	0.34	0.30	0.23	黒褐色土(10YR3/1)	P461より古
P463	Ⅱ-22	0.27	0.23	0.29	黒褐色土(10YR3/2)	
P464	Ⅵ-2	0.22	0.21	0.31	黒褐色土(10YR3/2)	
P465	Ⅲ-19	0.32	0.26	0.30	黒褐色土(10YR3/2)	
P466	Ⅲ-19	0.30	0.19	0.16	暗褐色土(10YR3/3)	
P467	Ⅲ-20	0.23	0.15	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	D96より古
P468	Ⅲ-20	0.19	0.16	0.10	黒褐色土(10YR3/1)	
P469	Ⅲ-20	0.23	0.22	0.40	黒褐色土(10YR3/1)	
P470	Ⅲ-20	0.27	0.26	0.24	黒褐色土(10YR3/1)	
P471	Ⅲ-19	0.22	0.21	0.14	黒褐色土(10YR3/1)	
P472	Ⅲ-24	0.16	0.16	0.16	黒褐色土(10YR3/1)	H13より新
P473	Ⅲ-24	0.22	0.20	0.22	黒褐色土(10YR3/1)	H13より新

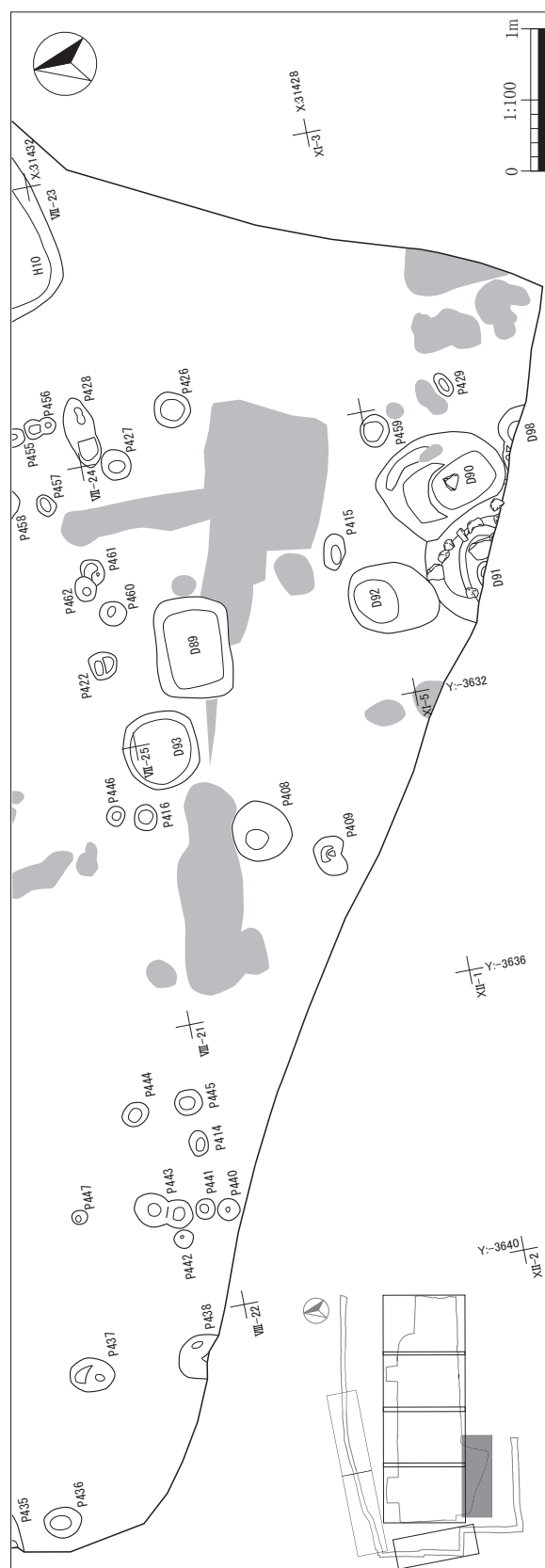
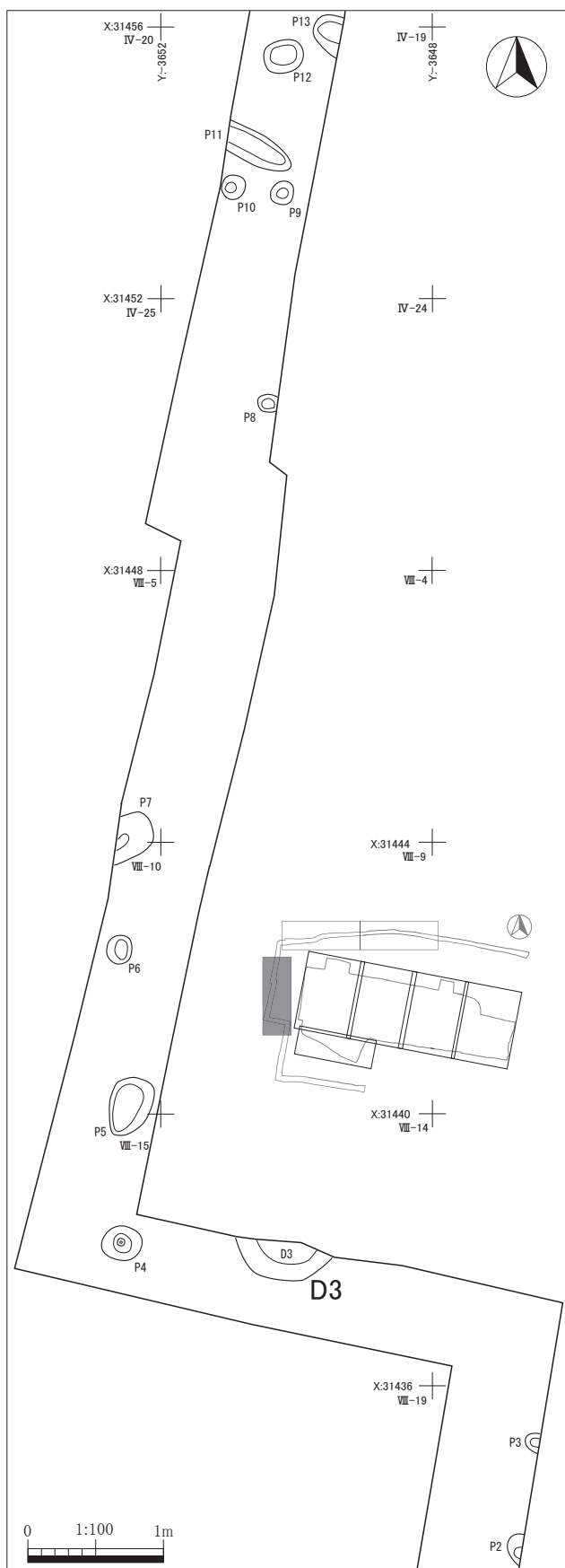
第6表 ピット一覧表5



第 48 図 調査区分割図 1



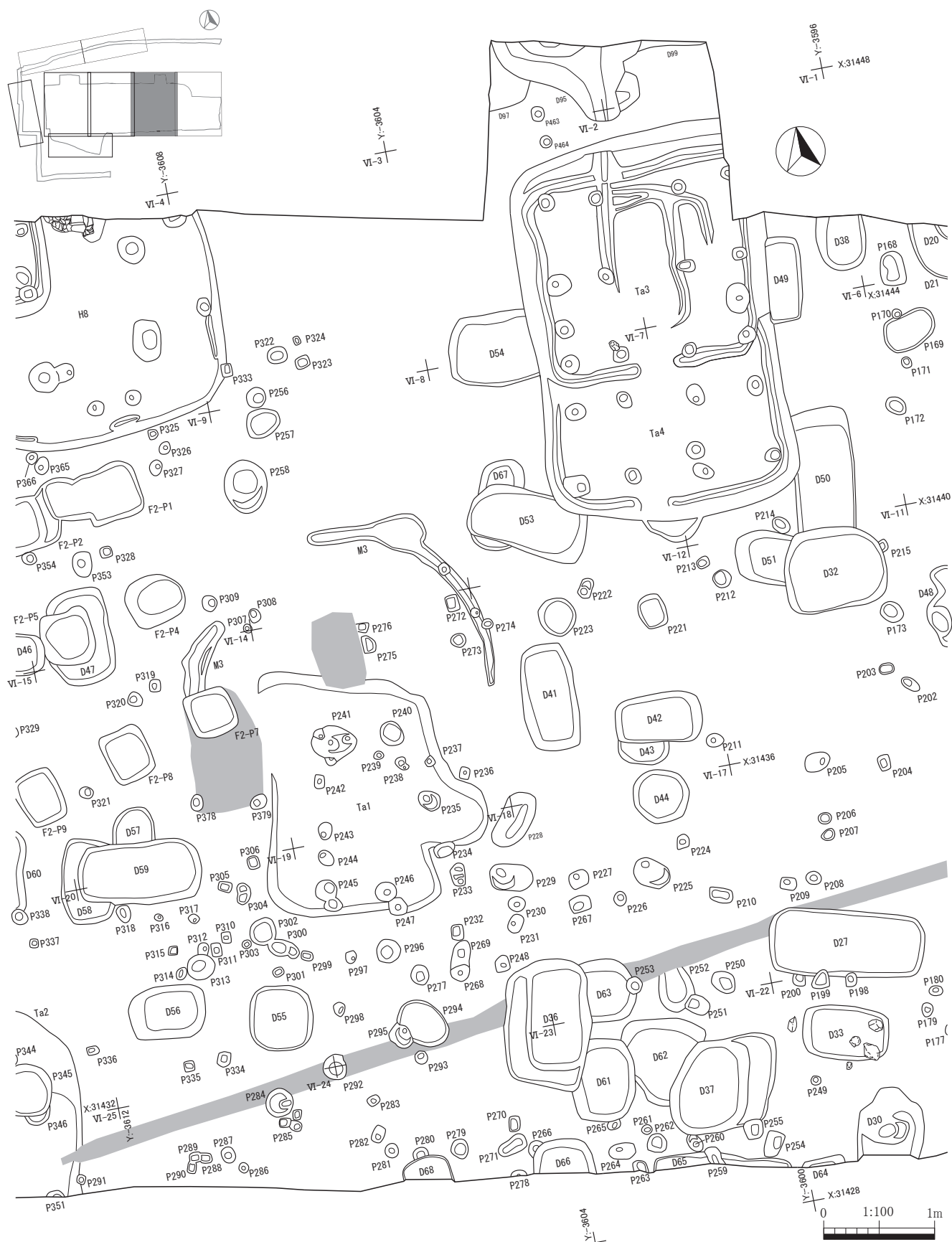
第 49 図 調査区分割図 2



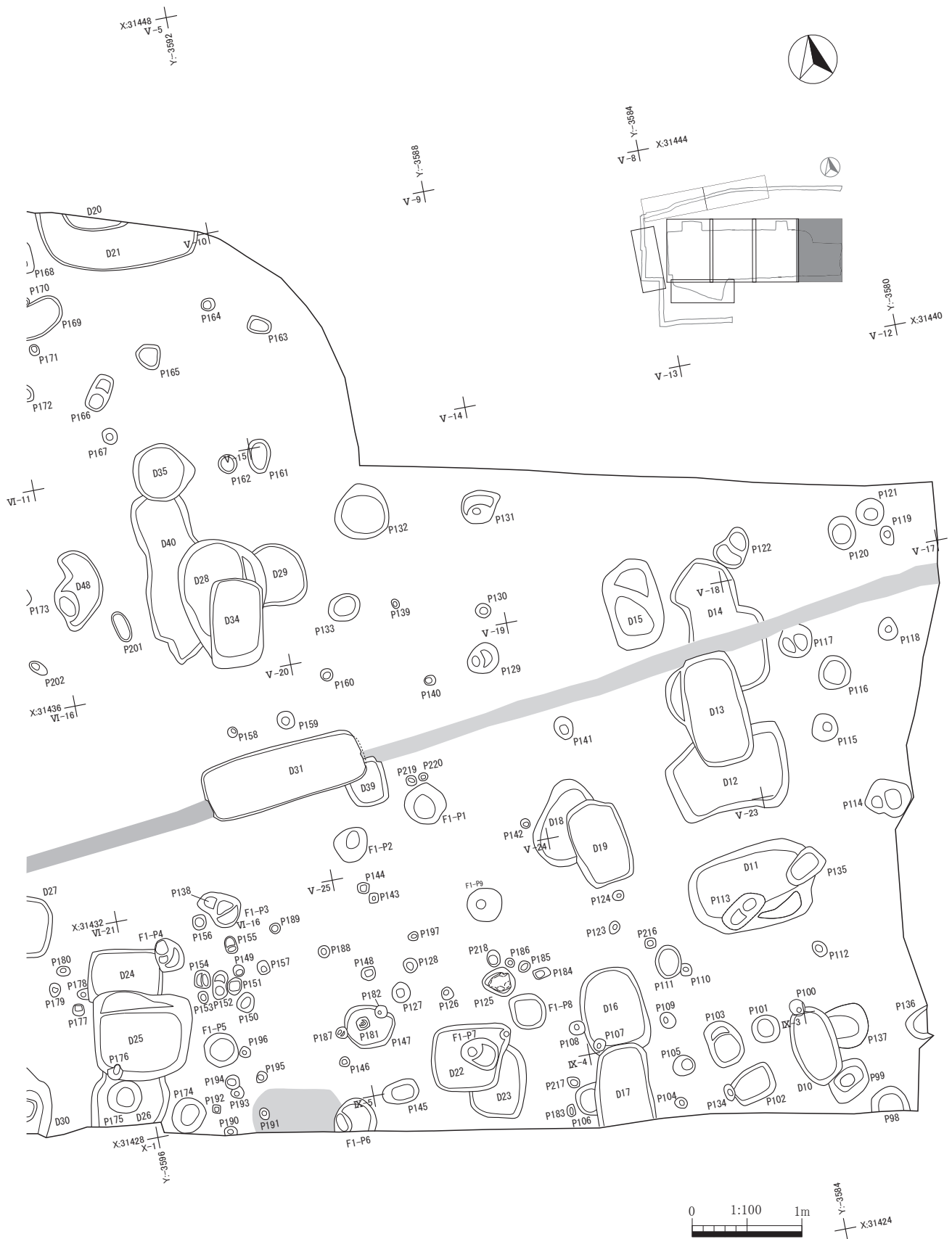


第 52 図 調査区分割図 5









遺構	No.	器種	器形	法量(cm・g) (推定値)(残存値)				成形・調整・文様		出土 層位	備考
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量	内面	外面		
H3	1	土師器	坏	(13.0)	—	〈3.6〉	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ	埋土	
	2	土師器	坏	(14.2)	(5.6)	4.2	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ・回転糸切り	埋土	
	3	土師器	坏	(15.0)	—	〈3.8〉	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ	埋土	
	4	土師器	坏	(17.4)	—	〈4.4〉	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ	埋土	
	5	須恵器	坏	(14.0)	(6.6)	4.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ・回転糸切り	埋土	内外面煤付着
	6	須恵器	坏	14.5	6.4	3.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ・回転糸切り	埋土	火樺痕
	7	灰釉陶器	碗	(17.2)	—	〈5.1〉	—	ロクロナデ・施釉	ロクロナデ・施釉	埋土	
	8	土師器	甕	(10.8)	—	〈4.7〉	—	ナデ	ヘラケズリ	埋土	
	9	土師器	甕	12.9	—	〈7.2〉	—	ナデ	ヘラケズリ	埋土	
	10	土師器	甕	—	4.6	〈7.9〉	—	ナデ	ヘラケズリ	埋土	
	11	土師器	甕	—	5.1	〈5.6〉	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	
	12	土師器	甕	—	(5.6)	〈5.4〉	—	ナデ	ヘラケズリ	埋土	
	13	須恵器	壺	—	—	〈4.2〉	—	あて具痕	タタキ・自然釉	埋土	肩部破片
	14	須恵器	甕	—	(14.0)	(6.0)	—	あて具痕・自然釉	タタキ・自然釉	埋土	
	15	須恵器	甕	—	11.8	(9.1)	—	あて具痕・自然釉	タタキ・自然釉	埋土	
	16	鉄製品	刀子	(9.3)	1.3	0.3	〈7.8〉	—	—	埋土	両端欠損
	17	鉄製品	鎌	〈12.0〉	〈2.5〉	〈0.4〉	〈36.98〉	—	—	埋土	刃先欠損
H4	1	土師器	坏	(14.6)	(6.6)	5.0	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ・回転糸切り ヘラケズリ	埋土	
	2	土師器	碗	—	7.2	〈3.1〉	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ・回転糸切り	埋土	
	3	須恵器	坏	(13.3)	6.5	3.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ・回転糸切り	埋土	
	4	須恵器	有台坏	(16.0)	(11.6)	3.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	5	須恵器	不明	—	—	〈2.4〉	—	ナデ	方形状文様	埋土	
H8	6	鉄製品	角釘	(7.9)	〈0.5〉	〈0.5〉	〈5.92〉	—	—	埋土	両端欠損
	1	土師器	坏	15.3	6.3	4.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ・底部ヘラケズリ	カマド	
	2	土師器	坏	14.9	8.1	4.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ・ 糸切り・底部ヘラケズリ	床面	
	3	須恵器	坏	(13.8)	(8.4)	〈3.3〉	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	火樺痕
	4	須恵器	坏	(13.4)	(9.8)	3.4	—	ロクロナデ	ロクロナデ	床面	火樺痕
	5	須恵器	坏	13.7	10.2	3.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ	床面	火樺痕
	6	須恵器	坏	(14.4)	8.0	4.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	床面	
	7	須恵器	有台坏	(13.0)	10.0	3.3	—	ロクロナデ	ロクロナデ	床面	火樺痕
	8	土師器	甕	13.6	—	〈10.0〉	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	
	9	土師器	甕	—	(5.6)	〈8.2〉	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	
	10	須恵器	甕	(35.6)	(15.0)	(27.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ・タタキ	床面	
	11	石器	凹石	17.0	15.8	5.5	1820.0	—	—	床面	
	12	石器	磨石	19.1	9.4	6.2	1980.0	—	—	床面	
H9	13	鉄製品	留金具	1.3	0.5	1.1	0.8	—	—	埋土	
	1	鉄製品	刃器	〈5.1〉	〈4.4〉	〈0.9〉	〈64.93〉	—	—	床面	
	1	須恵器	坏	—	(6.6)	〈3.3〉	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
H10	2	土師器	甕	(21.2)	—	〈10.3〉	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	カマド	
	3	土師器	甕	(20.4)	—	〈4.8〉	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	カマド	
	4	須恵器	壺	—	—	〈2.4〉	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	5	須恵器	壺	(10.0)	—	〈3.1〉	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	6	須恵器	壺	—	(7.0)	〈2.7〉	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	埋土	
	7	鉄製品	不明	〈6.1〉	〈3.6〉	〈0.25〉	〈20.42〉	—	—	床面	
	8	鉄製品	鎌	19.0	4.0	0.3	51.3	—	—	床面	
H11	1	須恵器	坏	—	(6.2)	〈2.7〉	—	ロクロナデ	ロクロナデ	堀方	火樺痕
	2	土師器	甕	—	4.3	〈2.2〉	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	堀方	
	3	土師器	甕	(20.8)	—	〈6.3〉	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	堀方	
H12	1	土師器	坏	(15.2)	—	〈3.9〉	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ	埋土	
	2	土師器	甕	(20.0)	—	〈5.3〉	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	床面	
	3	土師器	甕	(20.6)	—	〈5.4〉	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	D82と接合
	4	土師器	甕	20.0	—	〈20.3〉	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	カマド	
	5	須恵器	壺	(6.4)	—	〈7.9〉	—	ロクロナデ	ロクロナデ	堀方	

第7表 遺物観察表 1

遺構	No.	器種	器形	法量(cm・g) (推定値)(残存値)				成形・調整・文様		出土 層位	備考
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量	内面	外面		
H12	6	石器	敲石	14.2	4.5	5.3	470.0	—	—	床面	
	7	石器	台石	37.5	26.4	8.5	12100.0	—	—	床面	
H13	1	須恵器	壺	(29.0)	—	(13.6)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	2	石器	打製 石斧	(7.7)	(6.6)	(1.4)	(84.1)	—	—	堀方	
H14	1	須恵器	蓋	14.4	—	4.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラケズリ	カマド	
	2	鉄製品	刀子	(8.0)	(1.1)	(0.4)	(9.2)	—	—	床面	
	3	鉄製品	刀子	(4.7)	(1.1)	(0.4)	(5.2)	—	—	床面	
H15	1	土師器	坏	(13.7)	(7.9)	(4.1)	—	黒色処理	ロクロナデ	床面	底部に墨書
	2	須恵器	有台坏	—	(8.5)	(3.5)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	堀方	
H17	1	須恵器	坏	(14.2)	(7.8)	3.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ・底部ヘラ切り	埋土	火樺痕
	2	須恵器	坏	(15.2)	(8.4)	3.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ・底部ヘラケズリ	埋土	火樺痕
	3	土師器	甕	(13.7)	—	(4.5)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	
	4	石器	敲石	14.9	12.8	3.8	1088.8	—	—	埋土	
	5	石器	敲石	15.0	5.5	6.3	788.2	—	—	埋土	
Ta1	1	土師器	坏	(10.2)	—	(1.3)	—	ヘラミガキ・黒色処理	ロクロナデ	埋土	
	2	須恵器	壺	(9.0)	—	(1.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	3	石器	敲石	11.3	6.0	4.2	412.5	—	—	埋土	
	4	石器	砥石	(13.1)	(4.9)	(3.2)	(261.6)	—	—	埋土	
Ta2	1	土師器	甕	—	—	(2.9)	—	ナデ	ナデ	埋土	
	2	灰釉陶器	碗	(15.2)	—	(3.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	3	灰釉陶器	長頸瓶	(6.4)	—	(1.3)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	4	古瀬戸	瓶子	—	(11.8)	(7.9)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	床面	13世紀
	5	青磁	連弁碗	—	—	(1.8)	—	施釉	施釉・連弁文	埋土	13世紀 龍泉窯
	6	石器	敲石	7.5	5.2	2.3	152.5	—	—	埋土	
	7	石製品	硯	(9.9)	(9.2)	(2.0)	(300.3)	—	—	床面	
Ta3	1	古瀬戸	折縁皿	(12.2)	—	(1.5)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	13世紀
F2	1	鉄製品	角釘	(6.0)	0.8	0.4	(4.57)			埋土	
F5	1	須恵器	蓋	(14.7)	3.4	3.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
	2	土師器	甕	—	4.8	(6.9)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	埋土	
D16	1	銅製品	銅銭	23.8	—	1.2	2.9	—	—	埋土	紹聖元寶 (北宋 1094年)
D25	1	銅製品	銅銭	23.6	—	1.2	1.7	—	—	埋土	四銖半兩 (前漢 BC175年)
D27	1	灰釉陶器	碗	—	(6.2)	(1.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
D28	1	須恵器	有台坏	—	(7.2)	(1.4)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	埋土	
D45	1	土師器	坏	—	—	(3.3)	—	ヨコナデ・暗文	ヨコナデ・ヘラケズリ	埋土	
	2	石器	砥石	(7.4)	(5.2)	(1.6)	(79.46)	—	—	埋土	
	3	瓦	瓦	(11.7)	(5.7)	(1.4)	—	布目	布目	埋土	
D54	1	青磁	連弁碗	—	—	(3.5)	—	施釉	施釉・連弁文	埋土	13世紀 龍泉窯
	2	青磁	碗	—	—	(3.7)	—	施釉・画花文	施釉	埋土	13世紀前半 龍泉窯
	3	銅製品	銅銭	24.1	—	1.0	2.7	—	—	埋土	紹聖元寶 (北宋 1094年)
D59	1	石器	砥石	(8.3)	(5.9)	(5.1)	(380.7)	—	—	埋土	
D61	1	銅製品	銅銭	24.0	—	1.0	2.9	—	—	埋土	紹聖元寶 (北宋 1094年)
D71	1	須恵器	四耳壺	—	(13.5)	(28.7)	—	ロクロナデ・当て具痕 ・ナデ	タタキ	床面	
D75	1	銅製品	銅銭	24.4	—	1.0	2.9	—	—	埋土	熙寧元寶 (北宋 1068年)
D78	1	銅製品	銅銭	23.6	—	0.8	1.2	—	—	埋土	景□□寶
D80	1	土師器	皿	(13.5)	(5.9)	3.3	—	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・ 底部回転ヘラケズリ	埋土	
	2	土師器	坏	—	(6.2)	(2.2)	—	ミガキ	ロクロナデ・底部回転糸切り	埋土	H12と接合
VI-21Gr	1	鉄製品	角釘	3.0	0.7	0.4	2.4	—	—	検出	屈曲

第8表 遺物観察表 2

### 第三章 総括

道常遺跡Ⅲでは、奈良時代から中世までの遺構が検出された。これらは、周辺で調査された南近津遺跡Ⅲ・若宮遺跡Ⅳ・宮の前遺跡Ⅰ～Ⅲ・道常遺跡Ⅰ・Ⅱにおける集落跡と一連の集落である。

奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居址や掘立柱建物址が検出されたが、時期の特定できる住居址については、概ね8世紀～9世紀に位置づけられる。本調査区東側の南近津遺跡他における発掘調査では、古墳時代後期から中世までの集落跡が確認されているが、8世紀には住居址が増加し、集落が拡大していく様相が捉えられている。本調査区では、古墳時代以前の住居址は確認されていないため、8世紀以降の集落の拡大に伴って居住が開始された地区と位置づけられる。出土した遺物は、住居址から出土する須恵器・土師器等の日常品がほとんどだが、中世の井戸跡と考えられるD45号土坑から、平瓦の破片が出土している。周辺の調査で出土している資料と併せ、寺院の存在を示唆するものである。

9世紀後半以降は集落が衰退し、一旦は居住が途絶えるようであるが、中世になると再び集落が営まれるようになる。中世集落の様相は平安時代までとは一変し、遺物はほとんど出土せず、遺構は竪穴状遺構と方形や円形の大小様々な土坑及びピット群により構成される。

竪穴状遺構（竪穴建物址と報告される場合もある）は、佐久市内では大井城跡、前田遺跡、金井城跡、池端遺跡、池端城跡、前藤部遺跡、観音堂遺跡、柳堂遺跡、番屋前遺跡、梨の木遺跡などで確認されている。竪穴状遺構の多くは、何らかの上屋構造を持つ建物址と考えられ、中世全般に認められるが、その形態は実に多様である。平面形は方形を基本とするが、長方形のもの、楕円形のもの、張出し部を有するものも認められる。竪穴内外に柱穴を伴うものと、柱穴がないものがあるが、柱穴を伴う場合でも竪穴外周に配されるもの、竪穴内の壁に沿って配されるもの、竪穴内外に総柱状に規則的に配されるものなどがある。竪穴の掘込みは明確な壁を有する逆台形のものからわずかに窪む程度のものまであり、それぞれ硬化した床面が認められるものと認められないものがある。本調査区で検出された5基についても、平面形や床面・柱穴の有無に違いがみられるが、Ta3・4・5号竪穴状遺構は同一の形態と考えられる。硬質な床面は認められないが、方形の竪穴内に総柱状に柱穴が並び、灰の堆積が認められた。また埋土は人為的に埋め戻された状況であった。形態的に類似する遺構は、前藤部遺跡で2基（Ta67・73号竪穴状遺構）、金井城跡で4基（第45・208・381・476号竪穴建物址）確認されているが、灰層は認められない。市外の類例では、駒ヶ根市遊光遺跡の第9号住居址が挙げられる。中世の焼失住居であり、敷板材や天井材などが良好な状態で検出されたことで、建物周囲に板壁を廻らせ、屋根に土をかぶせた陸屋根型式の竪穴住居址が復元されている。本遺跡Ta3・4・5号竪穴状遺構についても、竪穴の形状や柱穴の配置から同様の建物形態を想定することも可能である。Ta3号竪穴状遺構とD95号土坑のような地下で繋がる形態は、佐久市では初めての発見であり、その機能は不明である。地下室と考えるには接続部分が狭小であるが、溝が集約し、北側に傾斜していることに注目すれば、排水機能が想定できるだろうか。

多様な土坑群についても、佐久市内の他遺跡と同様の状況といえる。小型の建物址である可能性も考えられるが、硬化面が認められるものはなく、ほとんどが人為的に埋め戻された状況であった。主軸方向には一定の規則性が伺え、竪穴状遺構同様にほぼ東西・南北軸となる。

中世遺構の帰属時期については、竪穴状遺構及び土坑から出土した陶磁器の年代から、13世紀を上限とし、内耳土器や石臼などの遺物が出土しないことから、これらの遺物が定着する以前、14世紀代には廃絶したものと考えたい。佐久平浅間小学校建設に伴い発掘調査が行われた大豆田遺跡Ⅳにおいては、13世紀～14世紀の所産と考えられる東西・南北方向に伸びる区画溝や井戸址が検出されている。中部横断自動車道建設に伴う西近津遺跡群の発掘調査においても、12世紀以降に構築された、東西・南北軸の区画溝などが確認されており、このころ周辺一帯で大規模な開発が行われたことがわかってきている。本遺跡についても中世前半の大規模開発の中で形成されたものと考えられるが、遺構・遺物からは、館あるいは町屋的な要素は読み取れず、一般的な集落跡と位置づけられるだろう。

---

1 駒ヶ根市教育委員会 1990 『反目・遊光・殿村・小林遺跡』





調査区南西端部完掘状況



調査区西端部完掘状況



調査区北西端部完掘状況



調査区北側中央完掘状況





調査区北側 H3・H4 付近完掘状況



調査区北東端部完掘状況



調査区東端部完掘状況





調査区中央東側完掘状況



調査区中央西側完掘状況





調査区西側完掘状況



H1・H2 完掘状況



H1・H2 堀方完掘状況



H3・H4 完掘状況



H3・H4 堀方完掘状況





H8 完掘状況



H8 カマド完掘状況



H8 堀方完掘状況

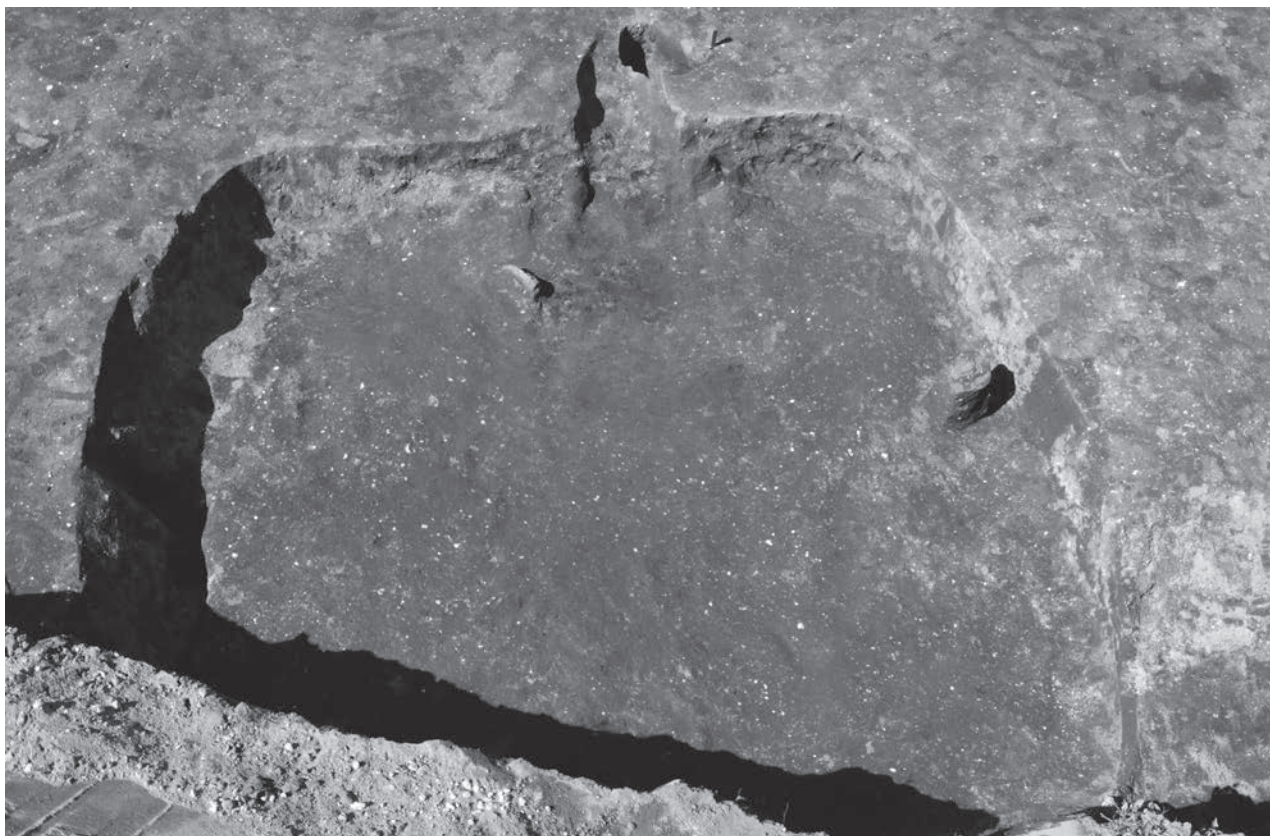


H9 堀方完掘状況

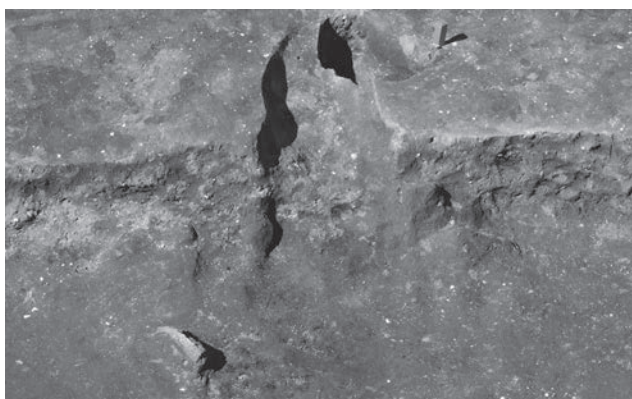


H11 堀方完掘状況

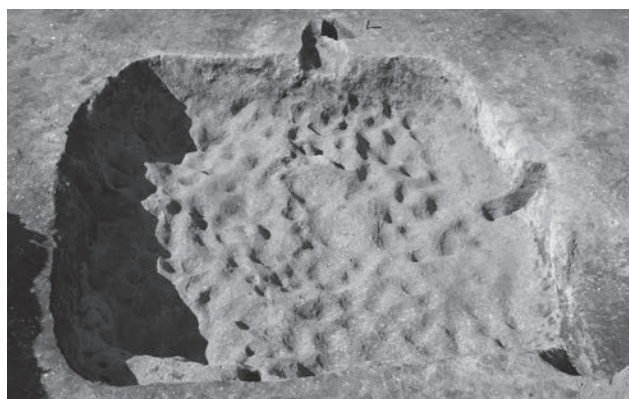




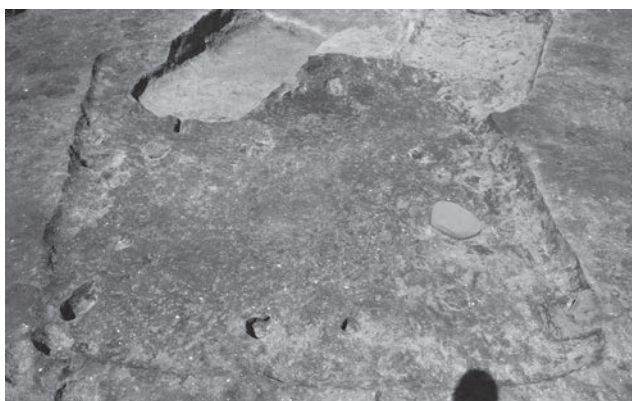
H10 完掘状況



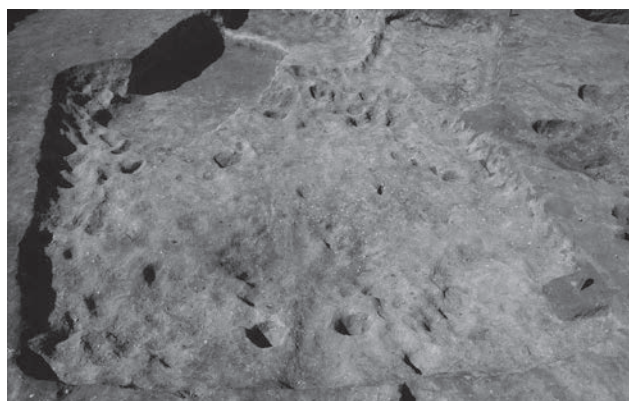
H10 カマド完掘状況



H10 堀方完掘状況

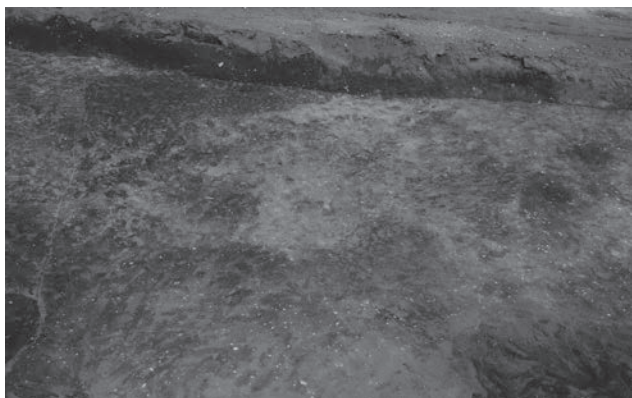


H12 完掘状況

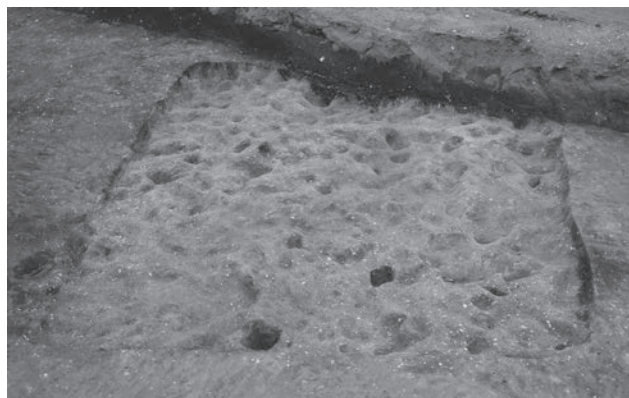


H12 堀方完掘状況

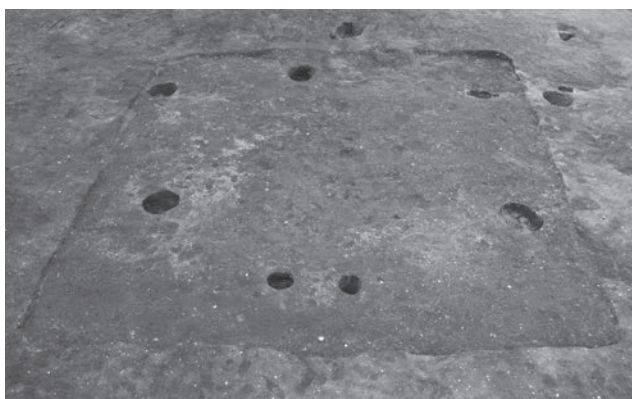




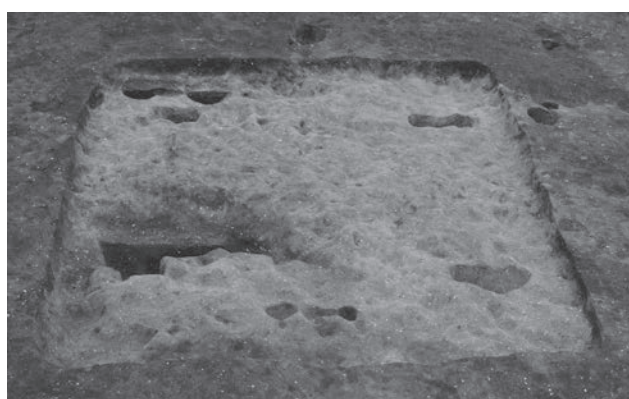
H13 完掘状況



H13 堀方完掘状況



H14 完掘状況



H14 堀方完掘状況



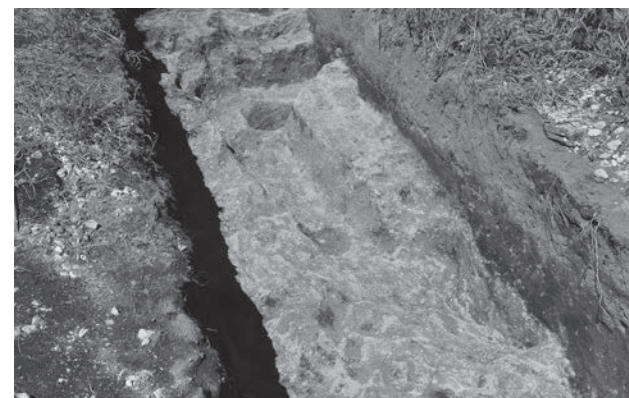
H15 完掘状況



H16・H17 完掘状況



H17 堀方完掘状況

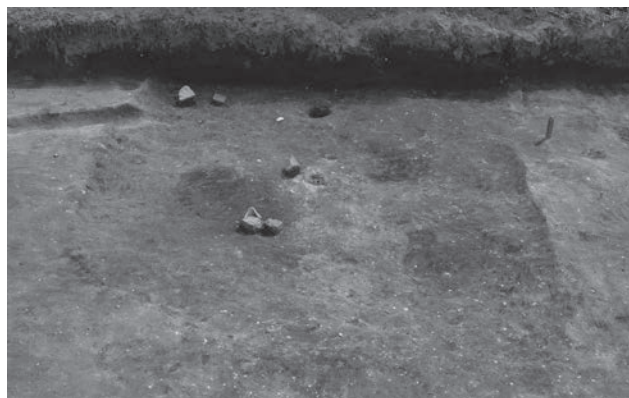


H18 完掘状況





Ta1 完掘状況



Ta2 完掘状況



Ta2 遺物出土状況



Ta5 灰検出状況



Ta5 完掘状況





Ta3・Ta4 完掘状況



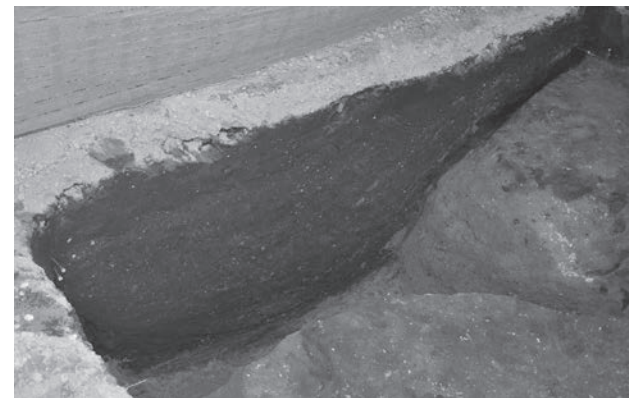
Ta3 灰検出状況



Ta3・D95 完掘状況

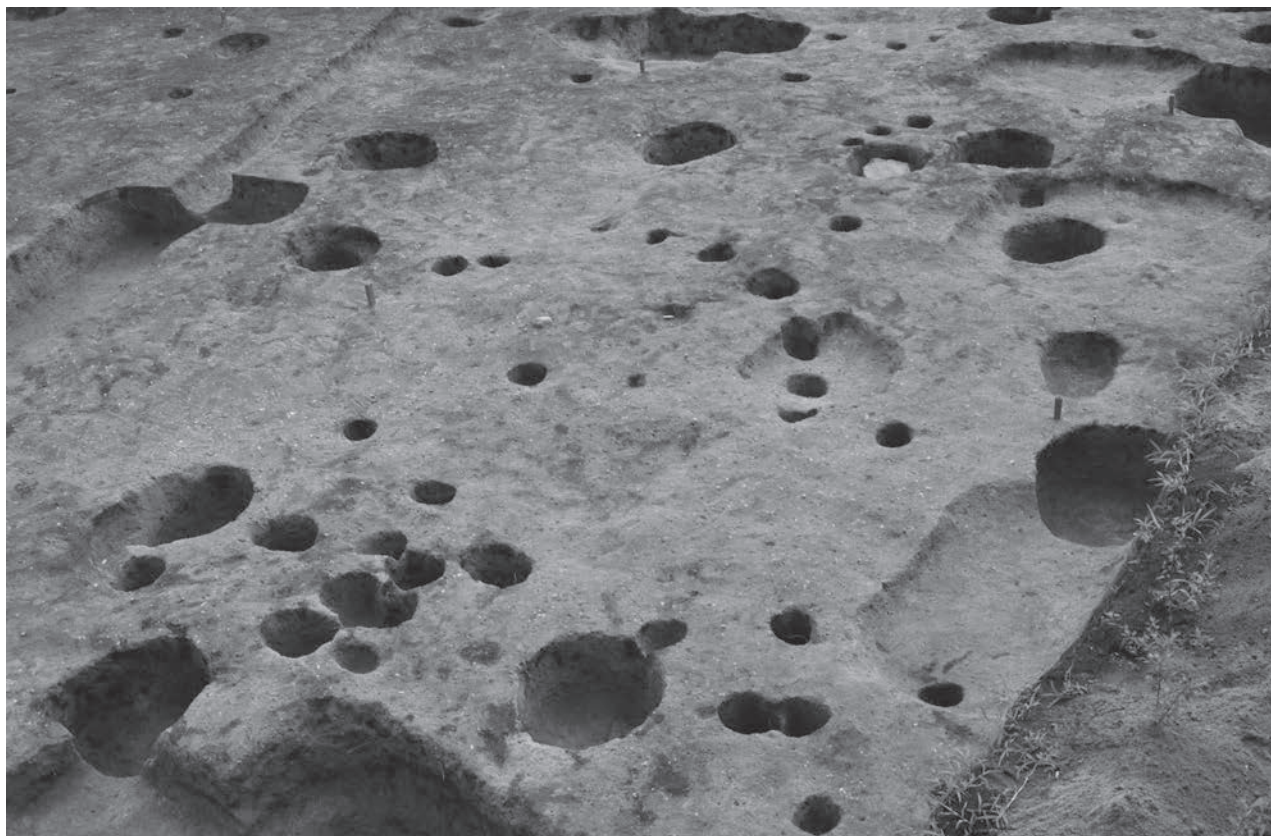


Ta3・D95 地下部分



D95 土層断面





F1 完掘状況

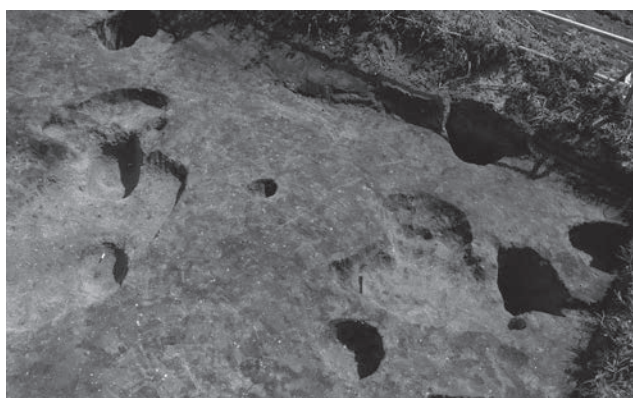


F2 完掘状況

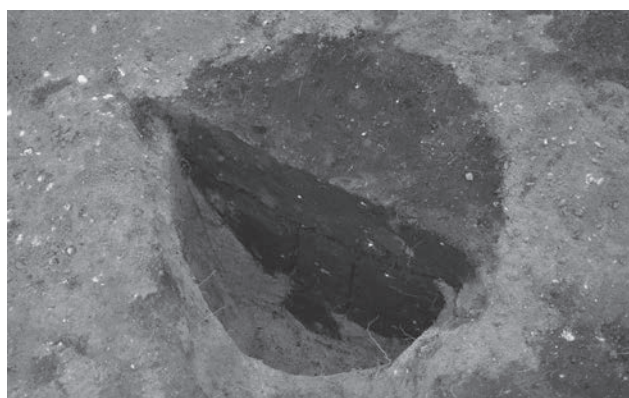




F3 完掘状況



F5 完掘状況



F1-P3 土層断面



F2-P8 土層断面



F3-P6 土層断面





M1 完掘状況



M3 完掘状況



D1 完掘状況



D3 完掘状況



D5 完掘状況



D6 完掘状況



D7 完掘状況



D8 完掘状況





D9 完掘状況



D10 完掘状況



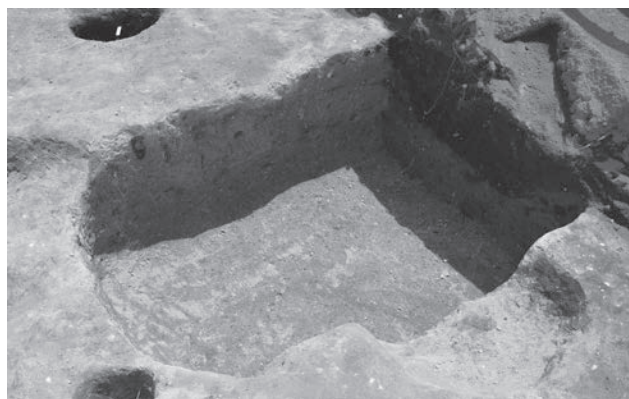
D11 完掘状況



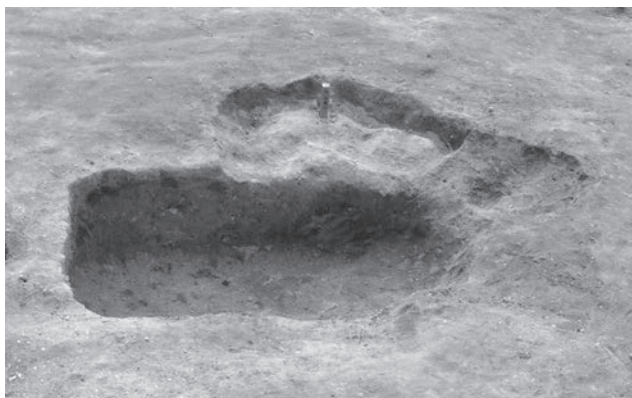
D13 完掘状況



D15 完掘状況



D17 完掘状況



D18・D19 完掘状況



D10～D19 付近完掘状況





D20・D21 完掘状況



D22・D23 土層断面



D24・D25 完掘状況



D24～D26 土層断面



D27 完掘状況



D28・D34 完掘状況

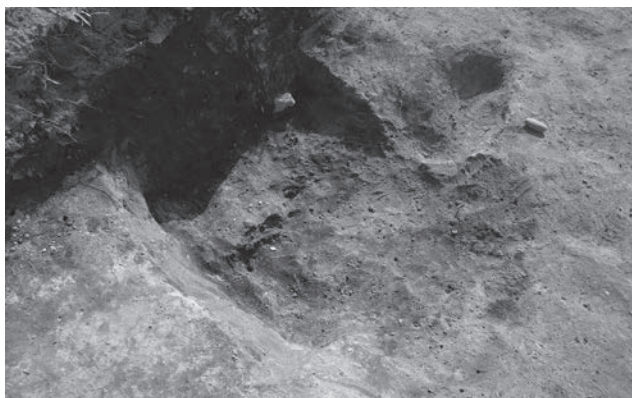


D28・D29 付近完掘状況



D31 完掘状況





D30 灰検出状況



D30 完掘状況



D33 土層断面



D36 完掘断面



D37 完掘断面



D64・D65 完掘断面



D66 完掘断面



D24～D66 付近完掘状況

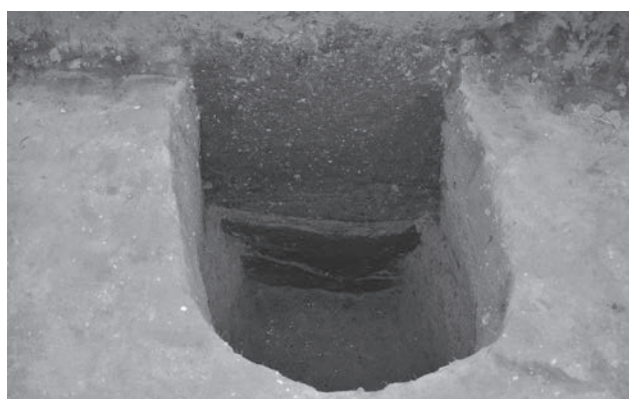




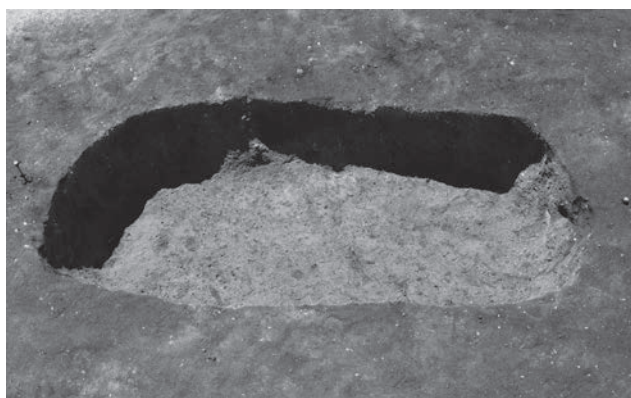
D45 完掘状況



D32・D50・D51 完掘断面



D38 完掘断面



D41 完掘断面



D42 土層断面

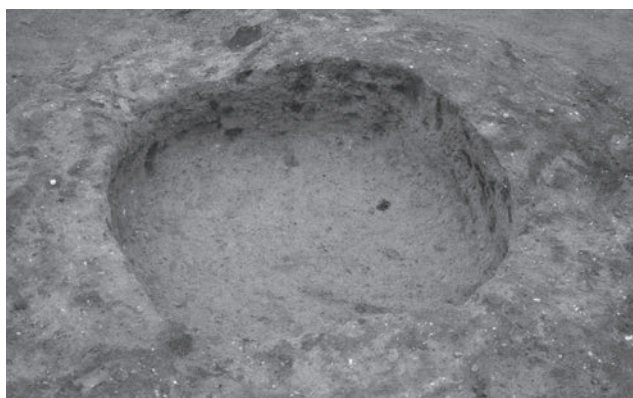




D52 土層断面



D53 完掘状況



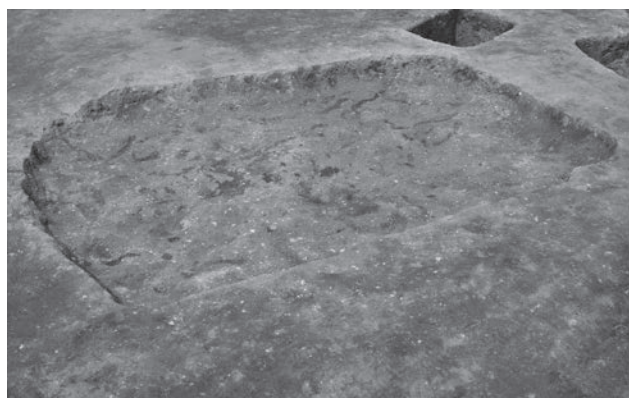
D55 完掘状況



D56 完掘状況



D57・D58 完掘状況、D59 土層断面



D60 完掘状況



D69 完掘状況

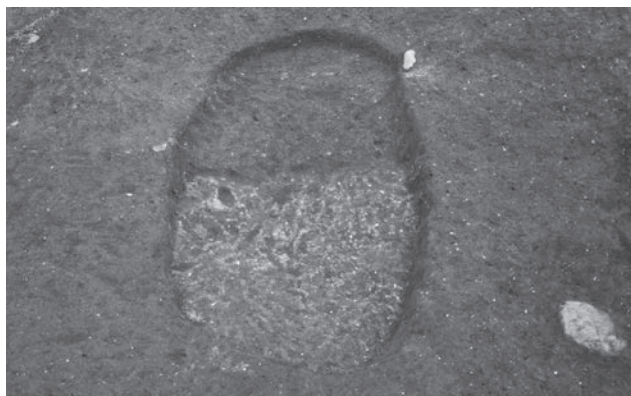


D70 完掘状況





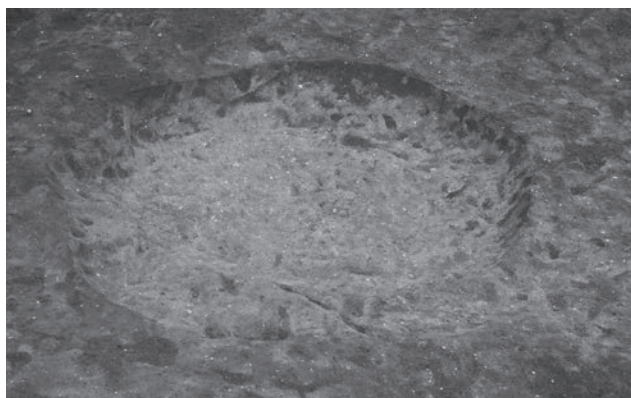
D71 遺物出土状況



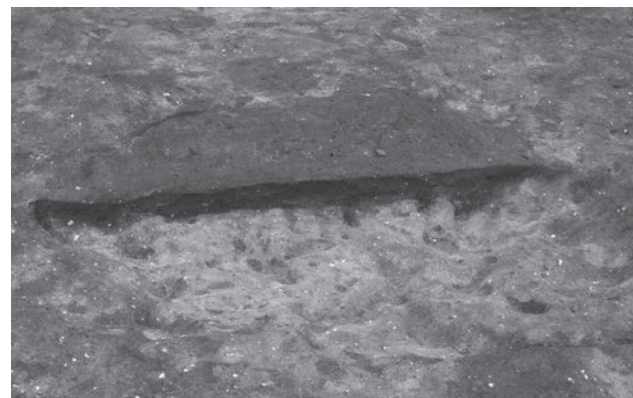
D71 完掘状況



D72 土層断面



D73 完掘状況



D74 土層断面





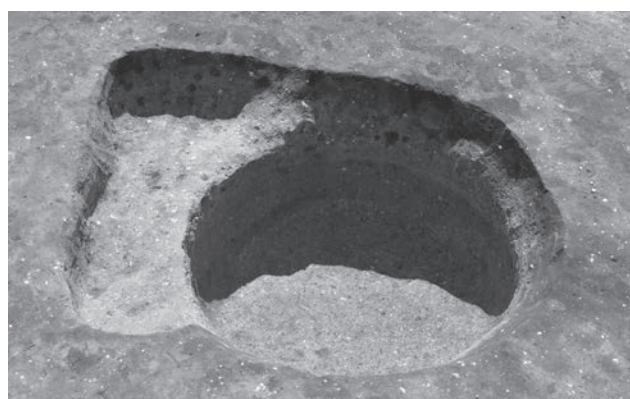
D75 完掘状況



D76・D77 完掘状況



D78・D79 土層断面



D78・D79 完掘状況



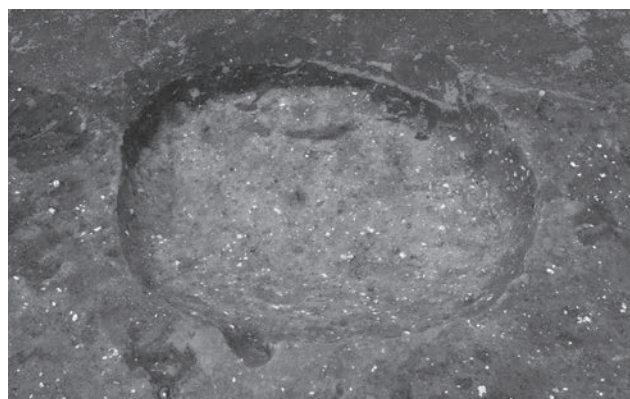
D80・D81・D82 完掘状況



D83・D84 土層断面

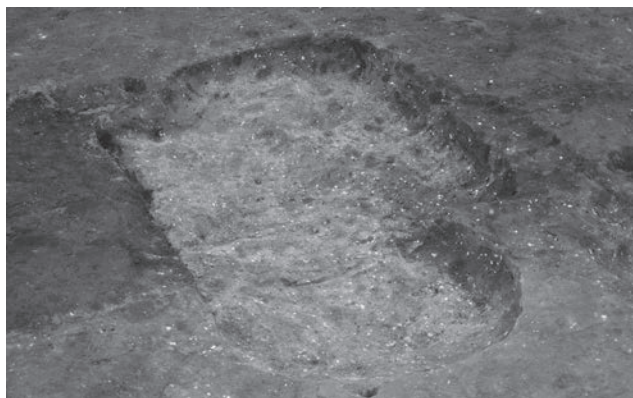


D83・D84 完掘状況

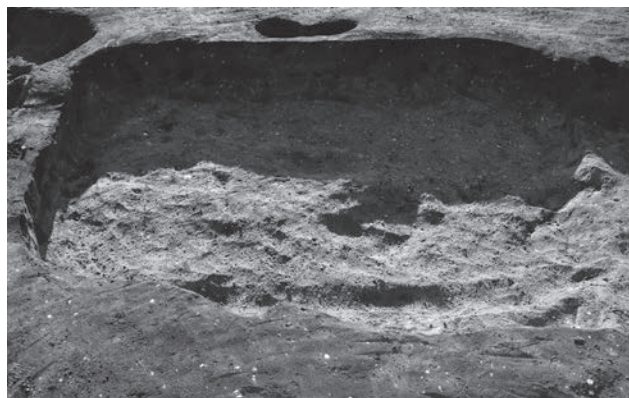


D85 完掘状況

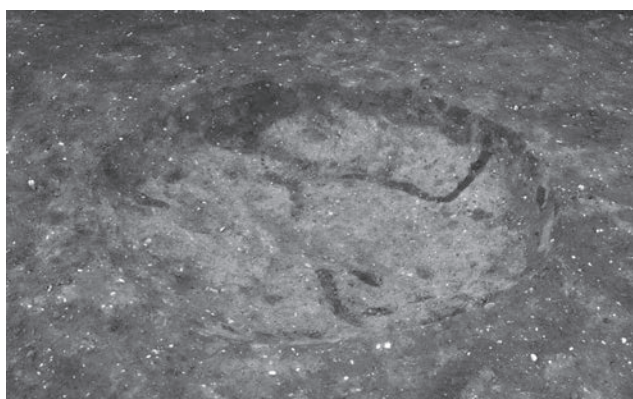




D86 完掘状況



D87 完掘状況



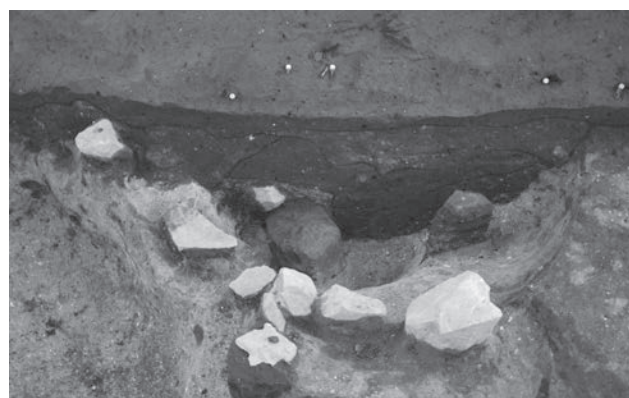
D88 完掘状況



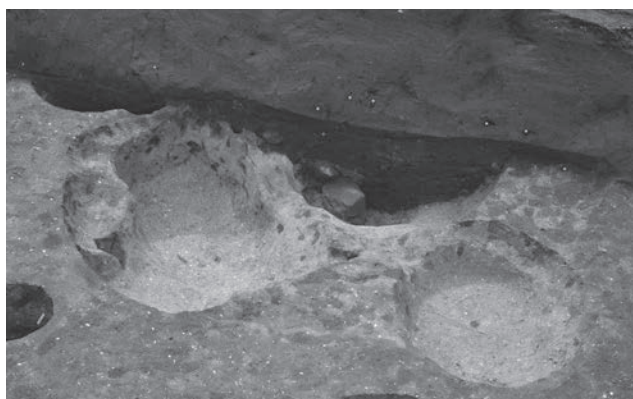
D89 完掘状況



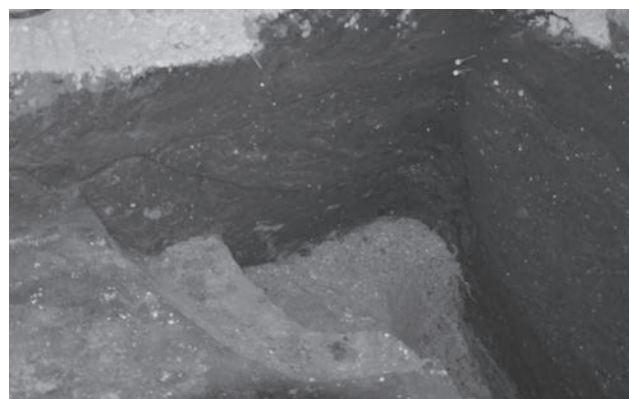
D90 完掘状況



D91 完掘状況



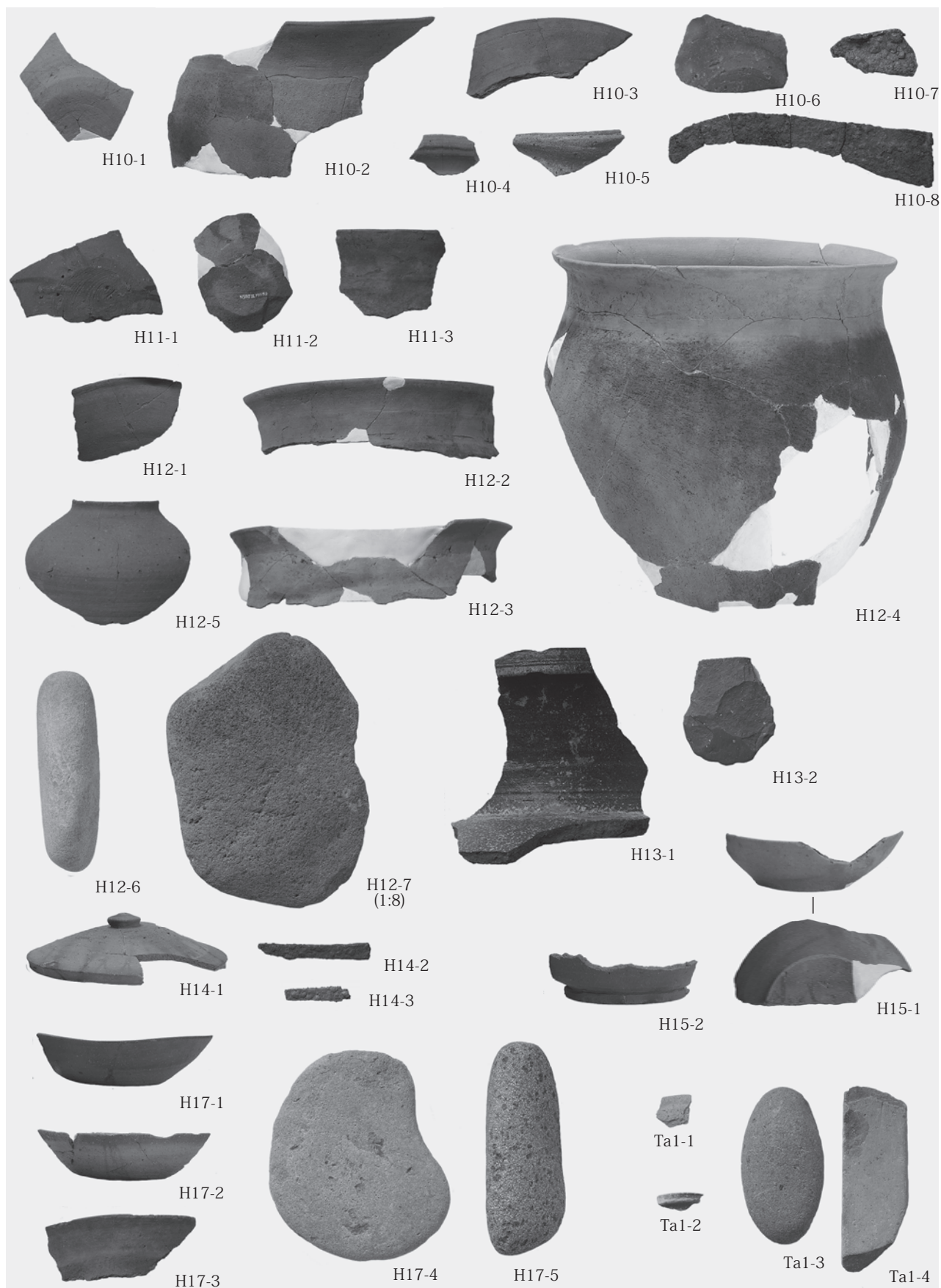
D90・D91・D92 完掘状況

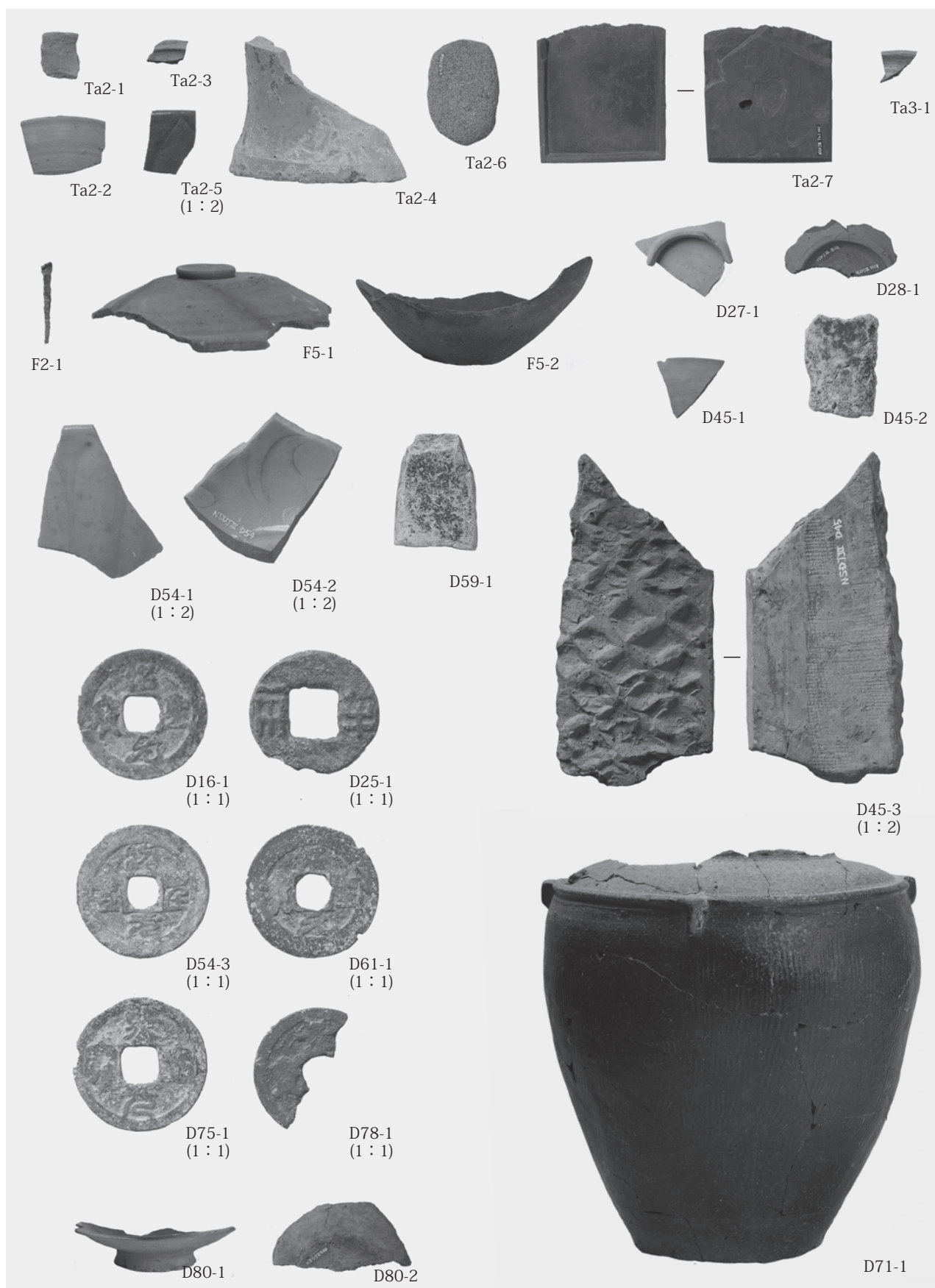


D97 完掘状況









# 報告書抄録

ふ り が な	すぼうばたいせきぐん どうじょういせきさん							
書 名	周防畑遺跡群 道常遺跡Ⅲ							
シ リ ー ズ 名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シ リ ー ズ 番号	第 257 集							
編 著 者 名	久保 浩一郎							
編 集 機 関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所 在 地	長野県佐久市中込 2913 Tel:0267-63-5321 Fax:0267-63-5322							
発 行 年 月 日	平成 30 年 (2018) 11 月							
ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふ り が な 所 在 地	コ ー ド 市 町 村 遺跡番号		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 積 面 ( m <sup>2</sup> )	調 査 原 因
すぼうばたいせきぐん どうじょういせきさん 周防畑遺跡群 道常遺跡Ⅲ	さくしながとろ 佐久市長土呂 1248-1 外	20217	7	36° 17′ 00″	138° 27′ 35″	20170721 ～ 20171020	1,352	高齢者 向け住 宅建設
所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物			特 記 事 項	
周防畑遺跡群 道常遺跡Ⅲ	集 落 址	奈良・平安時代 中 世	堅 穴 住 居 址 15 軒 堅 穴 状 遺 構 5 基 掘 立 柱 建 物 址 6 軒 溝 址 4 条 土 坑 98 基 ピ ッ ト 451 基	弥生土器、土師器、須恵器、 灰釉陶器、古瀬戸、青磁、 石器、石製品、鉄製品、銅銭、 瓦				
要 約	佐久市北部の田切り台地上、標高 700m 内外に展開する奈良・平安時代～中世の集落址である。8～9 世紀を主体とする堅穴住居址、13～14 世紀と考えられる中世の堅穴状遺構等が検出された。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 257 集

周防畑遺跡群 道常遺跡Ⅲ

平成 30 年 (2018) 11 月

編集・発行 佐久市教育委員会事務局

〒385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込 2913

Tel:0267-63-5321

印刷所 キクハラインク有限会社